

目次

I. 調査の概要	1
【適合度の検定】	3
II. 調査結果	5
◇回答者のプロフィール	5
1. 男女平等と人権の尊重について	7
(1)さまざまな場における男女の地位の平等意識(問2)	7
(2)男女平等や男女共同参画をテーマとする話題の関心度(問3)	10
(3)男女平等や男女共同参画についての会話、学習の経験(問4:複数回答)	11
(4)男女の人権が尊重されていないと感じる内容(問5:複数回答)	13
2. 家庭生活全般について	15
(1)家庭内の仕事の分担状況(問6-(1))	15
(2)家庭内の仕事の役割分担で変更したいこと(問6-(2):3つまで)	18
(3)「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方に対する意識(問7)	20
3. 子育て・教育について	21
(1)子どもが減少する理由(問8:3つまで)	21
(2)子育てに関する相談内容で充実して欲しいこと(問9:3つまで)	23
(3)子どものしつけや教育に対する意識(問10)	25
(4)将来に向けての子どもの育ち方(問11:3つまで)	27
(5)子育てに関する父親と母親の役割(問12)	28
4. 仕事や職業観について	29
(1)女性の就労に対する考え方(問13:3つまで)	29
(2)女性が就労で能力を発揮するための方策(問14:3つまで)	31
(3)「女性の自立」とは、どのようなこと(問15)	33
(4)女性の就労継続上での障害(問16:3つまで)	34
(5)就労している理由(問17:複数回答)	36
(6)就労していない理由(問18:複数回答)	38
5. 家庭生活や介護について	40
(1)男性の「育児休業」、「介護休業」取得に対する意識(問19)	40
(2)男性が「育児休業」、「介護休業」をあまり取らない理由(問20:複数回答)	42
(3)「育児休業」、「介護休業」のとりやすさ(問21)	44
(4)豊かな老後を送るための方策(問22:複数回答)	45
(5)介護が必要になった際に希望する介護者等(問23)	47
(6)介護保険制度に必要なもの(問24:3つまで)	48
6. 地域活動について	50
(1)地域活動への参加状況、今後の参加意向(問25:複数回答)	50
(2)地域活動に参加するための支障、又は参加していない理由(問26:複数回答)	52
7. 健康管理について	54
(1)健康診断やがん検診の受診状況(問27-(1))	54
(2)健康診断やがん検診を受診していない理由(問27-(2):3つまで)	55

8. 男女間の暴力などについて	57
(1) 女性に対する暴力を見聞きした経験(問 28:複数回答).....	57
(2) 「ドメスティック・バイオレンス」の認知状況等(問 29:複数回答).....	59
(3) 「セクシャル・ハラスメント」見聞き・被害経験(問 30:複数回答).....	61
(4) DVやセクハラをなくすための方策(問 31:複数回答).....	63
(5) メディアにおける性・暴力表現に対する意識(問 32:複数回答).....	65
(6) DV相談機関の認知状況(問 33:複数回答).....	67
9. 市に要望する施策について	69
(1) 男女共同参画に関する関連用語等の認知状況(問 34).....	69
(2) 男女共同参画社会のための本市の施策(問 35:3つまで).....	73
(3) 市や県に相談したい内容(問 36:3つまで).....	75
(4) 男女共同参画に関する意見・要望(自由意見).....	77
■ 調 査 票	83

I. 調査の概要

【調査目的】

宇城市在住の 20 歳以上の市民を対象に、男女共同参画に対する意識・関心、家庭や職場などでの男女共同参画の状況などを定量的に把握し、今後の施策推進のための基礎資料とする目的で実施した。

【調査地域】

宇城市全域

【調査対象】

宇城市に住民票を有す 20 歳以上の男女

【調査方法】

郵送法

【対象者抽出方法】

住民基本台帳から無作為抽出

【サンプル数（配布数・回答数）】

配布数	2,000 サンプル
有効回答数	803 サンプル
有効回答率	40.15%

【実施時期】

平成 17 年 11 月 15 日（火）～平成 17 年 12 月 28 日（水）

【調査企画と調査実施機関】

企画：宇城市 総務部 人権啓発課

実施：(株) 西日本リサーチセンター

※調査結果利用上の注意

- ①図表中のNは回答者全員、nは限定された回答者の数(母数)であり、回答率(%)の分母である。
- ②回答率は百分比の小数以下第2位を四捨五入しているので、合計が 100%にならない場合がある。
- ③2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は原則として 100%を超える。
- ④複数の回答率の総和は、回答者の実数の総和から算出した数値を端数処理しているため、図表中の回答率の総和とは一致しない場合がある。
- ⑤数表での単位は上段が%、下段が実数を示す。
- ⑥数表、図表中の「―」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- ⑦付問は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- ⑧数表、図表は、スペースの都合上、文言を省略している場合がある。文言の詳細は巻末の調査票を参照のこと。

【適合度の検定】

本調査の標本は有意抽出法(性別・年齢割当法)により抽出されているため、調査結果は調査対象集団(母集団)の縮図になっているはずである。しかしながら、調査の過程で標本の一部には回答を得られなかったものもあり、場合によっては調査対象集団(母集団)の縮図にならないこともあり得る。そこで、得られた対象集団が調査対象集団(母集団)の縮図とみなすことができるかどうかの検討(適合度の検定)を行うため、行政区別、性別、年齢別について χ^2 (カイ2乗)検定を行った。

カイ2乗検定では、以下に示す数式で求めた値と、表の自由度(F)と許せる危険率(有意水準と呼ぶこともある)に対応する χ^2 の値を比較し、統計学的な有意性があるかどうかを判定する。下の表は、カテゴリー(項目数)の数から1を差し引いた数を自由度(F)とし、その自由度に対する χ^2 の値よりも計算された χ_0^2 の値が大きくなる確率 $\Pr(\chi^2 \geq \chi_0^2)$ を示したものである。

$$\chi_0^2 \text{ (理論と実際の食い違いの測定)} = \frac{(\text{期待値} - \text{実現値})^2}{\text{期待値}} \text{ の総和}$$

■ χ^2 の分布表 (一部)

χ^2 \ p	.99	.98	.95	.90	.80	.50	.20	.10	.05	.02	.01
1	0.000157	0.000628	0.00393	0.0158	0.0642	0.455	1.642	2.706	3.841	5.412	6.635
2	0.0201	0.0404	0.103	0.211	0.446	1.386	3.219	4.605	5.991	7.824	9.210
3	0.115	0.185	0.352	0.584	1.005	2.366	4.642	6.251	7.815	9.837	11.345
4	0.297	0.429	0.711	1.064	1.649	3.357	5.989	7.779	9.488	11.668	13.277
5	0.554	0.752	1.145	1.610	2.343	4.351	7.289	9.236	11.070	13.388	15.086
6	0.872	1.134	1.635	2.204	3.070	5.348	8.558	10.645	12.592	15.033	16.812
7	1.239	1.564	2.167	2.833	3.822	6.346	9.803	12.017	14.067	16.622	18.475
8	1.646	2.032	2.733	3.490	4.594	7.344	11.030	13.362	15.507	18.168	20.090
9	2.088	2.532	3.325	4.168	5.380	8.343	12.242	14.684	16.919	19.679	21.666
10	2.558	3.059	3.940	4.865	6.179	9.342	13.442	15.987	18.307	21.161	23.209

(以下省略)

※ p = 危険率水準

F = 自由度 (カテゴリー数 - 1)

世論調査では危険率を5% (0.05) とするのが一般的であり、計算された χ_0^2 の値が P:0.01 に対応する χ^2 の値以下になれば、統計的にみて「危険率1%で有意ではない」とする。(帰無仮説)

統計的検定では、帰無仮説(論理的に逆の仮説)の起こる確率を調べ、その確率が χ^2 より低い時に帰無仮説を棄却し、代わりに対立仮説(論理的な仮説)を支持するという手順で進められる。

■標本の実測値と期待値（検定）

		実測値(回答値)		期待値	母集団 (平成17年10月25日現在)		X
		実数	比率		実数	比率	
性別	女性	463	57.6	432	27,935	53.8	2.17
	男性	341	42.4	372	24,010	46.2	2.52
	計	804	100.0	804	51,945	100.0	4.69
年代別	20～29歳	74	9.2	110	7,126	13.7	11.94
	30～39歳	98	12.2	106	6,853	13.2	0.61
	40～49歳	125	15.5	123	7,933	15.3	0.04
	50～59歳	188	23.4	154	9,919	19.1	7.74
	60～69歳	158	19.7	121	7,824	15.1	11.24
	70歳以上	161	20.0	190	12,290	23.7	4.49
	計	804	100.0	804	51,945	100.0	36.06
性・年代別	女性計	462	57.5	432	27,935	53.8	2.11
	20～29歳	50	6.2	56	3,596	6.9	0.56
	30～39歳	62	7.7	54	3,509	6.8	1.11
	40～49歳	67	8.3	63	4,075	7.8	0.25
	50～59歳	106	13.2	77	4,978	9.6	10.96
	60～69歳	86	10.7	65	4,181	8.0	7.06
	70歳以上	91	11.3	117	7,596	14.6	5.95
	男性計	341	42.4	371	24,010	46.2	2.45
	20～29歳	24	3.0	55	3,530	6.8	17.12
	30～39歳	36	4.5	52	3,344	6.4	4.76
	40～49歳	57	7.1	60	3,858	7.4	0.12
	50～59歳	82	10.2	76	4,941	9.5	0.41
	60～69歳	72	9.0	56	3,643	7.0	4.37
	70歳以上	70	8.7	73	4,694	9.0	0.09
	計	803	100.0	804	51,945	100.0	57.32

検定の結果、対象者の性別の場合 χ^2_0 値は 4.69 で、 $\chi^2_0 > \chi^2_{0.01}$ ($=3.841$) であることから、性別は代表性をもっていないとみなすことができる。同様に、対象者の年齢別においても χ^2_0 の値は 36.06 で、 $\chi^2_0 > \chi^2_{0.01}$ ($=11.070$) であり、代表性をもっていない。

そのため、本調査が本市の母集団の縮図になるように性別・年代別にウェイト(=「本来あるべき性・年齢構成」)を掛け、母集団に適合させた。

※ウェイト値は以下の通りである。

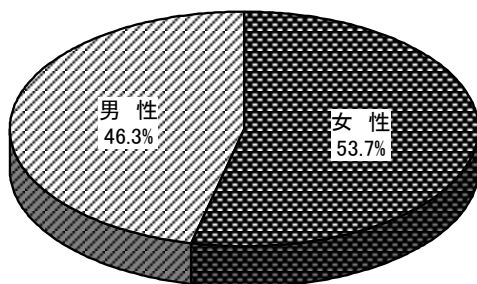
	男 性						女 性					
	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
ウェイト値(r)	1.120	0.871	0.940	0.726	0.756	1.275	2.292	1.444	1.053	0.927	0.778	1.043

Ⅱ. 調査結果

◇回答者のプロフィール

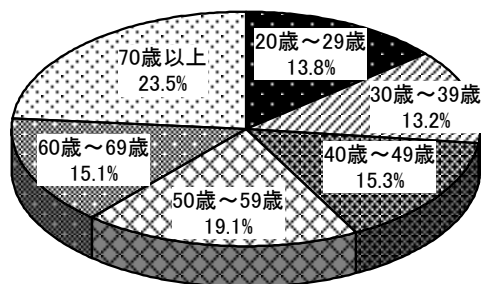
- 回答者の性・年齢構成比は、母集団に合わせている。
- お住まいは、「松橋町」が全体の4割で最も多く、以下「小川町」、「不知火町」、「三角町」と続く。
- 配偶者の有無は、「いる」が全体の7割を占める。
- 家族構成は「親と子(2世代世帯)」、一番下の子どもは「中学生以上」が最も多い。
- 「自営業」が 20.6%、「勤め人」が 40.3%、「その他」が 37.2%であり、「管理職以外の一般社員・職員」が4人中1人を占め最も多い。

性 別



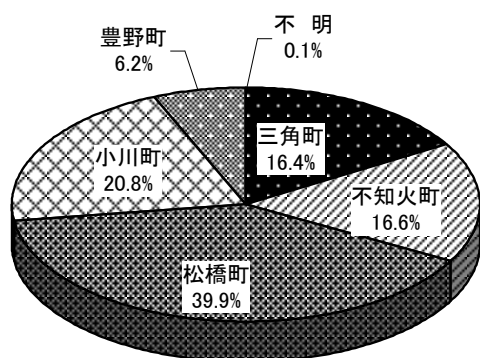
全体 (N=803)

年 齢



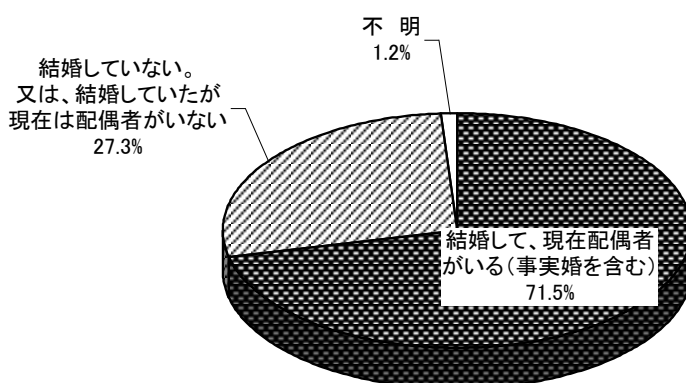
全体 (N=803)

お住まい



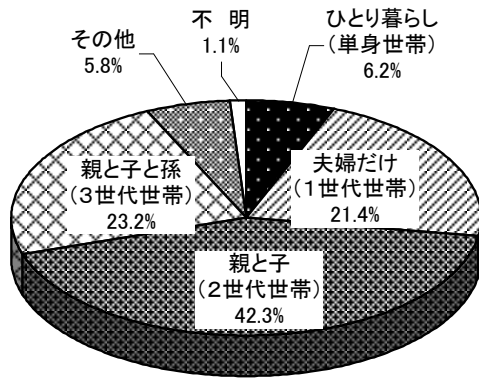
全体 (N=803)

配偶者の有無



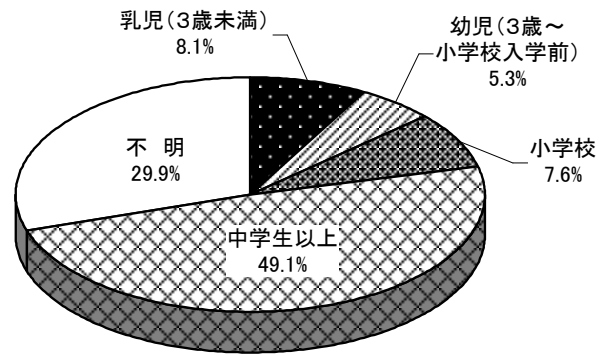
全体 (N=803)

家族構成



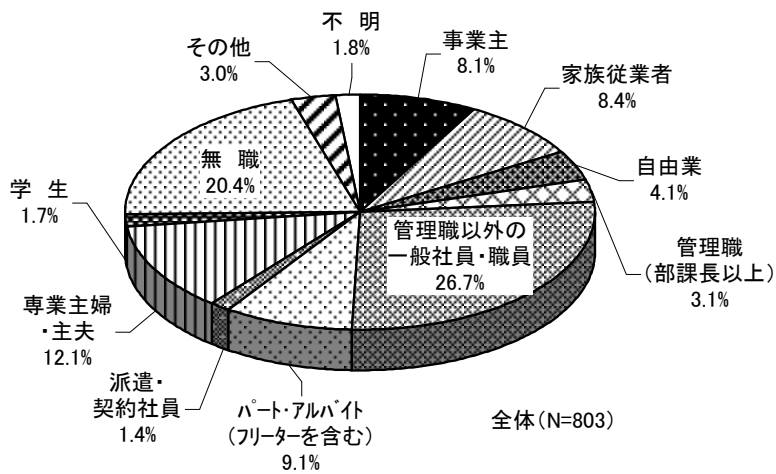
全体 (N=803)

一番下の子ども年齢



全体 (N=803)

職 業



全体 (N=803)

1. 男女平等と人権の尊重について

(1) さまざまな場における男女の地位の平等意識 (問2)

問2. (1)～(8)の分野で、男性と女性に平等であると思いますか。(○はそれぞれ1つつ)

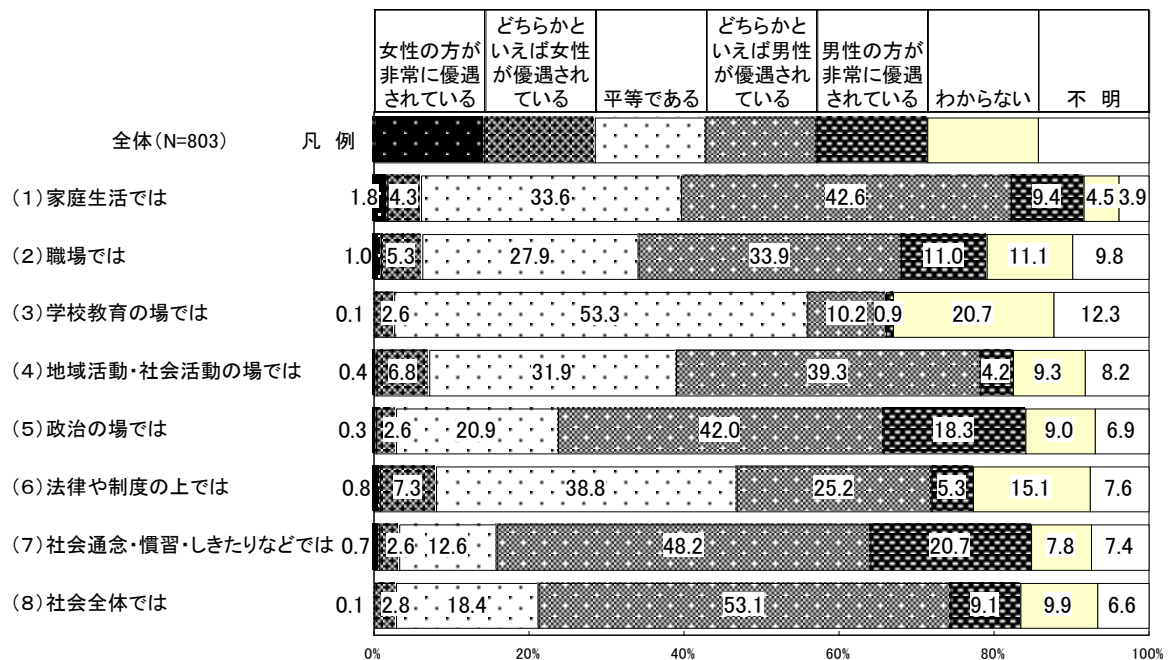
- 『男性優遇派』(=「男性が優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)の比率が高いのは、「地域社会の通念・慣習・しきたり」、「社会全体」、「政治の場」、「家庭生活」。
- 男性はいずれの分野でも「平等である」と考える人の比率が女性に比べて高い。

さまざまな場における男女の地位の平等意識をみると、『男性優遇派』(=「男性が優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)の比率が高い順に「社会通念・慣習・しきたり」(68.9%)、「社会全体」(62.2%)、「政治の場」(60.3%)、「家庭生活」(52.0%)となっている。

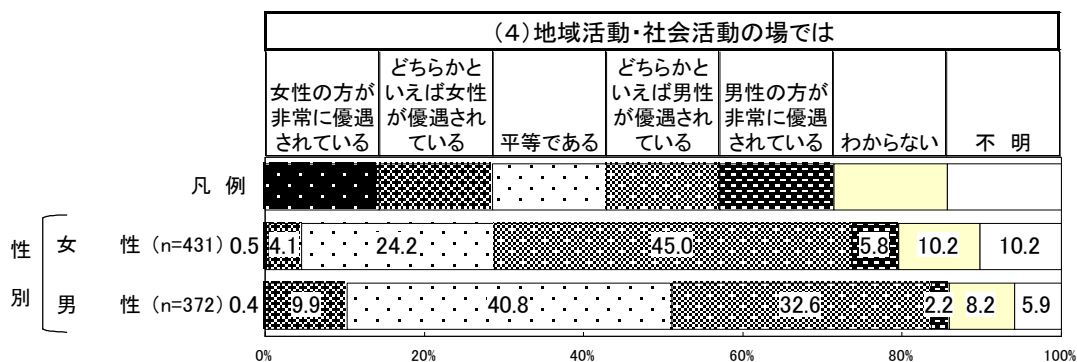
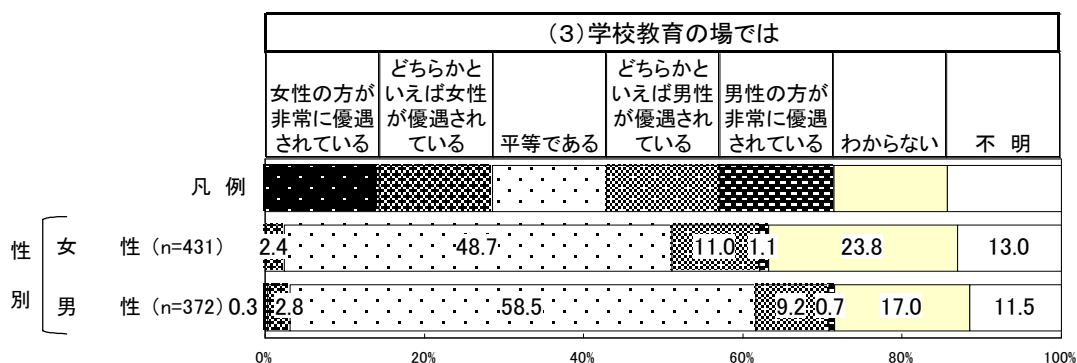
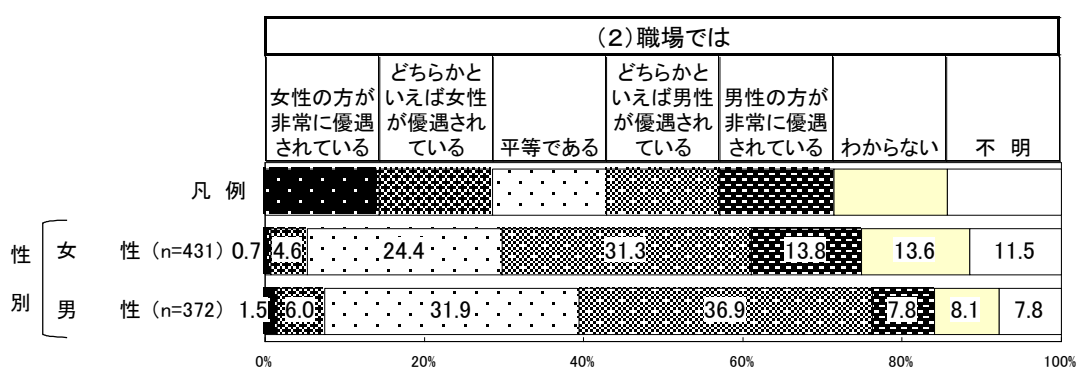
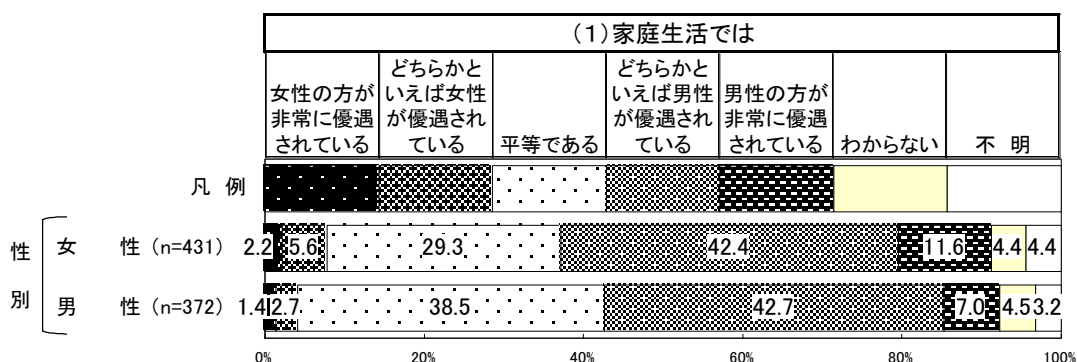
性別にみると、男性はいずれの分野でも「平等である」と考える人の比率が女性に比べて高い。特に「法律や制度」ではその比率差が18.7ポイント(男性:48.8%、女性:30.1%)となっている。

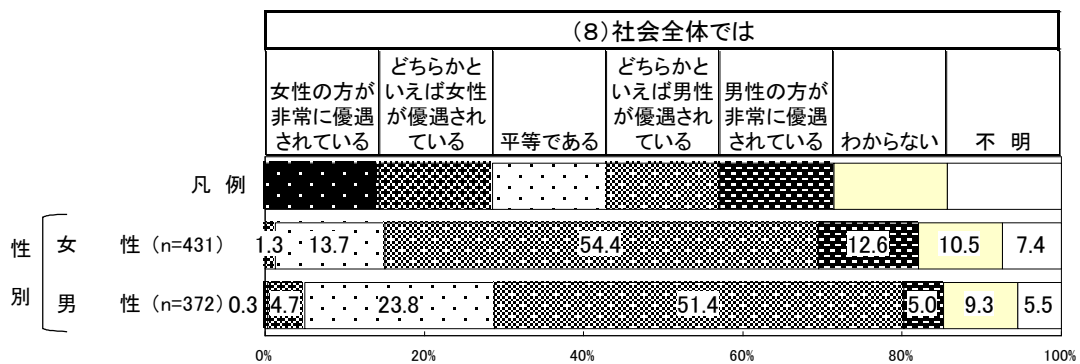
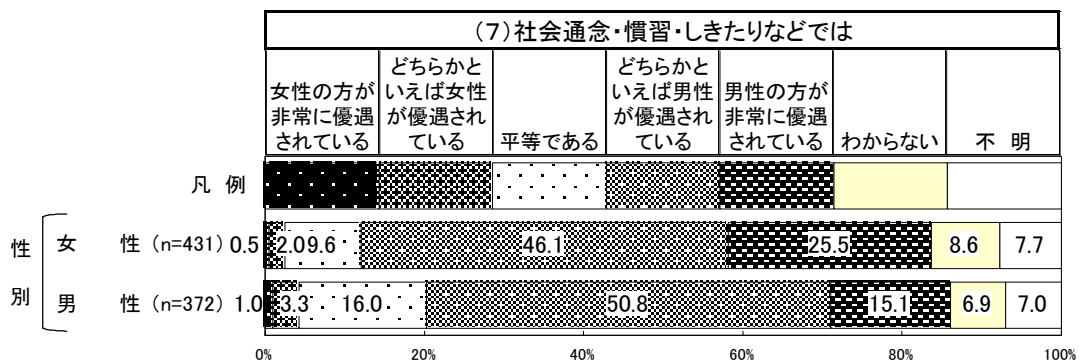
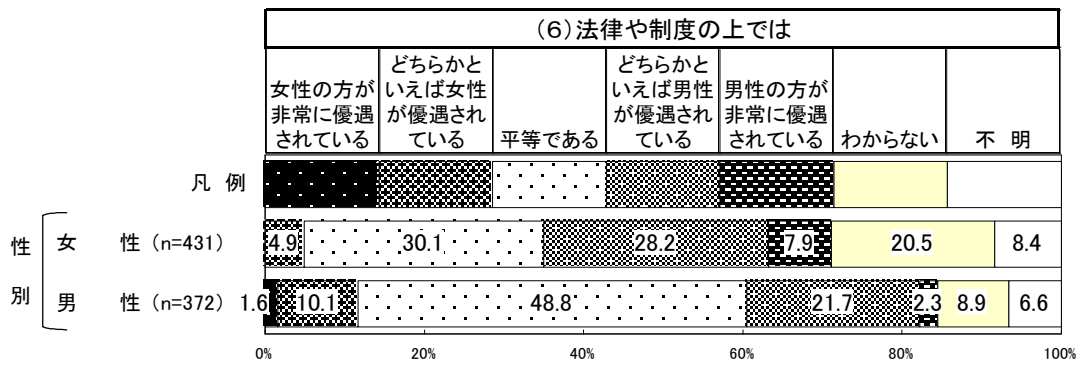
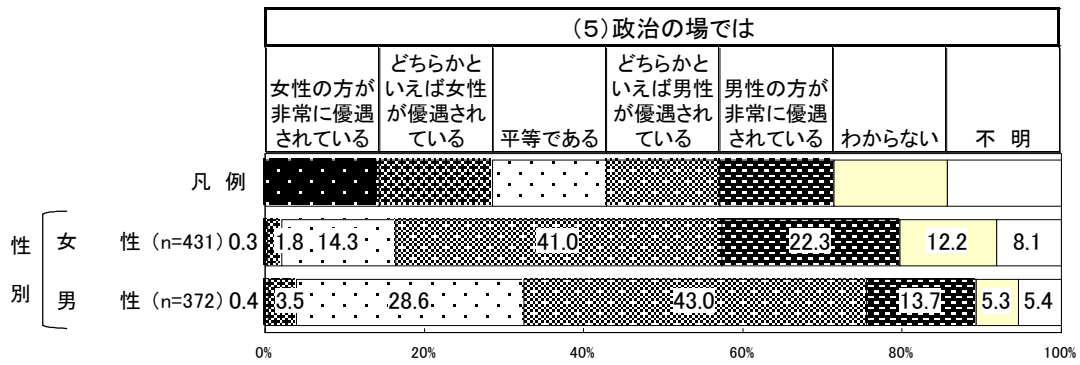
いわゆる、どの分野においても男女の意識差が明確に表れている。

さまざまな場における男女の地位の平等意識(全体)



さまざまな場における男女の地位の平等意識(性別)





(2) 男女平等や男女共同参画をテーマとする話題の関心度 (問3)

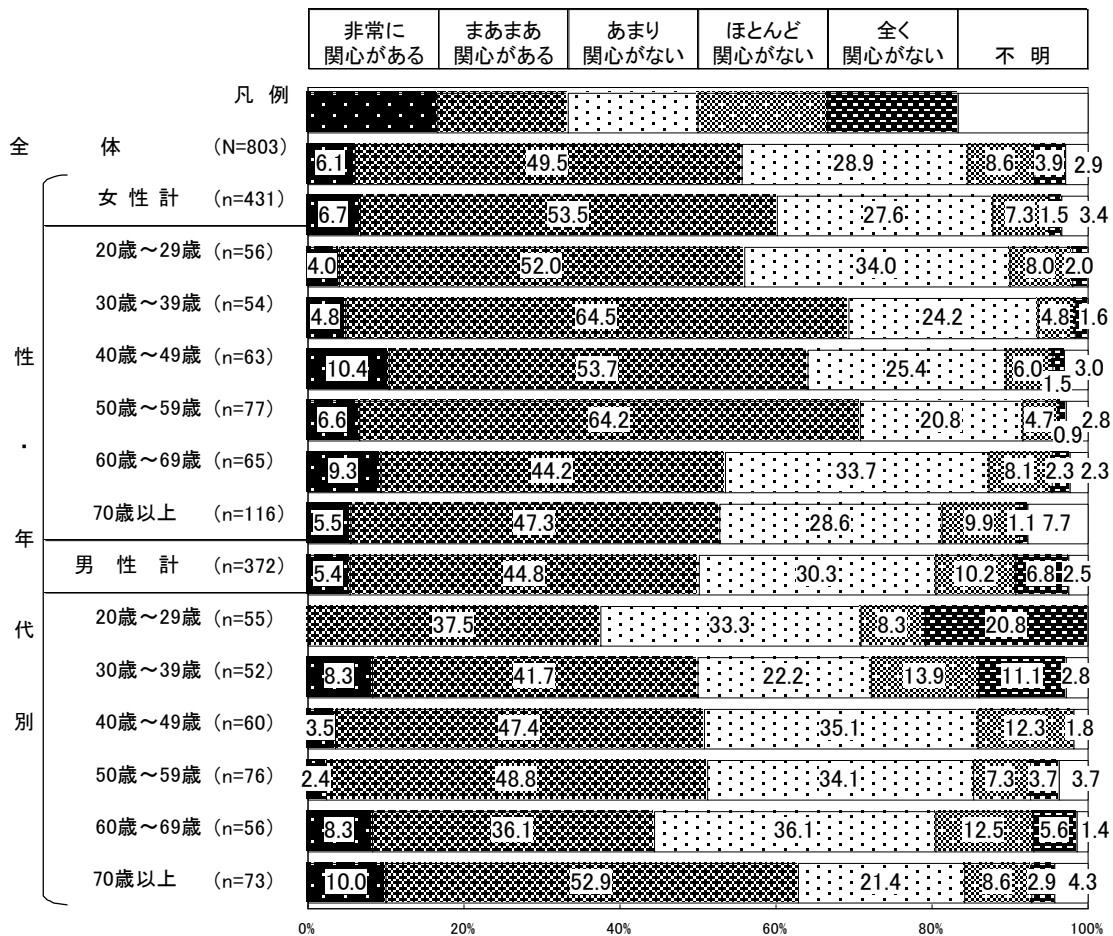
問3. あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

- 男女における関心度に差があり、女性の『関心派』が男性の『関心派』を上回っている。
- 特に、女性 30～50 代の関心度が高く、逆に男性 20 代は『非関心派』が『関心派』を上回る。

男女平等や男女共同参画をテーマとする話題の関心度をみると、「非常に関心がある」が 6.1%、「まあまあ関心がある」が 49.5%でこれらを合計した『関心派』が過半数を占め、「あまり関心がない」(28.9%)、「ほとんど関心がない」(8.6%)、「全く関心がない」(3.9%)をあわせた『非関心派』(41.4%)を上回っている。

性・年代別にみると、男性の『関心派』に比べ女性の『関心派』が多く、その比率差は 10.0 ポイント(男性:50.2%、女性:60.2%)となっている。また、女性 30～50 代は『関心派』が7割程度を占め相対的に高いのに対し、男性 20 代の『関心派』は4割弱(37.5%)で唯一、『非関心派』が関心派を上回っている。

男女平等や男女共同参画をテーマとする話題の関心度(性・年代別)



(3) 男女平等や男女共同参画についての会話、学習の経験（問4：複数回答）

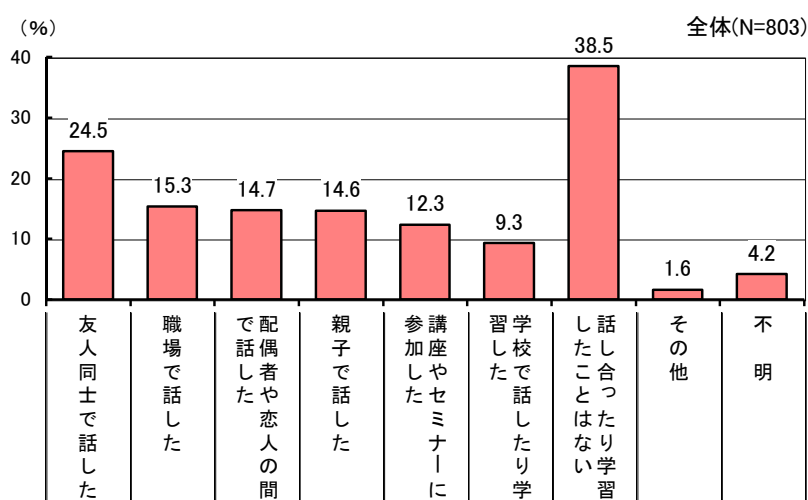
問4. あなたは、これまでに男女平等や男女共同参画について、話し合ったり学習したりしたことがありますか。（○はいいくつでも）

- 「友人同士」、「職場」、「配偶者や恋人」、「親子」など、比較的身の回りでの経験が中心。
- 年代により回答傾向が異なるが、中でも女性 50 代は話し合い等の経験率、講座やセミナーに参加率が最も高い。

男女平等や男女共同参画の話し合いや学習経験をみると、「友人同士で話した」が 24.5%で最も高く、次いで「職場で話した」(15.3%)、「配偶者や恋人の間に話した」(14.7%)、「親子で話した」(14.6%)、「講座やセミナーに参加した」(12.3%)となり、比較的身の回りでの経験が中心である。なお、「話しあったり、学習したことはない」と答える人は約4割(38.5%)を占める。

性・年代別にみると、話し合いや学習経験では女性が男性を上回っており、女性は男性に比べ「友人同士で話した」という割合が高い。また、男女とも 20 代は「学校」が中心であり、男女とも年齢が高くなるほど「友人同士」の依存度が高い。なお、総体的に女性 50 代の話し合い等の経験率が最も高く、特にこの年代は「講座やセミナーに参加した」人が約3割を占める。

男女平等や男女共同参画についての会話、学習の経験(全体)



男女平等や男女共同参画についての会話、学習の経験(性・年代別)

(上段:%, 下段:実数)

		サ ン プ ル 数	友 人 同 士 で 話 し た	職 場 で 話 し た	話 配 し た 偶 者 や 恋 人 の 間 で	親 子 で 話 し た	加 講 し 座 や セ ミ ナ ー に 参	学 校 で 話 し た り 学 習	話 し 合 つ た り 学 習 し た こ と は な い	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	24.5 197	15.3 123	14.7 118	14.6 117	12.3 99	9.3 75	38.5 309	1.6 13	4.2 34
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	31.3 135	14.6 63	14.8 64	17.2 74	14.6 63	10.4 45	33.6 145	2.1 9	4.9 21
	20歳～29歳	100.0 56	26.8 15	7.1 4	7.1 4	16.1 9	10.7 6	50.0 28	30.4 17	1.8 1	1.8 1
	30歳～39歳	100.0 54	31.5 17	27.8 15	35.2 19	18.5 10	13.0 7	5.6 3	27.8 15	— —	— —
	40歳～49歳	100.0 63	22.2 14	22.2 14	15.9 10	23.8 15	12.7 8	14.3 9	38.1 24	3.2 2	1.6 1
	50歳～59歳	100.0 77	40.3 31	26.0 20	20.8 16	20.8 16	29.9 23	3.9 3	22.1 17	1.3 1	2.6 2
	60歳～69歳	100.0 65	33.8 22	12.3 8	7.7 5	7.7 5	12.3 8	1.5 1	44.6 29	1.5 1	3.1 2
	70歳以上	100.0 116	31.9 37	0.9 1	7.8 9	16.4 19	9.5 11	— —	37.1 43	3.4 4	12.9 15
	男 性 計	100.0 372	16.7 62	16.1 60	14.5 54	11.6 43	9.7 36	8.3 31	44.1 164	1.1 4	3.5 13
	20歳～29歳	100.0 55	12.7 7	3.6 2	3.6 2	3.6 2	3.6 2	20.0 11	54.5 30	— —	— —
	30歳～39歳	100.0 52	11.5 6	32.7 17	11.5 6	1.9 1	11.5 6	17.3 9	26.9 14	1.9 1	5.8 3
	40歳～49歳	100.0 60	10.0 6	20.0 12	21.7 13	10.0 6	18.3 11	10.0 6	48.3 29	— —	1.7 1
	50歳～59歳	100.0 76	17.1 13	19.7 15	19.7 15	9.2 7	9.2 7	2.6 2	42.1 32	1.3 1	5.3 4
	60歳～69歳	100.0 56	21.4 12	14.3 8	10.7 6	16.1 9	10.7 6	3.6 2	53.6 30	— —	3.6 2
	70歳以上	100.0 73	24.7 18	8.2 6	17.8 13	23.3 17	5.5 4	1.4 1	39.7 29	2.7 2	5.5 4

(4) 男女の人権が尊重されていないと感じる内容（問5：複数回答）

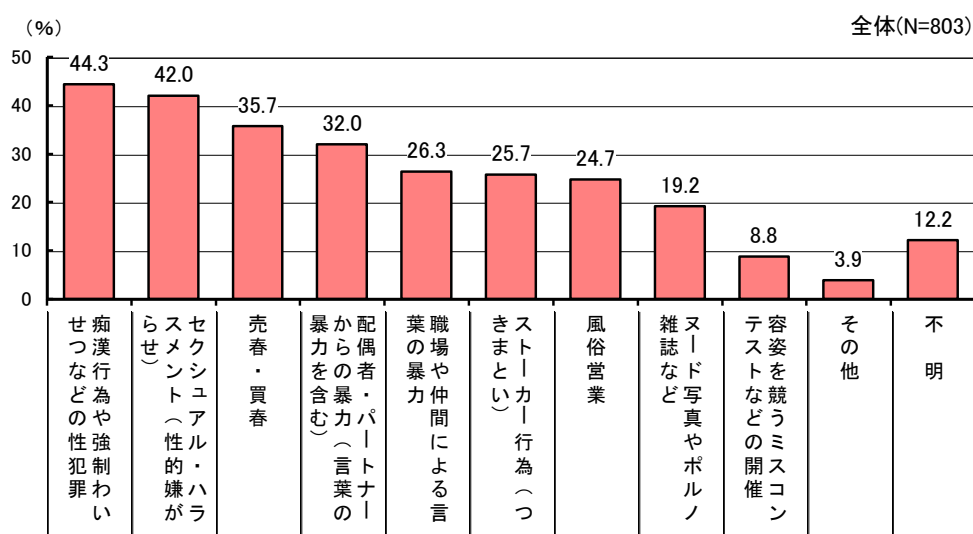
問5. あなたが、男性及び女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。
(○はいくつでも)

- 「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、「セクシャル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」、「売春、買春」などが上位にあがっている。
- 特に、上位3項目は性別による差はほとんどみられないが、女性の場合、性に関する犯罪や嫌がらせ等に関する割合が高い。

男女の人権が尊重されていないと思う内容を見ると、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」が44.3%で最も高く、次いで「セクシャル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」(42.0%)、「売春、買春」(35.7%)、「配偶者・パートナーからの暴力(言葉の暴力を含む)」(32.0%)となっている。

性・年代別にみると、男女とも全体的な傾向はかわらないが、女性は「セクシャル・ハラスメント」、男性は「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」を第1にあげている。また、女性の場合、性に関する犯罪や嫌がらせ等に関する割合が高い。

男女の人権が尊重されていないと感じる内容(全体)



男女の人権が尊重されていないと感じる内容(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

	サンプル数	痴漢行為や強姦などの性犯罪	セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	売春・買春	暴力を含む配偶者の暴力(パートナーからの暴力)	職場や仲間による言葉の暴力	ストーカー行為(つきまとい)	風俗営業	雑誌など写真やポルノ	テロを競うミスコ	その他	不明
全 体	100.0 803	44.3 356	42.0 337	35.7 287	32.0 257	26.3 211	25.7 206	24.7 198	19.2 154	8.8 71	3.9 31	12.2 98
性・年代別	女 性 計	100.0 431	40.6 175	41.8 180	37.4 161	33.6 145	26.9 116	24.6 106	19.5 84	8.6 37	4.2 18	13.0 56
	20歳～29歳	100.0 56	55.4 31	64.3 36	42.9 24	37.5 21	21.4 12	33.9 19	28.6 16	14.3 8	3.6 2	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 54	57.4 31	59.3 32	44.4 24	29.6 16	37.0 20	25.9 14	20.4 11	18.5 10	5.6 3	9.3 5
	40歳～49歳	100.0 63	54.0 34	63.5 40	42.9 27	36.5 23	33.3 21	30.2 19	33.3 21	25.4 16	15.9 10	1.6 1
	50歳～59歳	100.0 77	40.3 31	39.0 30	46.8 36	39.0 30	24.7 19	16.9 13	36.4 28	19.5 15	10.4 8	5.2 4
	60歳～69歳	100.0 65	32.3 21	23.1 15	26.2 17	26.2 17	21.5 14	21.5 14	26.2 17	6.2 4	3.1 2	15.4 10
	70歳以上	100.0 116	23.3 27	23.3 27	27.6 32	32.8 38	23.3 27	23.3 27	16.4 19	7.8 9	3.4 4	31.0 36
	男 性 計	100.0 372	48.7 181	42.2 157	33.9 126	30.1 112	25.5 95	26.9 100	21.8 81	18.5 69	9.1 34	3.5 13
	20歳～29歳	100.0 55	50.9 28	54.5 30	32.7 18	45.5 25	38.2 21	38.2 21	20.0 11	20.0 11	3.6 2	- -
	30歳～39歳	100.0 52	55.8 29	44.2 23	23.1 12	25.0 13	19.2 10	17.3 9	11.5 6	7.7 4	11.5 6	7.7 4
	40歳～49歳	100.0 60	43.3 26	45.0 27	30.0 18	38.3 23	28.3 17	33.3 20	20.0 12	11.7 7	11.7 7	1.7 1
	50歳～59歳	100.0 76	51.3 39	35.5 27	35.5 27	18.4 14	30.3 23	25.0 19	21.1 16	22.4 17	7.9 6	3.9 3
	60歳～69歳	100.0 56	50.0 28	41.1 23	37.5 21	26.8 15	21.4 12	28.6 16	17.9 10	16.1 9	10.7 6	3.6 2
	70歳以上	100.0 73	42.5 31	35.6 26	41.1 30	30.1 22	15.1 11	23.3 17	35.6 26	28.8 21	8.2 6	2.7 2

2. 家庭生活全般について

(1) 家庭内の仕事の分担状況（問6-（1））

問6-（1）. あなたのご家庭では、次に掲げるようなことは、主にどなたの役割ですか。（1）～（10）までのそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）
●『家計を支えるための収入』は男性中心の役割だが、それ以外については女性中心の役割分担になっている。但し、『子どもの教育方針』、『高額商品の購入決定』については「自分と配偶者が同じくらい」の回答が男女とも最も多く、役割の分担が進んでいる仕事だといえる。

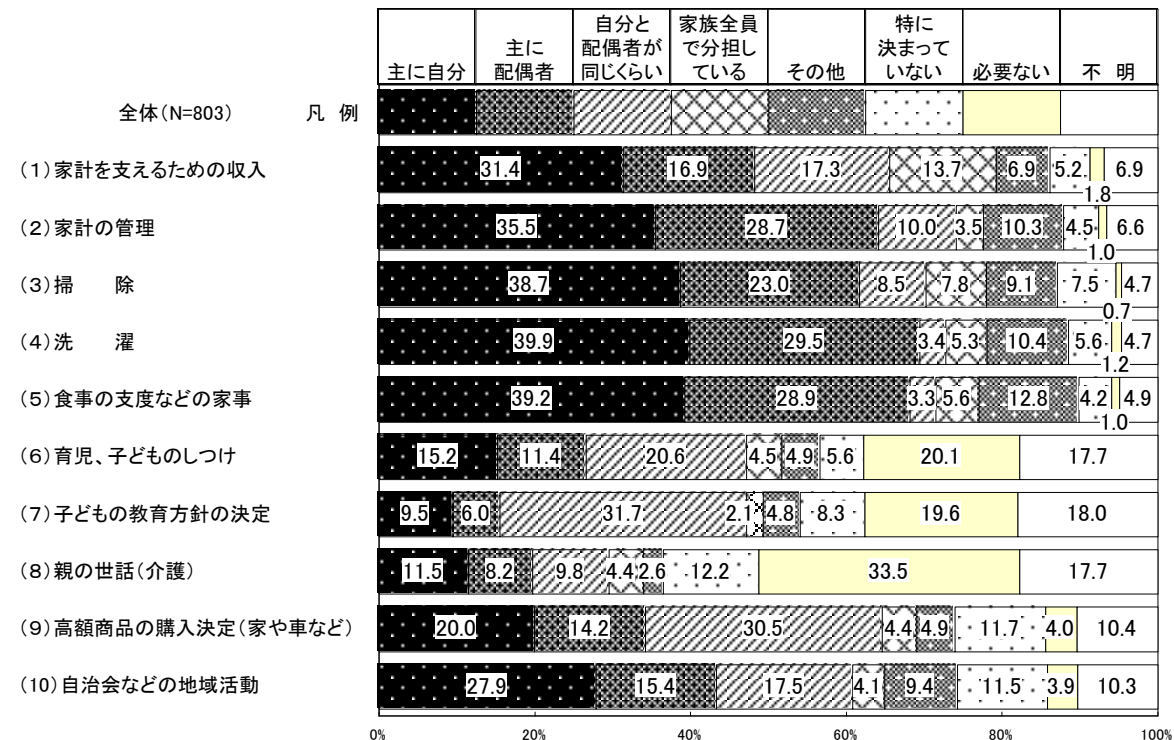
家庭の仕事の役割分担状況は、全体比較で見た場合選択肢を特定できないため分析は省略する。但し、『(6) 育児、子どものしつけ』～『(8) 親の世話』については、役割分担に明確な差はなく「必要なし」と答える人が2～3割程度みられる。

性別による仕事の役割分担をみると、『(1) 家計を支えるための収入』は、男性の場合「主に自分」(52.5%)、女性の場合「主に配偶者」(29.4%)と男性の比重が高いが、『(2) 家計の管理』～『(5) 食事の支度』などの家事は、男性の場合「主に配偶者」、女性の場合「主に自分」と答える人が最も高く、女性中心の役割だとわかる。同様に、『(6) 育児、子どものしつけ』、『(8) 親の世話』についても男性は「主に配偶者」、女性は「主に自分」と回答し女性に依存する傾向がみられる。

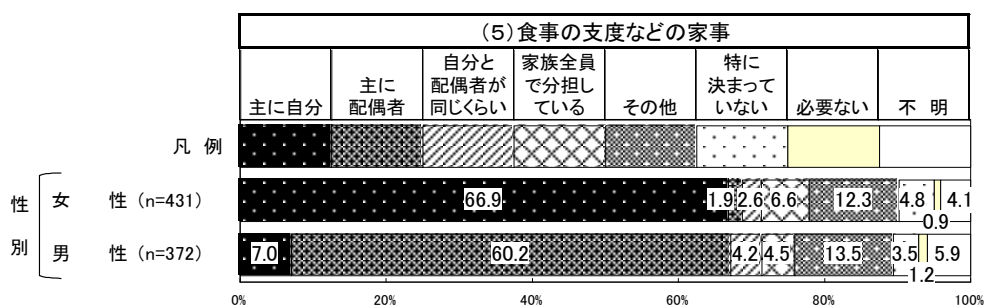
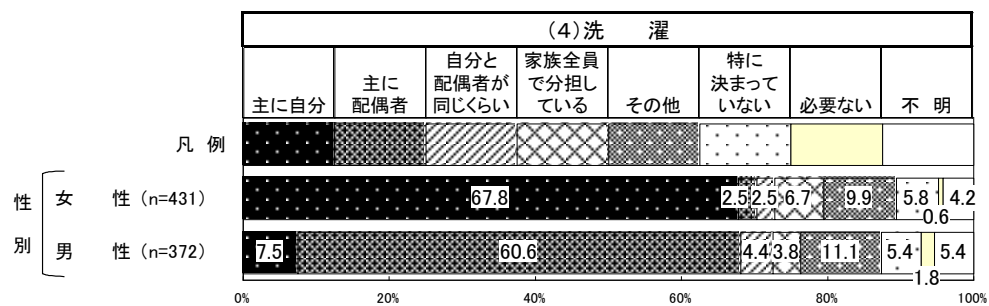
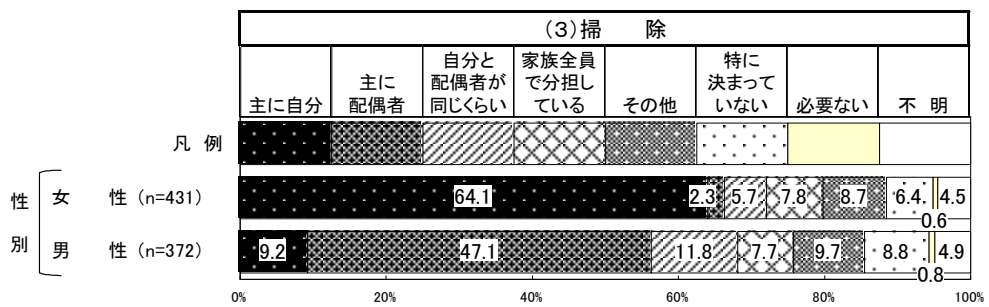
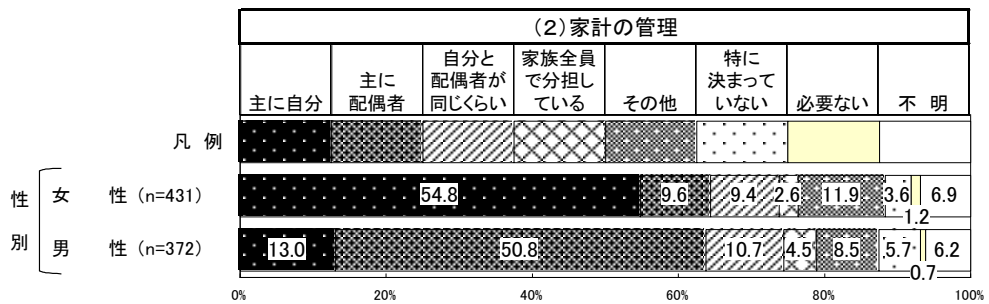
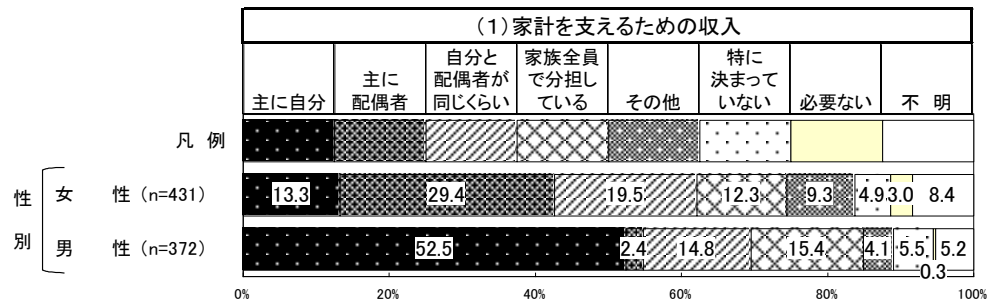
一方、『(7) 子どもの教育方針』、『(9) 高額商品の購入決定』については「自分と配偶者が同じくらい」が最も多いが、『(10) 自治会などの地域活動』については、男女とも「主に自分」と答える人が最も多い。

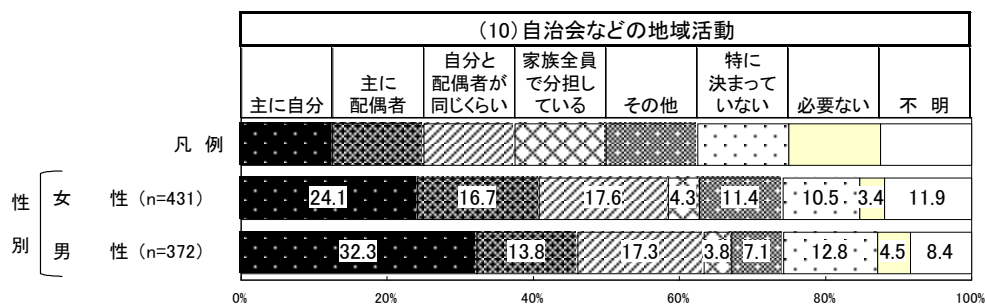
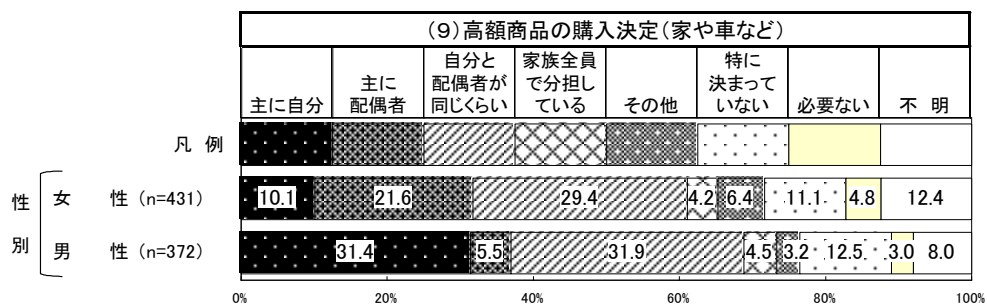
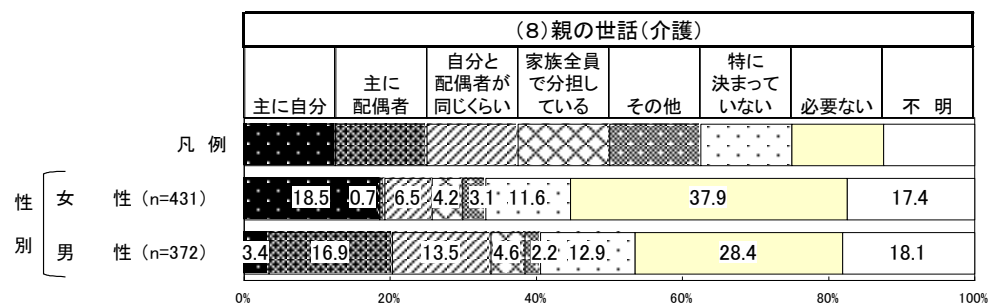
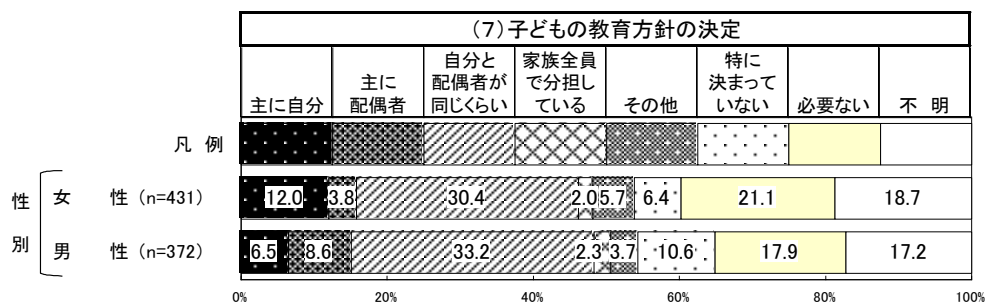
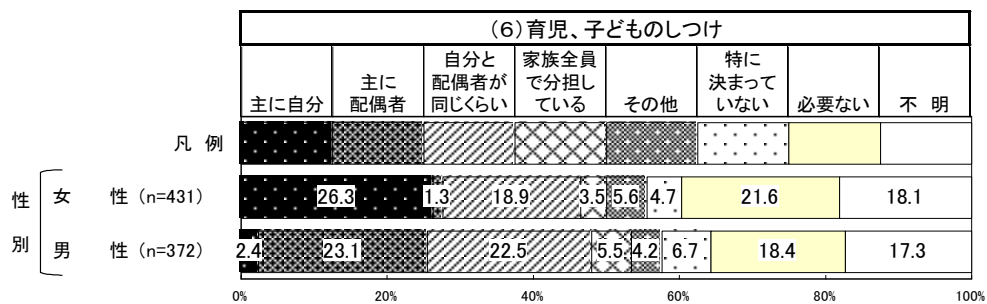
つまり、収入に関しては「男性」、家事・育児・介護に関しては「女性」中心に動いており、「自分と配偶者が同じくらい」の役割としては『(7) 子どもの教育方針』と『(9) 高額商品の購入決定』ぐらいだと考えられる。

家庭内の仕事の分担状況（全体）



家庭内の仕事の分担状況(性別)





（２）家庭内の仕事の役割分担で変更したいこと（問６－（２）：３つまで）

問６－（２）. あなたは、前の問６－（１）に示した（１）～（１０）までの家庭内の役割で、変えたい、変わって欲しいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

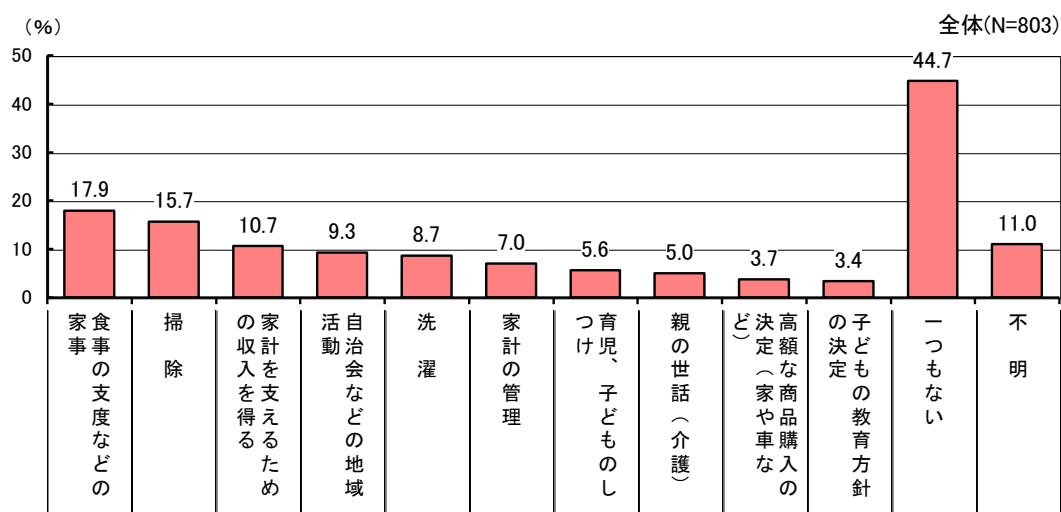
- 「食事の支度などの家事」、「掃除」、「家計を支えるための収入」など家事に関する要望が上位にあがっている。
- 「一つもない」と答える人は全体で 44.7%を占めるが、この傾向は男性に特化する傾向がみられる。

家庭内の仕事の役割分担で変更したいことをみると、「食事の支度などの家事」が 17.9%で最も高く、次いで「掃除」(15.7%)、「家計を支えるための収入」(10.7%)となり、家事・掃除・家計を支えるための収入に関する要望が上位にあがっている。但し、「一つもない」と答える人が 44.7%を占める。

性・年代別にみると、「一つもない」と答える人は男性の比率が女性に比べて高く、その比率差は 20.9 ポイント（男性:55.9%、女性:35.0%）となっている。これは、女性のほうが役割分担を希望する人が多いということであり、中でも女性 30～40 代を中心に「食事の支度などの家事」、「掃除」においてその差が顕著である。

職業別にみると、「食事の支度などの家事」、「掃除」については、女性の社員・職員、パート・アルバイト、専業主婦でその割合が高い。

家庭内の仕事の役割分担で変更したいこと(全体)



家庭内の仕事の役割分担で変更したいこと(性・年代／職業別)

(上段: %、下段: 実数)

		サ ン プ ル 数	事 食 事 の 支 度 な ど の 家	掃 除	収 入 を 支 え る た め の	動 自 治 会 な ど の 地 域 活	洗 濯	家 計 の 管 理	け 育 児 、 子 ど も の し つ	親 の 世 話 （ 介 護 ）	定 高 額 な 商 品 購 入 の 決	決 子 ど も の 教 育 方 針 の	一 つ も な い	不 明
全 体		100.0 803	17.9 144	15.7 126	10.7 86	9.3 75	8.7 70	7.0 56	5.6 45	5.0 40	3.7 30	3.4 27	44.7 359	11.0 88
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	25.5 110	22.0 95	10.2 44	11.1 48	11.6 50	6.3 27	6.5 28	6.3 27	2.1 9	2.8 12	35.0 151	12.8 55
	20歳～29歳	100.0 56	21.4 12	16.1 9	14.3 8	3.6 2	16.1 9	3.6 2	3.6 2	1.8 1	1.8 1	1.8 1	48.2 27	10.7 6
	30歳～39歳	100.0 54	37.0 20	25.9 14	9.3 5	18.5 10	13.0 7	1.9 1	14.8 8	5.6 3	— —	5.6 3	27.8 15	5.6 3
	40歳～49歳	100.0 63	31.7 20	27.0 17	3.2 2	15.9 10	14.3 9	7.9 5	9.5 6	6.3 4	4.8 3	— —	30.2 19	12.7 8
	50歳～59歳	100.0 77	26.0 20	18.2 14	15.6 12	14.3 11	9.1 7	9.1 7	2.6 2	13.0 10	1.3 1	— —	33.8 26	6.5 5
	60歳～69歳	100.0 65	16.9 11	13.8 9	15.4 10	7.7 5	7.7 5	10.8 7	3.1 2	4.6 3	3.1 2	1.5 1	38.5 25	16.9 11
	70歳以上	100.0 116	23.3 27	27.6 32	6.9 8	7.8 9	11.2 13	4.3 5	6.9 8	4.3 5	2.6 3	6.9 8	34.5 40	19.0 22
	男 性 計	100.0 372	9.1 34	8.6 32	11.3 42	7.3 27	5.4 20	7.8 29	4.8 18	3.5 13	5.4 20	4.0 15	55.9 208	8.9 33
	20歳～29歳	100.0 55	12.7 7	12.7 7	25.5 14	— —	9.1 5	9.1 5	9.1 5	3.6 2	9.1 5	9.1 5	50.9 28	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 52	23.1 12	17.3 9	5.8 3	1.9 1	13.5 7	5.8 3	1.9 1	— —	1.9 1	1.9 1	61.5 32	7.7 4
	40歳～49歳	100.0 60	8.3 5	6.7 4	5.0 3	8.3 5	3.3 2	5.0 3	6.7 4	1.7 1	3.3 2	5.0 3	65.0 39	3.3 2
	50歳～59歳	100.0 76	2.6 2	7.9 6	17.1 13	11.8 9	3.9 3	6.6 5	1.3 1	6.6 5	3.9 3	1.3 1	57.9 44	7.9 6
	60歳～69歳	100.0 56	8.9 5	3.6 2	8.9 5	8.9 5	3.6 2	8.9 5	3.6 2	1.8 1	1.8 1	1.8 1	58.9 33	10.7 6
	70歳以上	100.0 73	5.5 4	5.5 4	5.5 4	8.2 6	2.7 2	12.3 9	5.5 4	5.5 4	11.0 8	5.5 4	43.8 32	15.1 11
職 業 別	【女性職業】 事業主・自由業	100.0 21	14.3 3	14.3 3	14.3 3	4.8 1	14.3 3	9.5 2	— —	— —	— —	— —	52.4 11	14.3 3
	家族従業者	100.0 47	29.8 14	12.8 6	12.8 6	6.4 3	8.5 4	12.8 6	8.5 4	4.3 2	2.1 1	4.3 2	31.9 15	8.5 4
	社員・職員 （管理職含む）	100.0 95	35.8 34	23.2 22	9.5 9	11.6 11	14.7 14	4.2 4	10.5 10	7.4 7	4.2 4	2.1 2	35.8 34	7.4 7
	パート・アルバイト ・派遣・契約社員	100.0 67	31.3 21	29.9 20	10.4 7	17.9 12	20.9 14	4.5 3	7.5 5	7.5 5	— —	1.5 1	28.4 19	9.0 6
	専業主婦	100.0 92	28.3 26	28.3 26	5.4 5	14.1 13	8.7 8	4.3 4	1.1 1	8.7 8	3.3 3	3.3 3	32.6 30	10.9 10
	その他	100.0 102	12.7 13	17.6 18	13.7 14	7.8 8	6.9 7	6.9 7	6.9 7	4.9 5	2.0 2	4.9 5	39.2 40	19.6 20
	【男性職業】 自営業	100.0 98	6.1 6	5.1 5	10.2 10	7.1 7	2.0 2	11.2 11	8.2 8	4.1 4	7.1 7	6.1 6	58.2 57	6.1 6
	勤め人	100.0 162	11.7 19	9.3 15	11.1 18	8.0 13	6.8 11	4.3 7	4.3 7	1.9 3	0.6 1	3.7 6	59.3 96	6.8 11
	その他	100.0 105	8.6 9	9.5 10	10.5 11	6.7 7	5.7 6	11.4 12	2.9 3	5.7 6	10.5 11	1.9 2	50.5 53	12.4 13

(3) 「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方に対する意識（問7）

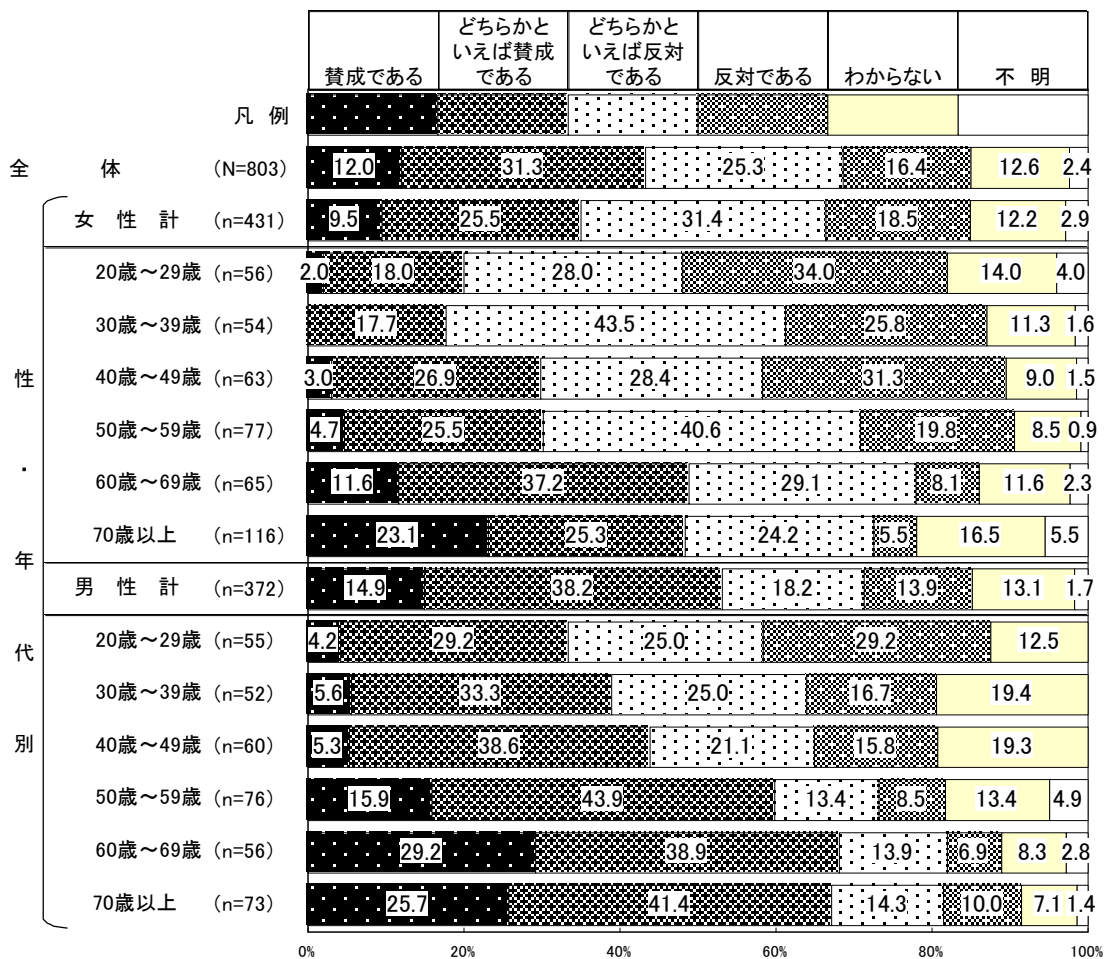
問7. あはたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方について、どう思いますか。（○は1つ）

- 男性は『賛成派』、女性は『反対派』がともに約半数を占める。
- 男女とも年齢が高くなるほど『賛成派』が増加する傾向がみられる。

「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方に対する意識をみると、「賛成である」が12.0%、「どちらかといえば賛成である」が31.3%でこれらを合計した『賛成派』が43.3%、「どちらかといえば反対である」(25.3%)、「反対である」(16.4%)をあわせた『反対派』が41.7%とかなり拮抗している。なお、「わからない」(16.4%)、「不明」(2.4%)は全体の2割である。

性・年代別にみると、男性は『賛成派』が53.1%、女性は『反対派』が49.9%と男女間の意識の違いが極めて高い。同様に、男性40代以上と女性60代以上は『賛成派』が『反対派』を上回り、男女とも若年層と中・高年層の意識に大きな違いがみられる。

「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方に対する意識（性・年代別）



3. 子育て・教育について

(1) 子どもが減少する理由（問8：3つまで）

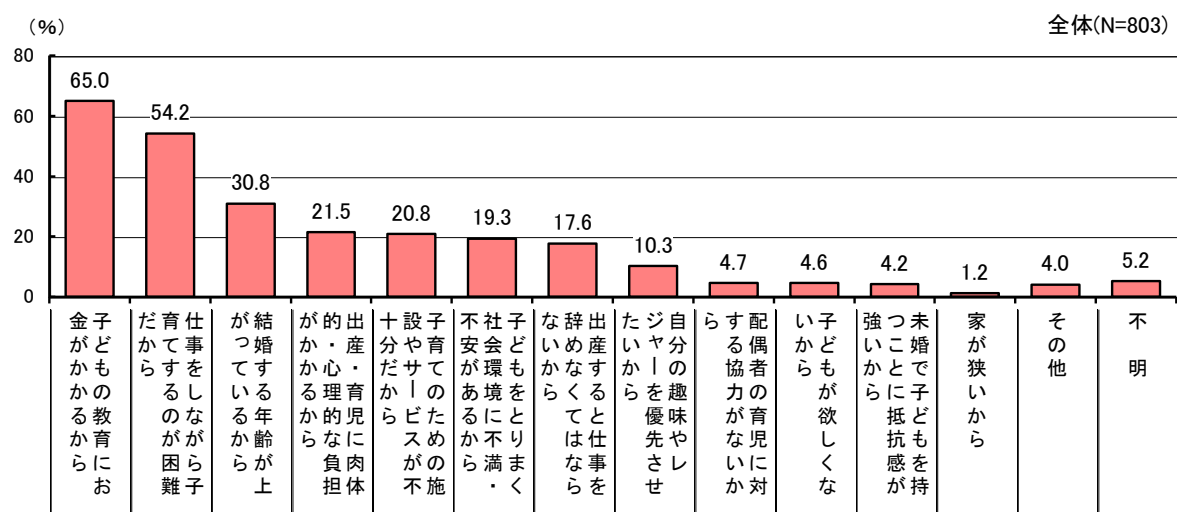
問8. 最近、子どもの数が減少傾向にあります。その理由は何だと思いますか。（○は3つまで）

●男女ともに、「子どもの教育にお金がかかるから」、「仕事をしながら子育てするのが困難だから」という理由が中心である。

子どもが減少する理由を尋ねたところ、「子どもの教育にお金がかかるから」が 65.0%で最も高く、次いで「仕事をしながら子育てするのが困難だから」(54.2%)、「結婚する年齢が上がっているから」(30.8%)、「出産・育児に肉体的・心理的負担がかかるから」(21.5%)、「子育てのための施設やサービスが不十分だから」(20.8%)、「子どもをとりまく社会環境に不満・不安があるから」(19.3%)、「出産すると仕事をやめなくてはならないから」(17.6%)となり、子育てにかかる費用、仕事と子育ての両立の困難さが中心の回答である。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性の場合「仕事をしながら子育てするのが困難だから」という理由が男性に比べ高いという傾向がみられる。また、年代別でみると女性 20 代は「出産すると仕事をやめなくてはならないから」、女性 30 代では「出産・育児に肉体的・心理的負担がかかるから」、「子育てのための施設やサービスが不十分だから」、「子どもをとりまく社会環境に不満・不安があるから」という理由が他の年代に比べ高い。

子どもが減少する理由(全体)



子どもが減少する理由(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サンプル数	子どもの教育にお金がかかる	仕事をしながら子育てするの が困難だから	結婚する年齢が上がっている	出産・育児に肉体的・心理的 な負担がかかるから	子育てのための施設やサービ スが不十分だから	子どもをとりまく社会環境に 不満・不安があるから	出産すると仕事を辞めなくて はならないから	自分の趣味やレジャーを優先 させたいから	配偶者の育児に対する協力が ないから	子どもが欲しくないから	未婚で子どもを持つことに抵 抗感が強いから	家が狭いから	その他	不明
全 体		100.0 803	65.0 522	54.2 435	30.8 247	21.5 173	20.8 167	19.3 155	17.6 141	10.3 83	4.7 38	4.6 37	4.2 34	1.2 10	4.0 32	5.2 42
性・年代別	女 性 計	100.0 431	62.9 271	60.8 262	32.3 139	21.8 94	23.4 101	17.2 74	20.0 86	8.4 36	5.6 24	3.9 17	4.4 19	0.5 2	3.0 13	6.3 27
	20歳～29歳	100.0 56	66.1 37	62.5 35	30.4 17	12.5 7	19.6 11	19.6 11	32.1 18	10.7 6	7.1 4	3.6 2	7.1 4	-	5.4 3	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 54	57.4 31	63.0 34	33.3 18	35.2 19	31.5 17	27.8 15	16.7 9	5.6 3	9.3 5	3.7 2	3.7 2	-	5.6 3	-
	40歳～49歳	100.0 63	69.8 44	63.5 40	31.7 20	25.4 16	30.2 19	17.5 11	19.0 12	7.9 5	11.1 7	4.8 3	7.9 5	-	1.6 1	3.2 2
	50歳～59歳	100.0 77	70.1 54	64.9 50	40.3 31	18.2 14	26.0 20	15.6 12	13.0 10	14.3 11	5.2 4	7.8 6	1.3 1	1.3 1	3.9 3	1.3 1
	60歳～69歳	100.0 65	58.5 38	64.6 42	33.8 22	30.8 20	26.2 17	7.7 5	15.4 10	12.3 8	1.5 1	3.1 2	3.1 2	-	1.5 1	4.6 3
	70歳以上	100.0 116	56.9 66	52.6 61	27.6 32	16.4 19	14.7 17	16.4 19	23.3 27	3.4 4	3.4 4	2.6 3	4.3 5	0.9 1	0.9 1	16.4 19
	男 性 計	100.0 372	67.5 251	46.5 173	29.0 108	21.0 78	17.7 66	21.8 81	14.8 55	12.6 47	3.5 13	5.4 20	4.0 15	2.2 8	5.4 20	4.0 15
	20歳～29歳	100.0 55	74.5 41	50.9 28	25.5 14	12.7 7	25.5 14	20.0 11	16.4 9	16.4 9	3.6 2	3.6 2	-	3.6 2	9.1 5	-
	30歳～39歳	100.0 52	69.2 36	36.5 19	32.7 17	17.3 9	19.2 10	25.0 13	13.5 7	11.5 6	11.5 6	5.8 6	5.8 3	-	11.5 6	1.9 1
	40歳～49歳	100.0 60	73.3 44	45.0 27	33.3 20	13.3 8	18.3 11	30.0 18	18.3 11	8.3 5	1.7 1	3.3 2	1.7 1	3.3 2	-	1.7 1
	50歳～59歳	100.0 76	60.5 46	48.7 37	26.3 20	23.7 18	15.8 12	21.1 16	11.8 9	18.4 14	1.3 1	7.9 6	3.9 3	-	6.6 5	3.9 3
60歳～69歳	100.0 56	69.6 39	48.2 27	26.8 15	32.1 18	16.1 9	17.9 10	8.9 5	14.3 8	-	5.4 3	3.6 2	3.6 2	3.6 2	3.6 2	
70歳以上	100.0 73	60.3 44	47.9 35	30.1 22	26.0 19	15.1 11	17.8 13	20.5 15	6.8 5	4.1 3	1.4 1	8.2 6	1.4 1	4.1 3	11.0 8	

(2) 子育てに関する相談内容で充実して欲しいこと（問9：3つまで）

問9. 今後、子育てに関する相談項目で何が充実すればよいと思いますか。（○は3つまで）

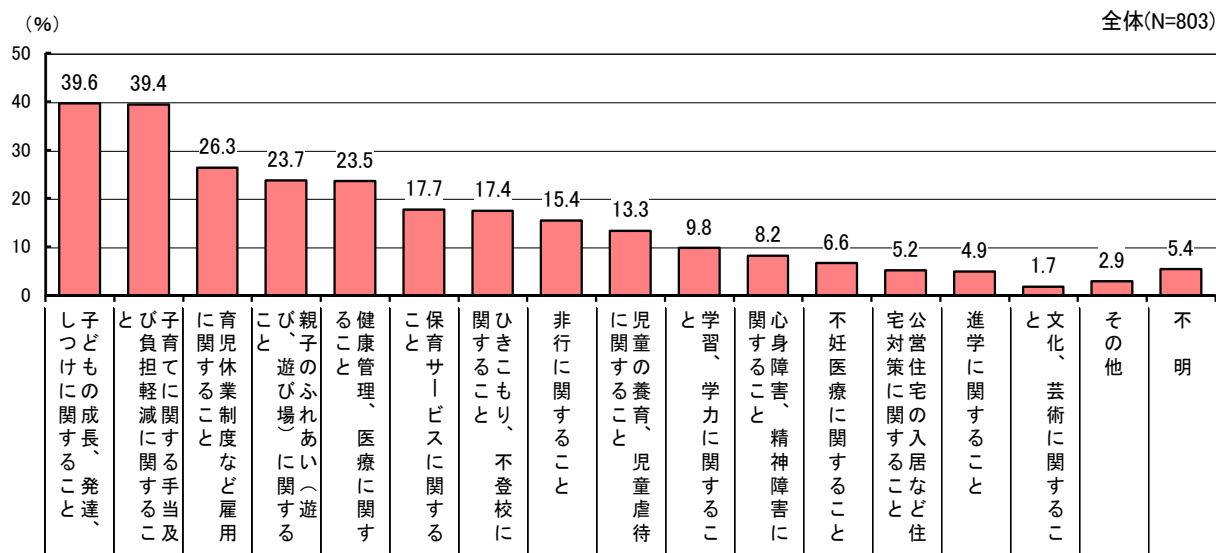
- 男女ともに「子どもの成長、発達、しつけに関すること」、「子育てに関する手当及び負担軽減に関すること」の比率が突出して高くなっている。
- 性・年代別では、男女とも若年層ほど「子育てに関する手当及び負担軽減に関すること」を要望する人が多く、年齢が高くなるほど「親子のふれあい(遊び、遊び場)に関すること」の比率が高くなる。

子育てに関する相談内容で充実して欲しいことをみると、「子どもの成長、発達、しつけに関すること」(39.6%)、「子育てに関する手当及び負担軽減に関すること」(39.4%)が他の要望をぬいて高く、以下、「育児休業制度など雇用に関すること」(26.3%)、「親子のふれあい(遊び、遊び場)に関すること」(23.7%)、「健康管理、医療に関すること」(23.5%)と続いている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性20代で「育児休業制度など雇用に関すること」、女性30代で「保育サービスに関すること」、「不妊治療に関すること」、男性20代で「ひきこもり、不登校に関すること」、「非行に関すること」、男性30代で「健康管理、医療に関すること」という要望が他の年代に比べ高い。また、女性の場合年齢が低いほど「子育てに関する手当及び負担軽減に関すること」の要望が高く、逆に年齢が高くなるほど「子どもの成長、発達、しつけに関すること」を要望する人が多い。なお、「親子のふれあい(遊び、遊び場)に関すること」は男女を問わず年齢が高くなるほど割合が高くなる。

職業別にみると、女性の社員・職員の場合「育児休業制度など雇用に関すること」を要望する人が多い。

子育てに関する相談内容で充実して欲しいこと(全体)



子育てに関する相談内容で充実して欲しいこと(性・年代／職業別)

(上段:％、下段:実数)

	サンプル数	子どもの成長、発達、しつけに関すること	子育てに関する手当及び負担軽減に関すること	育児休業制度など雇用に関すること	親子のふれあい(遊び、遊び場)に関すること	健康管理、医療に関すること	保育サービスに関すること	ひきこもり、不登校に関すること	非行に関すること	児童の養育、児童虐待に関すること	学習、学力に関すること	心身障害、精神障害に関すること	不妊医療に関すること	公営住宅の入居など住宅対策に関すること	進学に関すること	文化、芸術に関すること	その他	不明
全 体	100.0 803	39.6 318	39.4 316	26.3 211	23.7 190	23.5 189	17.7 142	17.4 140	15.4 124	13.3 107	9.8 79	8.2 66	6.6 53	5.2 42	4.9 39	1.7 14	2.9 23	5.4 43
性・年代別	女 性 計	100.0 431	36.9 159	38.3 165	31.6 136	22.0 95	27.6 119	23.4 101	15.1 65	12.8 55	14.4 62	9.0 39	7.4 32	9.0 39	5.3 23	4.2 18	0.9 4	5.3 23
	20歳～29歳	100.0 56	23.2 13	55.4 31	55.4 31	16.1 9	26.8 15	35.7 20	5.4 3	1.8 1	12.5 7	10.7 6	12.5 7	12.5 7	-	-	1.8 1	1.8 1
	30歳～39歳	100.0 54	25.9 14	64.8 35	31.5 17	14.8 8	24.1 13	48.1 26	13.0 7	5.6 3	7.4 4	7.4 4	3.7 2	24.1 13	5.6 3	1.9 1	-	-
	40歳～49歳	100.0 63	33.3 21	34.9 22	38.1 24	23.8 15	28.6 18	22.2 14	19.0 12	17.5 11	14.3 9	9.5 6	12.7 8	12.7 8	1.6 1	6.3 4	1.6 1	1.6 1
	50歳～59歳	100.0 77	42.9 33	37.7 29	35.1 27	20.8 16	28.6 22	26.0 20	15.6 12	15.6 12	19.5 15	7.8 6	6.5 5	6.5 5	3.9 3	3.9 3	1.3 1	-
	60歳～69歳	100.0 65	40.0 26	24.6 16	27.7 18	26.2 17	27.7 18	13.8 9	18.5 12	21.5 14	3.1 2	4.6 3	7.7 5	6.2 4	7.7 5	1.5 1	-	7.7 5
	70歳以上	100.0 116	44.0 51	27.6 32	16.4 19	25.0 29	28.4 33	9.5 11	16.4 19	14.7 17	11.2 13	12.1 14	6.9 8	2.6 3	4.3 5	5.2 6	0.9 1	14.7 17
	男 性 計	100.0 372	42.7 159	40.9 152	20.2 75	25.8 96	18.8 70	11.0 41	20.2 75	18.3 68	12.1 45	10.8 40	9.4 35	3.5 13	5.1 19	5.6 21	3.0 11	5.4 20
	20歳～29歳	100.0 55	45.5 25	29.1 16	12.7 7	20.0 11	9.1 5	16.4 9	38.2 21	32.7 18	25.5 14	12.7 7	16.4 9	-	9.1 5	9.1 5	3.6 2	-
	30歳～39歳	100.0 52	42.3 22	50.0 26	13.5 7	26.9 14	36.5 19	11.5 6	13.5 7	13.5 7	7.7 4	5.8 3	1.9 3	1.9 1	-	1.9 1	5.8 3	5.8 3
	40歳～49歳	100.0 60	40.0 24	60.0 36	20.0 12	15.0 9	13.3 8	8.3 5	26.7 16	10.0 6	11.7 7	11.7 7	3.3 2	10.0 6	5.0 3	11.7 7	3.3 2	3.3 2
	50歳～59歳	100.0 76	31.6 24	38.2 29	28.9 22	22.4 22	22.4 17	7.9 6	17.1 13	6.6 5	7.9 6	14.5 11	1.3 1	7.9 6	3.9 3	3.9 3	2.6 2	6.6 5
	60歳～69歳	100.0 56	42.9 24	42.9 24	21.4 12	23.2 13	12.5 7	17.9 10	14.3 8	19.6 11	17.9 10	14.3 8	8.9 5	3.6 2	3.6 2	-	3.6 2	5.4 3
	70歳以上	100.0 73	54.8 40	28.8 21	20.5 15	34.2 25	20.5 15	6.8 5	13.7 10	17.8 13	6.8 5	11.0 8	5.5 4	2.7 2	2.7 2	8.2 6	2.7 2	9.6 7
職 業 別	【女性職業】 事業主・自由業	100.0 21	42.9 9	14.3 3	23.8 5	14.3 3	47.6 10	9.5 2	14.3 2	4.8 1	9.5 2	9.5 2	-	4.8 1	9.5 2	-	9.5 2	14.3 3
	家族従業者	100.0 47	40.4 19	38.3 18	21.3 10	29.8 14	21.3 10	23.4 11	17.0 8	29.8 14	10.6 5	6.4 3	4.3 2	10.6 5	8.5 4	8.5 4	2.1 1	4.3 2
	社員・職員 (管理職含む)	100.0 95	30.5 29	49.5 47	47.4 45	18.9 18	23.2 22	44.2 42	15.8 15	7.4 7	12.6 12	7.4 7	8.4 8	13.7 13	4.2 4	1.1 1	-	-
	パート・アルバイト ・派遣・契約社員	100.0 67	31.3 21	37.3 25	38.8 26	20.9 14	31.3 21	20.9 14	17.9 12	14.9 10	17.9 12	9.0 6	10.4 7	14.9 10	7.5 5	4.5 3	1.5 1	-
	専業主婦	100.0 92	43.5 40	41.3 38	29.3 27	20.7 19	32.6 30	25.0 23	12.0 11	13.0 12	6.5 6	5.4 5	7.6 7	3.3 3	3.3 3	-	-	6.5 6
	その他	100.0 102	40.2 41	33.3 34	22.5 23	25.5 26	25.5 26	7.8 8	17.6 18	9.8 10	18.6 19	14.7 15	5.9 6	4.9 5	5.9 6	5.9 6	2.0 2	8.8 9
	【男性職業】 自営業	100.0 98	43.9 43	40.8 40	16.3 16	30.6 30	20.4 20	13.3 13	20.4 20	12.2 12	12.2 12	6.1 6	6.1 6	4.1 4	4.1 4	5.1 5	3.1 3	8.2 8
	勤め人	100.0 162	39.5 64	45.7 74	21.6 35	21.0 34	19.1 31	10.5 17	23.5 38	22.2 36	14.2 23	12.3 20	10.5 17	4.3 7	7.4 12	4.9 8	3.1 5	3.1 5
	その他	100.0 105	47.6 50	34.3 36	21.0 22	27.6 29	15.2 16	10.5 11	15.2 16	19.0 20	9.5 10	11.4 12	9.5 10	2.9 3	3.8 4	7.6 8	1.9 2	4.8 5

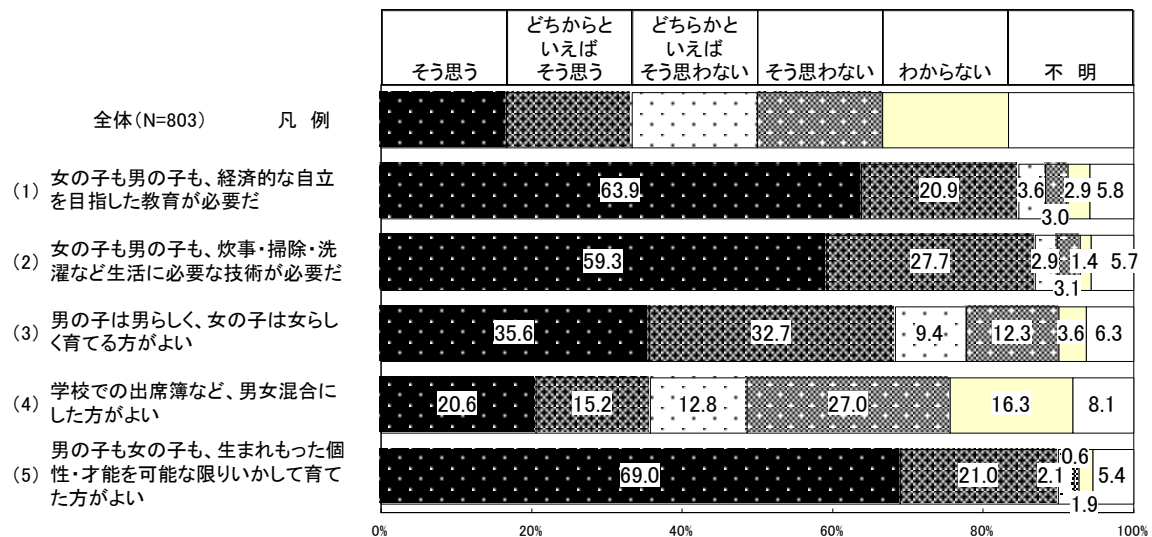
(3) 子どものしつけや教育に対する意識（問 10）

問 10. あなたは、子どものしつけや教育について、どのように思いますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ) ※子どもがいない方、またすでに養育が終了している方も、仮に「子どもを持つとしたら」として、お答えください。 ●全体では、「(4)学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」という意見は『肯定派』と『否定派』がかなり拮抗しているものの、他の項目は大半が『肯定派』。 ●女性の場合、「(3)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうが良い」という意見については男性より否定的な意見が多い。
--

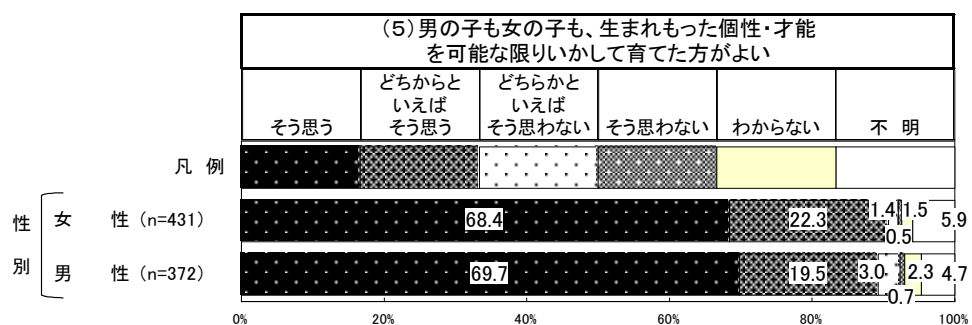
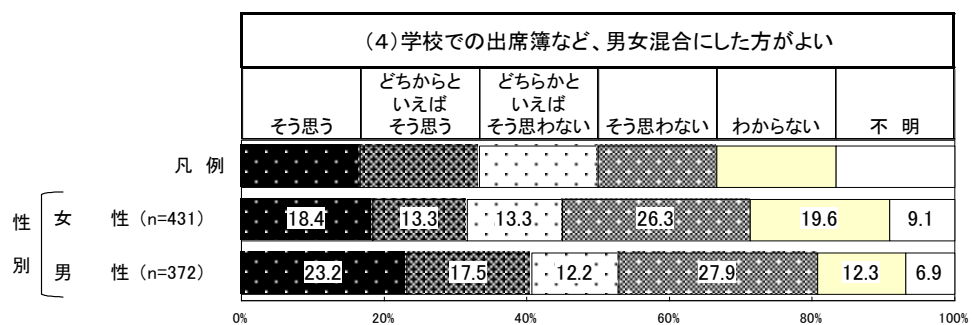
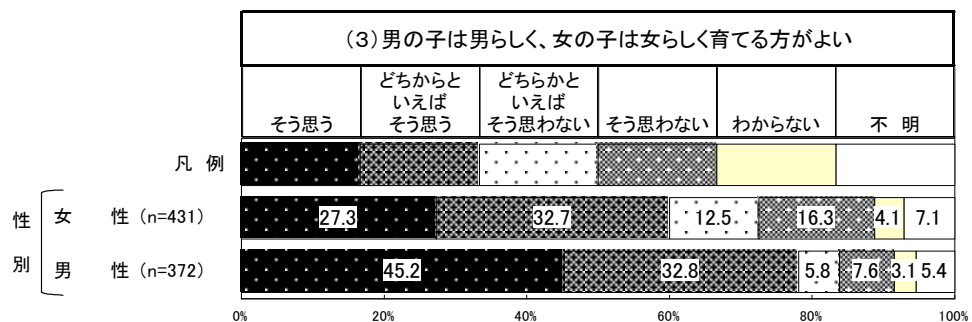
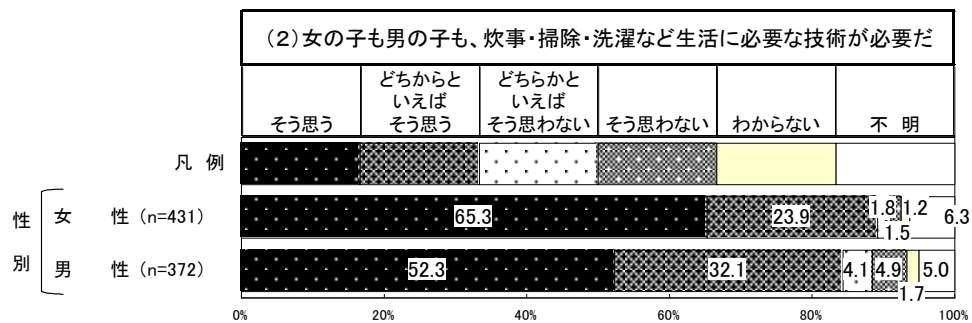
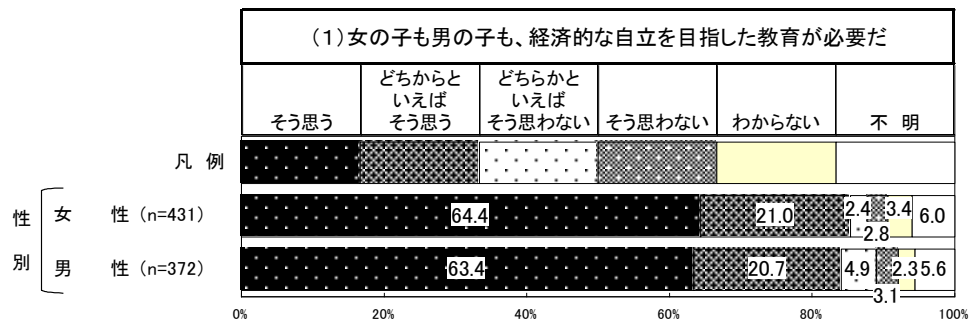
子どものしつけや教育に関する5項目の意識をみると、「(1)女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要」、「(2)女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要」、「(5)男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てたほうがよい」に関しては8割以上が『肯定派』（＝「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計）であり、「(3)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうが良い」についても『肯定派』が約7割を占める。一方、「(4)学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」は『肯定派』（35.8%）と『否定派』（39.8%）がかなり拮抗している。

性別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、「(3)男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうが良い」に関しては、男性の場合「そう思う」が 45.2%と多く、『肯定派』が約8割弱を占めるものの、女性の『肯定派』は6割にとどまっている。

子どものしつけや教育に対する意識(全体)



子どものしつけや教育に対する意識(性別)



(4) 将来に向けての子どもの育ち方（問 11：3 つまで）

問 11. あなたは、子どもは将来どのように育てたいですか。(1)女の子と(2)男の子の場合、それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(〇は3つまで)
※子どもがいない方、またすでに養育が終了している方も、仮に「子どもを持つとしたら」として、お答えください。

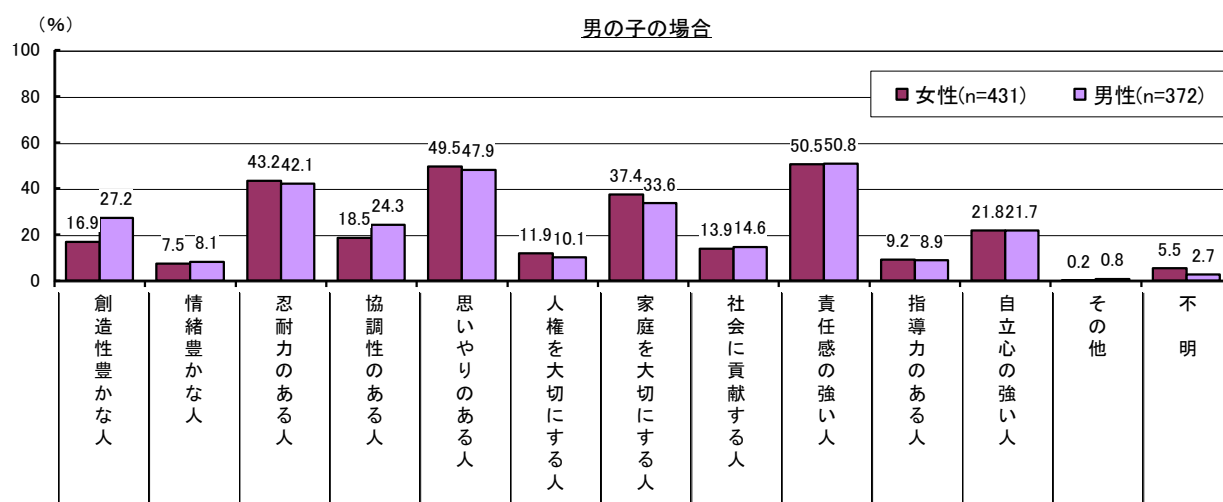
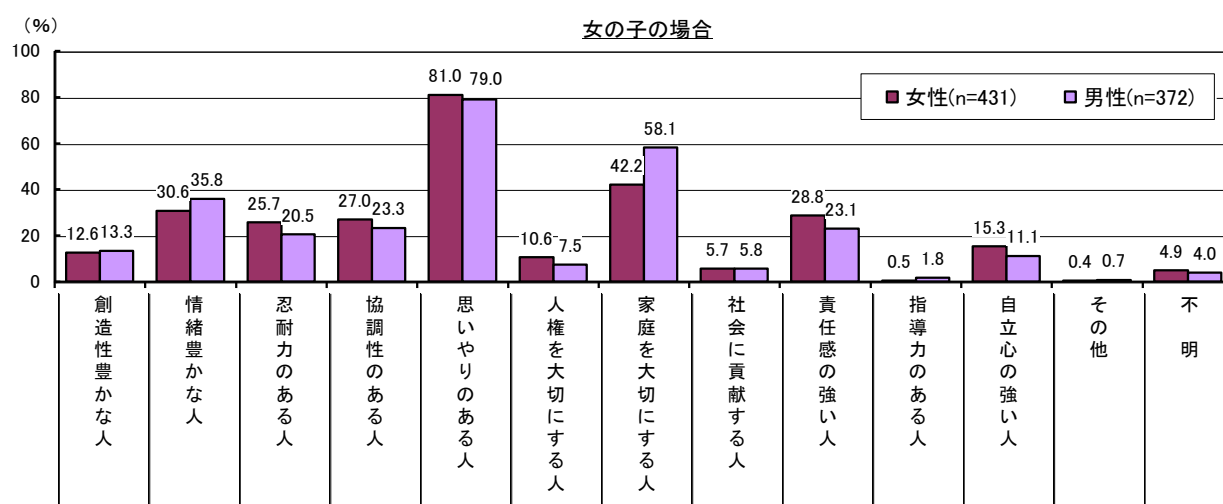
●男女とも、女の子は「思いやりのある人」、男の子は「責任感の強い人」が第1に要望であるが、「思いやりのある人」は女の子、男の子に関らず共通して要望の上位にあがっている。

将来に向けての子どもの育ち方を性別にみると、女の子の場合、男女とも「思いやりのある人」が圧倒的に高く、次いで「家庭を大切にする人」、「情緒豊かな人」の順となっている。

一方、男の子の場合「責任感の強い人」、「思いやりのある人」、「忍耐力のある人」の順に男女かわらず要望している。つまり、女の子、男の子に関らず「思いやりのある人」というのは、共通して要望の上位にあがっており、特徴的である。

年代別にみると、女の子の場合「家庭を大切にする人」という要望は、男女とも年齢が高くなるほどその傾向が強い。

将来に向けての子どもの育ち方(性別)



(5) 子育てに関する父親と母親の役割 (問 12)

問 12. あなたは、子育てにおいて父親と母親の役割は同じであると思いますか。(○は 1 つ)

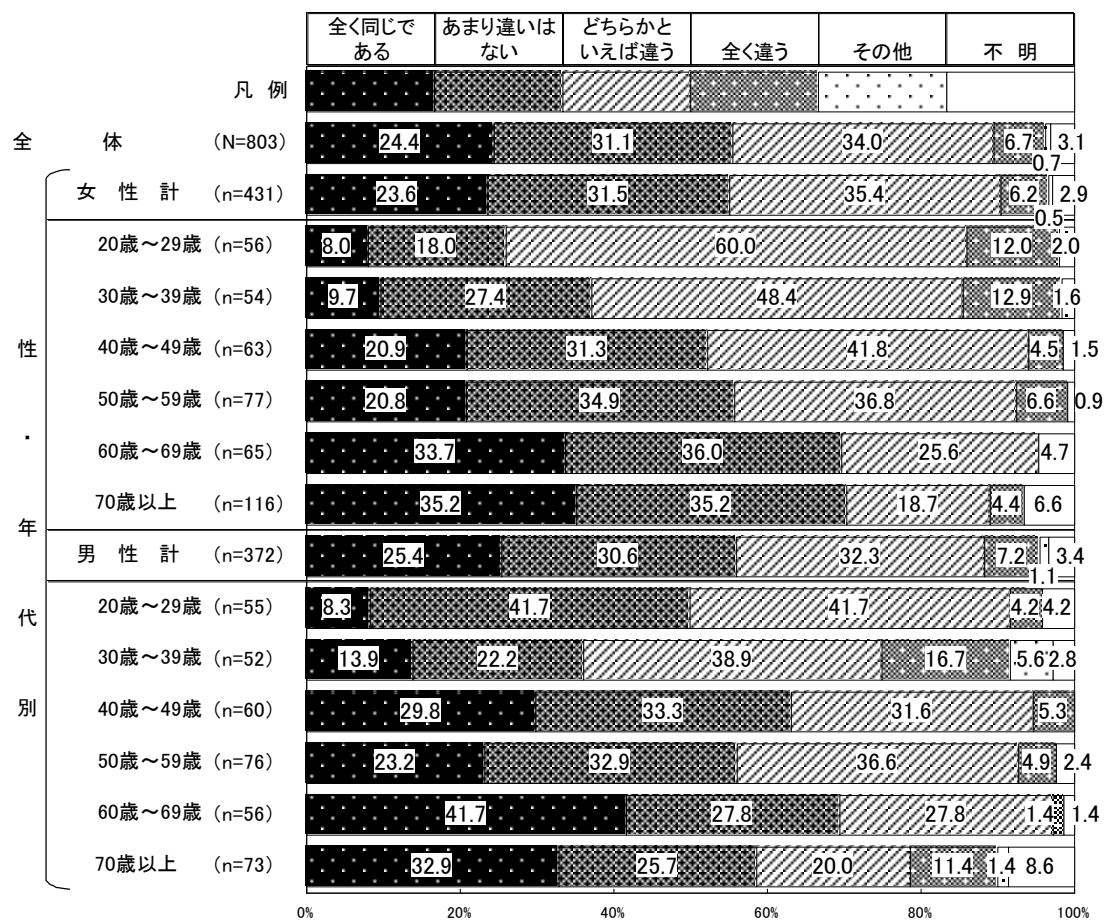
- 全体では、『同調する人』(55.5%)が『同調しない人』(40.7%)を上回っている。
- 性別による傾向差はみられないが、男女共通して年齢が低いほど『同調しない人』、逆に年齢が高いほど『同調する人』が多いという傾向がみられる。

子育てに関する父親と母親の役割について尋ねたところ、「全く同じである」が 24.4%、「あまり違いはない」が 31.1%で男女の役割を同調する人が過半数を占め、「どちらかといえば違う」(34.0%)、「全く違う」(6.7%)をあわせた同調しない人(40.7%)を上回っている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性の場合年齢が高くなるほど同調する人が増し、女性 60 代、女性 70 歳以上では7割を占める。ちなみに、女性 20 代では同調しない人が7割である。

一方、男性の場合、30 代は同調しない人が同調する人を大きく上回り、他の年代と傾向が異なる。

子育てに関する父親と母親の役割(性・年代別)



4. 仕事や職業観について

(1) 女性の就労に対する考え方 (問 13 : 3 つまで)

問 13. あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(○は 3 つまで)

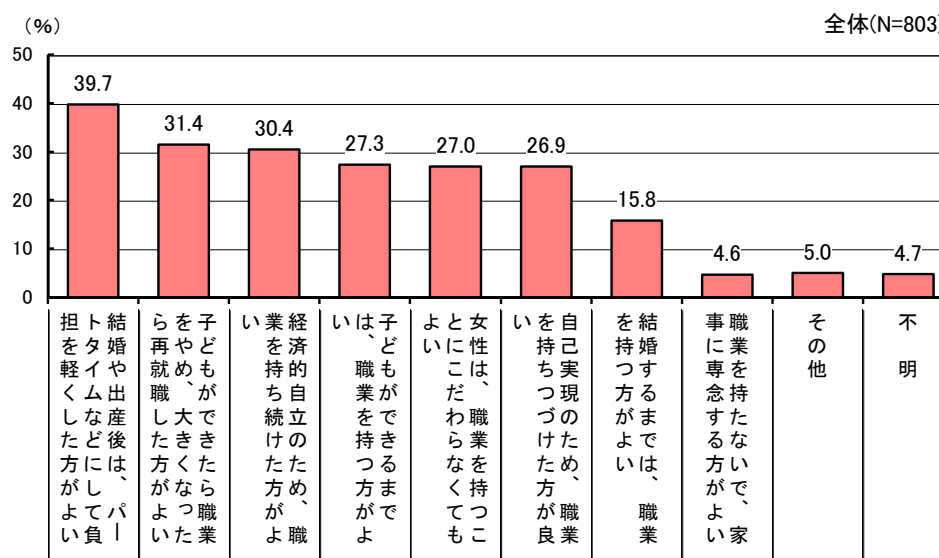
●男女とも 20 代は『職業を持ち続ける』が多く、30 代は『結婚、出産後のパートタイム移行者』、60 代以上は『育児卒業後の再就職派』がそれぞれ多い。

女性が職業を持つことに対する考え方をみると、「結婚や出産後は、パートタイムなどにして負担を軽くした方がよい」が 39.7%で最も高く、次いで「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再就職した方がよい」(31.4%)、「経済的自立のため、職業を持ち続けた方がよい」(30.4%)、「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」(27.3%)、「女性は、職業を持つことにこだわらなくてもよい」(27.0%)、「自己実現のため、職業を持ち続けた方がよい」(26.9%)となり、様々な意見に分かれている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、男女 30 代は「結婚や出産後は、パートタイムなどにして負担を軽くした方がよい」という考え方、60 代以上は「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再就職した方がよい」という考え方の人が多い。また、女性 20 代と男性 40 代は「自己実現のため、職業を持ち続けた方がよい」、男性 20 代は「経済的自立のため、職業を持ち続けた方がよい」という職業を持ち続けるが多くみられる。

配偶者有無別にみると、配偶者のあり、なしにかかわらずほぼ同様の回答結果である。

女性の就労に対する考え方(全体)



女性の就労に対する考え方(性・年代／配偶者有無別)

(上段:％、下段:実数)

		サ ン プ ル 数	方 が よ い	結 婚 や 出 産 後 は 、 パ ー ト タ イ ム な ど に し て 負 担 を 軽 く し た い	た め 、 大 き く な っ た ら 再 就 職 を や し	子 ど も が で き た ら 職 業 を や し	ち 経 済 的 自 立 の た め 、 職 業 を 持 ち	を 持 つ 方 が よ い ま で は 、 職 業	女 性 は 、 職 業 を 持 つ こ と に こ だ わ ら な く て も よ い	つ づ け た 方 が 良 い 、 職 業 を 持 ち	自 己 実 現 の た め 、 職 業 を 持 ち	結 婚 す る ま で は 、 職 業 を 持 つ 方 が よ い	職 業 を 持 た な い で 、 家 事 に 専 念 す る 方 が よ い	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	39.7 319	31.4 252	30.4 244	27.3 219	27.0 217	26.9 216	15.8 127	4.6 37	5.0 40	4.7 38			
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	39.9 172	31.8 137	31.3 135	27.8 120	27.8 120	27.8 120	16.0 69	4.4 19	5.6 24	5.1 22			
	20歳～29歳	100.0 56	39.3 22	14.3 8	33.9 19	17.9 10	19.6 11	46.4 26	17.9 10	－ －	14.3 8	－ －			
	30歳～39歳	100.0 54	61.1 33	14.8 8	31.5 17	16.7 9	25.9 14	29.6 16	7.4 4	－ －	14.8 8	－ －			
	40歳～49歳	100.0 63	38.1 24	33.3 21	38.1 24	15.9 10	25.4 16	28.6 18	11.1 7	3.2 2	7.9 5	1.6 1			
	50歳～59歳	100.0 77	42.9 33	26.0 20	35.1 27	24.7 19	37.7 29	32.5 25	9.1 7	3.9 3	3.9 3	2.6 2			
	60歳～69歳	100.0 65	35.4 23	43.1 28	30.8 20	40.0 26	24.6 16	16.9 11	18.5 12	4.6 3	1.5 1	7.7 5			
	70歳以上	100.0 116	31.0 36	44.8 52	25.0 29	39.7 46	29.3 34	20.7 24	25.0 29	9.5 11	－ －	12.1 14			
	男 性 計	100.0 372	39.2 146	30.9 115	29.3 109	26.3 98	25.8 96	25.5 95	15.6 58	4.8 18	4.3 16	4.3 16			
	20歳～29歳	100.0 55	38.2 21	25.5 14	41.8 23	29.1 16	25.5 14	25.5 14	12.7 7	－ －	9.1 5	－ －			
	30歳～39歳	100.0 52	67.3 35	5.8 3	23.1 12	19.2 10	19.2 10	19.2 10	7.7 4	－ －	7.7 4	－ －			
	40歳～49歳	100.0 60	35.0 21	20.0 12	26.7 16	21.7 13	15.0 9	48.3 29	6.7 4	1.7 1	1.7 1	1.7 1			
	50歳～59歳	100.0 76	40.8 31	36.8 28	25.0 19	25.0 19	32.9 25	28.9 22	10.5 8	7.9 6	3.9 3	3.9 3			
	60歳～69歳	100.0 56	33.9 19	41.1 23	30.4 17	25.0 14	35.7 20	21.4 12	16.1 9	8.9 5	1.8 1	5.4 3			
	70歳以上	100.0 73	28.8 21	47.9 35	30.1 22	37.0 27	24.7 18	9.6 7	34.2 25	6.8 5	2.7 2	12.3 9			
有 配 無 偶 別 者	現在配偶者あり	100.0 574	41.8 240	32.6 187	30.7 176	26.5 152	26.8 154	28.0 161	15.7 90	4.7 27	4.0 23	4.9 28			
	未婚又は配偶者なし	100.0 219	36.1 79	27.9 61	30.1 66	29.7 65	28.8 63	24.2 53	15.1 33	4.1 9	7.8 17	3.2 7			

(2) 女性が就労で能力を発揮するための方策（問 14：3 つまで）

問 14. あなたは、女性が職業で能力を発揮するためにどのようなことが必要だと思いますか。（○は 3 つまで）

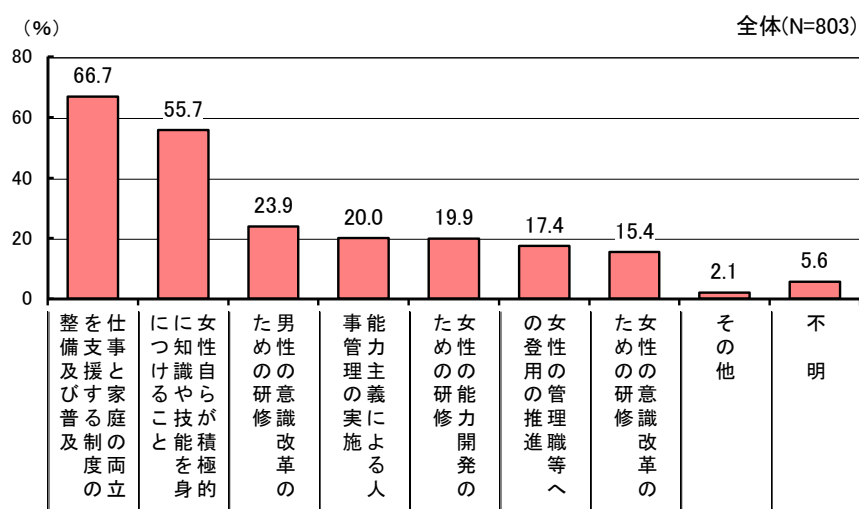
- 全体では、「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備及び普及」、「女性自らが積極的に知識や技能を身に付けること」という意見が突出して多い。
- 男女とも、年齢が低いほど「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備及び普及」、「男性の意識改革のための研修」という意見が多く、女性 60 代以上、男性 70 歳以上になると「女性自らが積極的に知識や技能を身に付けること」ことを望んでいる。

女性が職業で能力を発揮する方法をみると、「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備及び普及」（66.7%）、「女性自らが積極的に知識や技能を身に付けること」（55.7%）が他の意見をぬいて高く、支援制度の整備に加え女性自らの努力が必要だと考える人が多い。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性 60 代以上及び男性 70 歳以上は「女性自らが積極的に知識や技能を身に付けること」という意見が最も多い。また、男女とも年齢が低いほど「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備及び普及」、「男性の意識改革のための研修」を答える人が多い。

配偶者有無別にみると、配偶者のあり、なしにかかわらずほぼ同様の回答結果である。

女性が就労で能力を発揮するための方策(全体)



女性が就労で能力を発揮するための方策(性・年代／配偶者有無別)

(上段: %、下段: 実数)

		サ ン プ ル 数	整を仕 備支事 及援と びす家 普庭の 及制度 の立	に女 につ知 ける識 ことや が積 能を極 身的	た男 めの性 の意 研修識 改の革 の	事能 管力 理主 の義 実による 施人	た女 めの性 の能 研力 修開 の発 の	の女 登性の 用の管 の理 推職 進等 へ	た女 めの性 の意 研修識 改の革 の	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	66.7 536	55.7 447	23.9 192	20.0 161	19.9 160	17.4 140	15.4 124	2.1 17	5.6 45
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	69.6 300	60.1 259	23.0 99	18.6 80	20.9 90	18.6 80	13.0 56	1.4 6	6.0 26
	20歳～29歳	100.0 56	83.9 47	48.2 27	30.4 17	32.1 18	7.1 4	26.8 15	10.7 6	1.8 1	— —
	30歳～39歳	100.0 54	81.5 44	46.3 25	33.3 18	14.8 8	14.8 8	14.8 8	11.1 6	— —	1.9 1
	40歳～49歳	100.0 63	79.4 50	58.7 37	31.7 20	12.7 8	22.2 14	12.7 8	11.1 7	1.6 1	1.6 1
	50歳～59歳	100.0 77	66.2 51	63.6 49	24.7 19	11.7 9	26.0 20	13.0 10	19.5 15	1.3 1	2.6 2
	60歳～69歳	100.0 65	69.2 45	73.8 48	12.3 8	16.9 11	26.2 17	16.9 11	13.8 9	3.1 2	7.7 5
	70歳以上	100.0 116	55.2 64	62.9 73	14.7 17	21.6 25	23.3 27	24.1 28	12.1 14	0.9 1	15.5 18
	男 性 計	100.0 372	63.4 236	50.5 188	25.0 93	21.8 81	18.8 70	15.9 59	18.5 69	3.0 11	5.1 19
	20歳～29歳	100.0 55	70.9 39	45.5 25	41.8 23	12.7 7	12.7 7	16.4 9	20.0 11	3.6 2	— —
	30歳～39歳	100.0 52	75.0 39	36.5 19	23.1 12	19.2 10	17.3 9	7.7 4	7.7 4	5.8 3	— —
	40歳～49歳	100.0 60	68.3 41	45.0 27	33.3 20	20.0 12	8.3 5	15.0 9	26.7 16	— —	1.7 1
	50歳～59歳	100.0 76	59.2 45	51.3 39	25.0 19	22.4 17	18.4 14	15.8 12	13.2 10	6.6 5	5.3 4
	60歳～69歳	100.0 56	64.3 36	55.4 31	16.1 9	28.6 16	21.4 12	16.1 9	23.2 13	— —	7.1 4
	70歳以上	100.0 73	47.9 35	64.4 47	13.7 10	27.4 20	31.5 23	21.9 16	19.2 14	1.4 1	13.7 10
有 配 無 偶 別 者	現在配偶者あり	100.0 574	66.9 384	58.2 334	22.5 129	19.3 111	20.9 120	16.9 97	15.9 91	1.6 9	6.1 35
	未婚又は配偶者なし	100.0 219	67.6 148	48.9 107	28.8 63	21.5 47	18.3 40	18.7 41	15.1 33	3.7 8	3.2 7

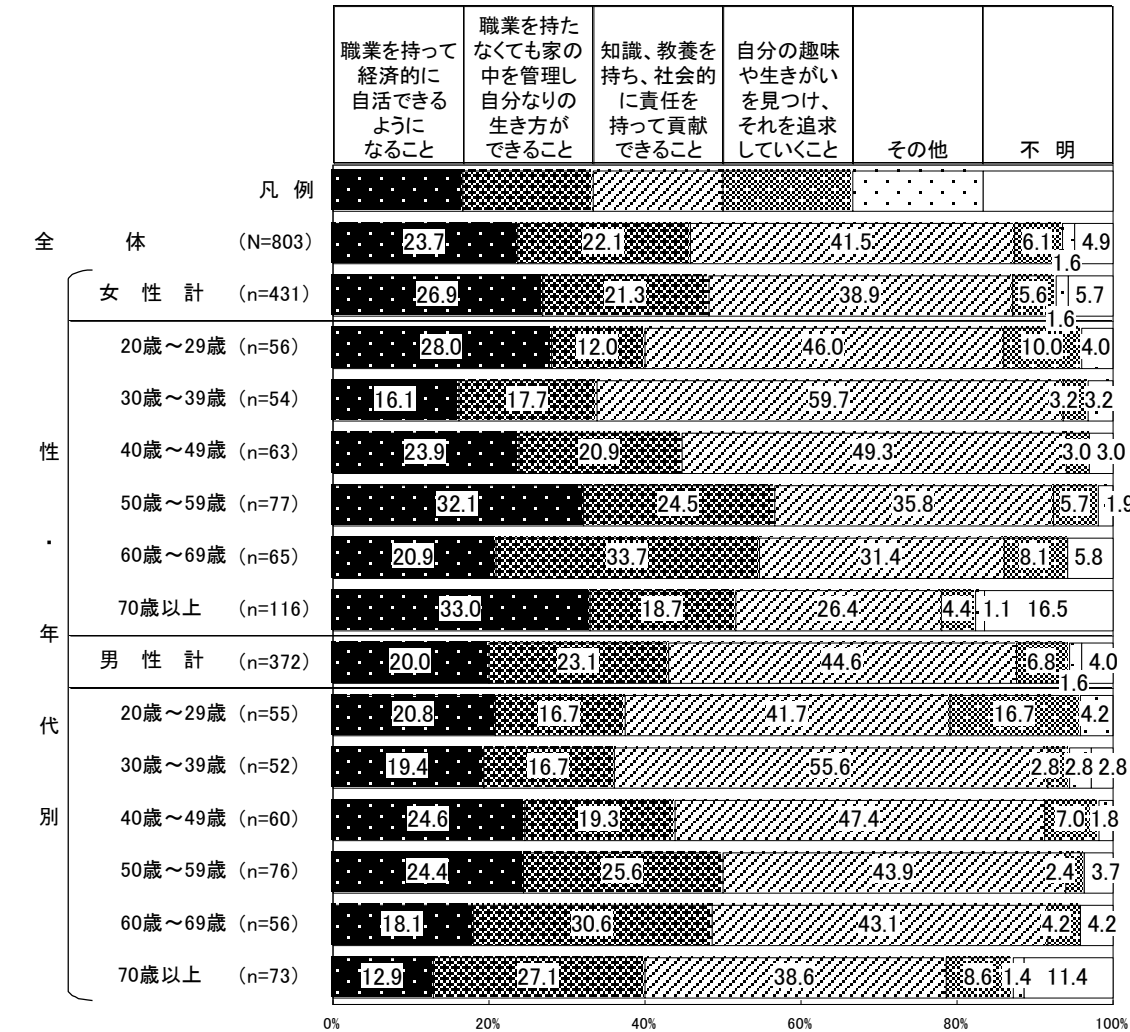
(3)「女性の自立」とは、どのようなこと (問 15)

問 15. あなたは、「女性の自立」とはどういうことだと思いますか。(〇は1つ)	
●全体では、『社会的貢献』(=「知識、教養を持ち、社会的に責任を持って貢献できること」)を考える人が4割を占め最も多い。	
●女性 60 代は「家庭内管理」、女性 70 歳以上は「職業による自活」を第1優先と考える人が多い。	

「女性の自立」について尋ねたところ、「知識、教養を持ち、社会的に責任を持って貢献できること」が 41.5%で最も高く、次いで「職業を持って経済的に自活できるようになること」(23.7%)、「職業を持たなくても家の中を管理し、自分なりの生き方ができること」(22.1%)、「自分の趣味や生きがいを見つけ、それを追求していくこと」(6.1%)となり、社会的な貢献を第1にあげる人が多い。

性・年代別にみると、男性が女性に比べ「知識、教養を持ち、社会的に責任を持って貢献できること」という割合がやや高く、女性 60 代は「職業を持たなくても家の中を管理し、自分なりの生き方ができること」、女性 70 歳以上は「職業を持って経済的に自活できるようになること」と考える人が最も多い。

「女性の自立」とは、どのようなこと(性・年代別)



（４）女性の就労継続上での障害（問 16：３つまで）

問 16. 女性が職業を持ち続ける上で、障害になっていることは何だと思われますか。（○は３つまで）

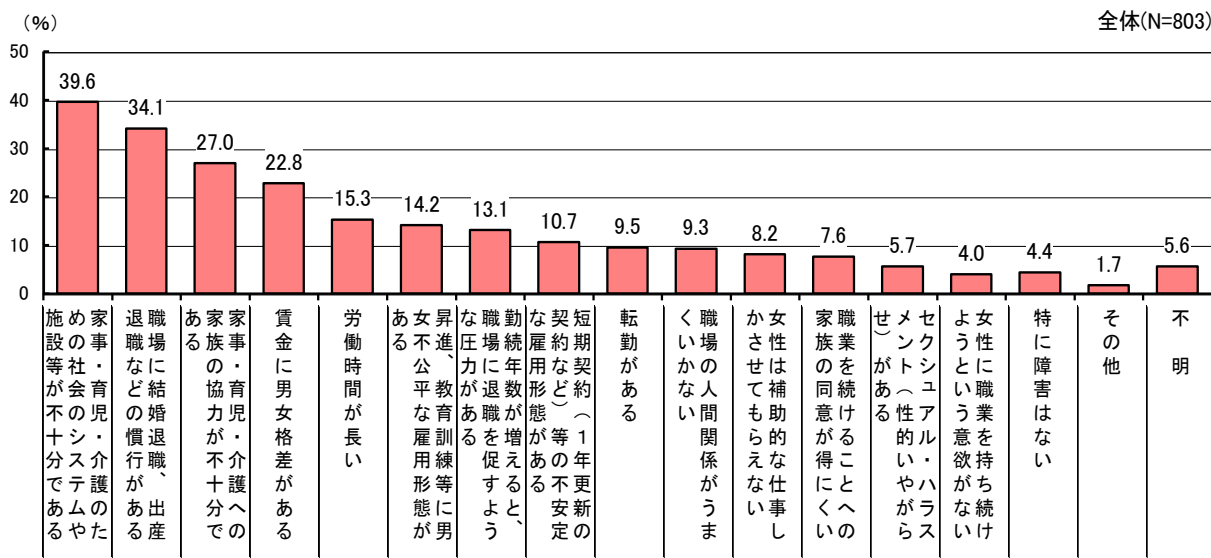
- 全体では、「家庭内における家事・育児・介護」、「職場環境や職場慣行」の障害が上位を占める。
- 男性、女性に関らず「特に問題はない」と回答する人は１割にも満たない。

女性の就労継続上での障害をみると、「家事・育児・介護のための社会のシステムや施設等が不十分である」が 39.6%で最も高く、次いで「職場に結婚退職、出産退職などの慣行がある」(34.1%)、「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」(27.0%)、「賃金に男女格差がある」(22.8%)となり、家庭内における家事・育児・介護の比重や職場環境や職場慣行が上位にあがっている。なお、「特に障害はない」(4.4%)と答える人は１割にも満たない。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であり、「特に問題はない」と答える人は極めて少ない。また、女性 50 代は「短期契約等の不安定な雇用形態がある」、男性 20 代は「セクシャル・ハラスメントがある」という意見が他の年代に比べ高い。

配偶者有無別にみると、未婚又は配偶者なしの場合「職場に結婚退職、出産退職などの慣行がある」、「セクシャル・ハラスメントがある」という回答が配偶者ありに比べ多くなっている。

女性の就労継続上での障害(全体)



女性の就労継続上での障害(性・年代／配偶者有無別)

(上段: %、下段: 実数)

		サンプル数	家事・育児・介護のための社会のシステムや施設等が不十分である	職場に結婚退職、出産退職などの慣行がある	家事・育児・介護への家族の協力が不十分である	賃金に男女格差がある	労働時間が長い	昇進、教育訓練等に男女不公平な雇用形態がある	勤続年数が増え、職場に退職を促すような圧力がある	短期契約（1年更新の契約など）等の不安定な雇用形態がある	転職がある	職場の人間関係がうまくいかない	女性に補助的な仕事しかさせてもらえない	職業を続けることへの家族の同意が得にくい	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）がある	意欲がない	特に障害はない	その他	不明
全 体		100.0 803	39.6 318	34.1 274	27.0 217	22.8 183	15.3 123	14.2 114	13.1 105	10.7 86	9.5 76	9.3 75	8.2 66	7.6 61	5.7 46	4.0 32	4.4 35	1.7 14	5.6 45
性・年代別	女 性 計	100.0 431	43.2 186	31.1 134	29.0 125	22.5 97	18.1 78	12.5 54	13.5 58	12.1 52	10.4 45	10.4 45	7.7 33	7.9 34	3.2 14	3.7 16	3.2 14	1.9 8	6.3 27
	20歳～29歳	100.0 56	48.2 27	48.2 27	33.9 19	19.6 11	12.5 7	12.5 7	12.5 7	12.5 7	5.4 3	5.4 3	10.7 6	5.4 3	7.1 4	3.6 2	5.4 3	-	-
	30歳～39歳	100.0 54	61.1 33	31.5 17	31.5 17	29.6 16	16.7 9	11.1 6	7.4 4	3.7 2	7.4 4	5.6 3	1.9 1	5.6 3	5.6 3	5.6 3	1.9 3	-	-
	40歳～49歳	100.0 63	50.8 32	36.5 23	33.3 21	17.5 11	22.2 14	14.3 9	12.7 8	6.3 4	9.5 6	3.2 2	3.2 2	11.1 7	3.2 2	3.2 2	3.2 2	1.6 1	3.2 2
	50歳～59歳	100.0 77	41.6 32	28.6 22	31.2 24	16.9 13	18.2 14	16.9 13	15.6 12	28.6 22	7.8 6	15.6 12	5.2 4	5.2 4	1.3 1	5.2 4	2.6 2	1.3 1	1.3 1
	60歳～69歳	100.0 65	41.5 27	24.6 16	21.5 14	27.7 18	21.5 14	15.4 10	12.3 8	9.2 6	13.8 9	18.5 12	7.7 5	4.6 3	1.5 1	3.1 2	3.1 2	3.1 2	7.7 5
	70歳以上	100.0 116	29.3 34	25.0 29	25.0 29	24.1 28	17.2 20	7.8 9	16.4 19	9.5 11	14.7 17	11.2 13	12.9 15	12.1 14	3.4 4	3.4 4	0.9 1	2.6 3	16.4 19
	男 性 計	100.0 372	35.8 133	37.6 140	24.7 92	22.8 85	12.1 45	16.1 60	12.6 47	9.4 35	8.6 32	8.1 30	8.9 33	7.0 26	8.3 31	4.3 16	5.4 20	1.6 6	4.8 18
	20歳～29歳	100.0 55	45.5 25	50.9 28	16.4 9	29.1 16	9.1 5	16.4 9	12.7 7	9.1 5	-	3.6 2	3.6 2	3.6 2	32.7 18	-	3.6 2	3.6 2	-
	30歳～39歳	100.0 52	30.8 16	48.1 25	30.8 16	13.5 7	5.8 3	1.9 1	17.3 9	13.5 7	7.7 4	5.8 3	5.8 3	5.8 3	7.7 4	1.9 1	1.9 1	-	5.8 3
	40歳～49歳	100.0 60	46.7 28	38.3 23	36.7 22	26.7 16	10.0 6	11.7 7	11.7 7	6.7 4	1.7 1	3.3 2	6.7 4	10.0 6	1.7 1	8.3 5	5.0 3	1.7 1	-
	50歳～59歳	100.0 76	39.5 30	28.9 22	28.9 22	23.7 18	15.8 12	22.4 17	2.6 2	7.9 6	9.2 7	9.2 7	13.2 10	7.9 6	5.3 4	3.9 3	7.9 6	1.3 1	3.9 3
	60歳～69歳	100.0 56	32.1 18	28.6 16	17.9 10	25.0 14	16.1 9	28.6 16	12.5 7	8.9 5	16.1 9	8.9 5	7.1 4	5.4 3	1.8 1	5.4 3	7.1 4	-	5.4 3
	70歳以上	100.0 73	21.9 16	35.6 26	17.8 13	20.5 15	12.3 9	12.3 9	21.9 16	11.0 8	12.3 9	13.7 10	12.3 9	8.2 6	4.1 3	4.1 3	4.1 3	2.7 2	12.3 9
有配偶者 無配偶者	現在配偶者あり	100.0 574	39.2 225	31.2 179	27.9 160	22.3 128	15.2 87	13.2 76	12.4 71	11.3 65	10.6 61	10.1 58	8.9 51	7.7 44	3.0 17	4.5 26	5.2 30	1.7 10	5.9 34
	未婚又は配偶者なし	100.0 219	41.6 91	42.5 93	25.1 55	23.7 52	16.0 35	16.9 37	14.6 32	9.6 21	6.8 15	6.8 15	6.8 15	6.8 15	12.8 28	2.7 6	1.8 4	2.3 5	3.7 8

(5) 就労している理由（問 17：複数回答）

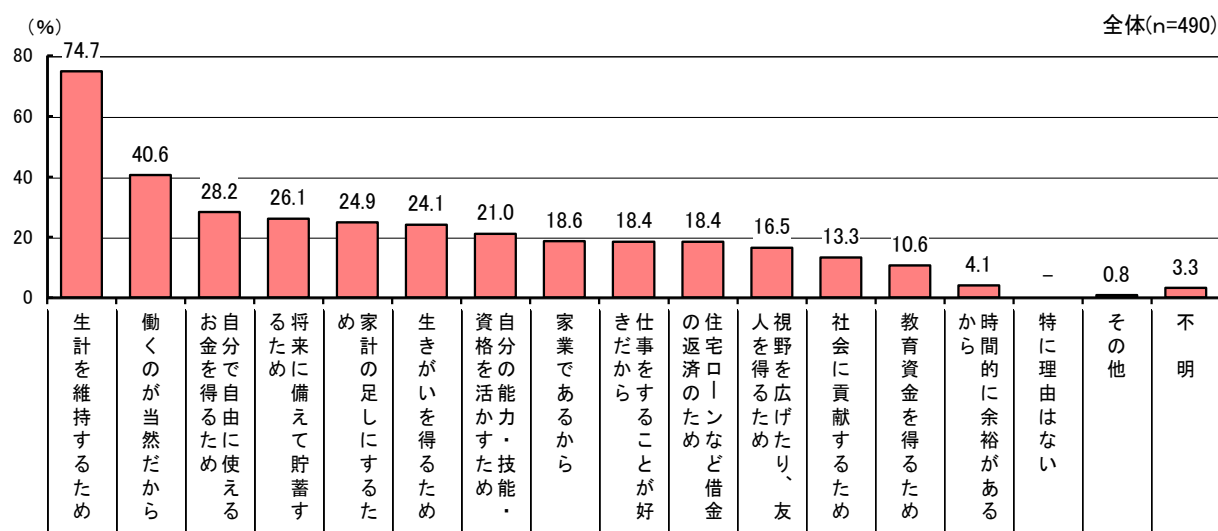
問 17. 現在、仕事をしている方におたずねします。あなたが、現在働いているのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）

- 男女ともに「生計を維持するため」が最大の理由であり、その傾向は男性に高い。
- また、男女とも 20 代は「自分で自由に使えるお金を得るため」という理由をあげる人が多い。

現在仕事をしている人(490 人)の就労理由をみると、「生計を維持するため」が 74.7%と突出して高く、4人中3人は生計維持が最大の理由である。以下、「働くのが当然だから」(40.6%)、「自分で自由に使えるお金を得るため」(28.2%)、「将来に備えて貯蓄するため」(26.1%)、「家計の足しにするため」(24.9%)、「生きがいを得るため」(24.1%)、「自分の能力・技能・資格を活かすため」(21.0%)となり、生計維持以外では様々な意見が上がっている。

性・年代別にみると、男女とも「生計を維持するため」が最も高く、男性はその傾向が特に強い。一方、女性に比べ「家計の足しにするため」、「自分の能力・技能・資格を活かすため」、「仕事をするのが好きだから」という理由をあげる人が多い。また、女性 20 代は「自分で自由に使えるお金を得るため」、「将来に備えて貯蓄するため」、男性 20 代は「自分で自由に使えるお金を得るため」という理由をあげる人が多い。

就労している理由（全体）



就労している理由(性・年代別)

(上段:％、下段:実数)

		サンプル数	生計を維持するため	働くのが当然だから	お金を得るため	自分で自由に使える	将来に備えて貯蓄するため	家計の足しにするため	生きがいを得るため	自分の能力・技能・資格を活かすため	家業であるから	仕事をすることが好きだから	住宅ローンなど借金の返済のため	視野を広げたり、友を得るため	社会に貢献するため	教育資金を得るため	時間的に余裕があるから	特に理由はない	その他	不明
全 体		100.0 490	74.7 366	40.6 199	28.2 138	26.1 128	24.9 122	24.1 118	21.0 103	18.6 91	18.4 90	18.4 90	16.5 81	13.3 65	10.6 52	4.1 20	- -	0.8 4	3.3 16	
性・年代別	女 性 計	100.0 230	60.4 139	33.0 76	29.1 67	30.0 69	35.2 81	26.5 61	24.8 57	20.9 48	25.7 59	15.7 36	20.4 47	8.3 19	10.4 24	6.5 15	- -	1.7 4	3.0 7	
	20歳～29歳	100.0 41	58.5 24	36.6 15	58.5 24	48.8 20	36.6 15	9.8 4	39.0 16	- -	19.5 8	7.3 3	26.8 11	4.9 2	9.8 4	2.4 1	- -	2.4 1	- -	
	30歳～39歳	100.0 39	61.5 24	28.2 11	28.2 11	33.3 13	41.0 16	20.5 8	28.2 11	7.7 3	25.6 10	17.9 7	15.4 6	2.6 1	10.3 4	7.7 3	- -	5.1 2	- -	
	40歳～49歳	100.0 51	54.9 28	21.6 11	23.5 12	29.4 15	39.2 20	33.3 17	29.4 15	11.8 6	23.5 12	19.6 10	27.5 14	15.7 8	19.6 10	9.8 5	- -	- -	3.9 2	
	50歳～59歳	100.0 57	73.7 42	36.8 21	28.1 16	29.8 17	31.6 18	40.4 23	24.6 14	21.1 12	29.8 17	19.3 11	21.1 12	12.3 7	8.8 5	12.3 7	- -	1.8 1	- -	
	60歳～69歳	100.0 22	63.6 14	36.4 8	13.6 3	18.2 4	22.7 5	22.7 5	4.5 1	59.1 13	22.7 5	9.1 2	13.6 3	4.5 1	- -	- -	- -	- -	9.1 2	
	70歳以上	100.0 19	42.1 8	52.6 10	5.3 1	- -	42.1 8	21.1 4	- -	73.7 14	42.1 8	15.8 3	- -	5.3 1	- -	- -	- -	- -	15.8 3	
	男 性 計	100.0 260	87.3 227	47.3 123	26.9 70	22.3 58	15.8 41	21.9 57	17.7 46	16.9 44	11.9 31	20.4 53	13.1 34	17.7 46	10.4 27	1.9 5	- -	- -	3.5 9	
	20歳～29歳	100.0 41	90.2 37	68.3 28	61.0 25	34.1 14	22.0 9	26.8 11	22.0 9	12.2 5	17.1 7	17.1 7	22.0 9	17.1 7	12.2 5	- -	- -	- -	- -	
	30歳～39歳	100.0 49	87.8 43	40.8 20	32.7 16	26.5 13	14.3 7	24.5 12	12.2 6	12.2 6	6.1 3	18.4 9	14.3 7	26.5 13	20.4 10	- -	- -	- -	- -	
	40歳～49歳	100.0 56	96.4 54	42.9 24	16.1 9	23.2 13	10.7 6	14.3 8	26.8 15	14.3 8	10.7 6	25.0 14	14.3 8	25.0 14	10.7 6	- -	- -	- -	- -	
	50歳～59歳	100.0 64	96.9 62	54.7 35	20.3 13	23.4 15	9.4 6	23.4 15	15.6 10	15.6 10	10.9 7	29.7 19	10.9 7	15.6 10	9.4 6	1.6 1	- -	- -	3.1 2	
	60歳～69歳	100.0 31	71.0 22	35.5 11	16.1 5	9.7 3	29.0 9	22.6 7	9.7 3	29.0 9	16.1 5	16.1 5	3.2 1	6.5 2	- -	12.9 4	- -	- -	9.7 3	
	70歳以上	100.0 19	47.4 9	26.3 5	10.5 2	5.3 1	15.8 3	21.1 4	15.8 3	31.6 6	10.5 2	5.3 1	5.3 1	- -	- -	- -	- -	- -	21.1 4	

(6) 就労していない理由（問 18：複数回答）

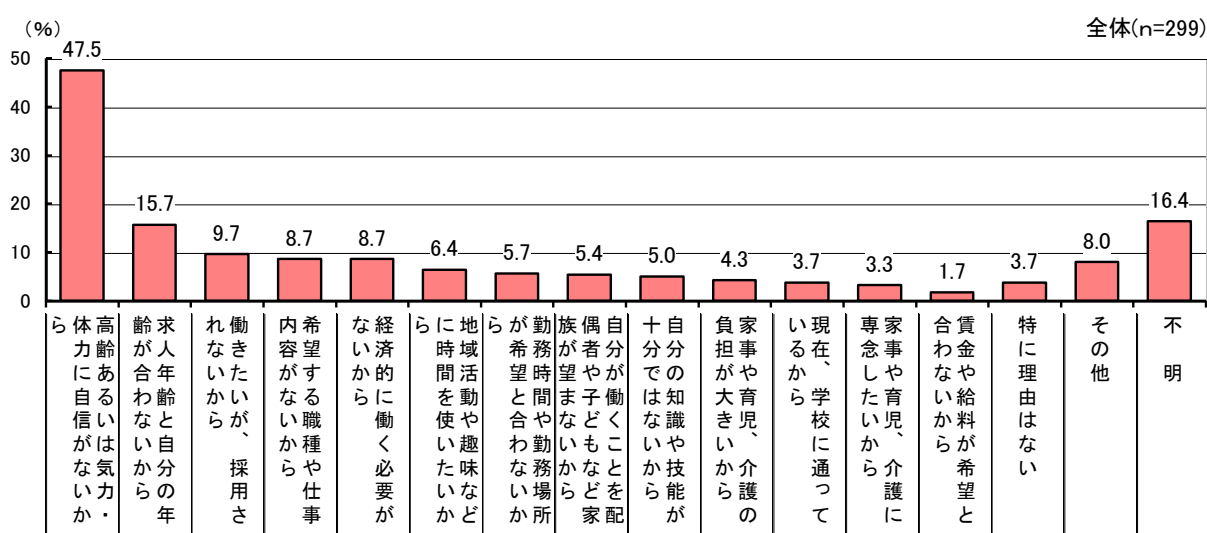
問 18. 現在、仕事をしていない方におたずねします。あなたが、現在働いていないのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）

●非就労者は高齢者に特化しているため、「高齢あるいは気力・体力に自信がないので」という理由が中心である。

現在仕事をしていない人（299 人）の非就労理由をみると、「高齢あるいは気力・体力に自信がないので」が 47.5%と突出して高く、全体の約半数を占める。次いで「求人年齢と自分の年齢が合わない」（15.7%）という理由が上がっている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であり、「高齢あるいは気力・体力に自信がないので」という理由が突出している。また、年代別にはサンプルが少ないため、分析は省略する。

就労していない理由（全体）



就労していない理由(性・年代別)

(上段:%, 下段:実数)

		サンプル数	高齢者 がないから	求職年齢 と自分の 年齢が合 わ	働きたい が、採用 されないか	希望する 職種や仕 事内容が な	経済的に 働く必要 がないから	地域活動 や趣味な どに時間 を	合勤務時 間や勤務 場所が希 望と	自分など 家族が望 まないか ら	自分の知 識や技能 が十分で は	家事や育 児、介護 の負担が 大	現在、学 校に通っ ているか ら	家事や育 児、介護 に専念し た	賃金や給 料が希望 と合わない	特に理由 はない	その他	不明
全 体		100.0 299	47.5 142	15.7 47	9.7 29	8.7 26	8.7 26	6.4 19	5.7 17	5.4 16	5.0 15	4.3 13	3.7 11	3.3 10	1.7 5	3.7 11	8.0 24	16.4 49
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 194	49.5 96	12.9 25	7.7 15	7.7 15	10.3 20	6.7 13	5.7 11	5.2 10	6.2 12	6.2 12	3.6 7	4.6 9	0.5 1	3.1 6	6.2 12	15.5 30
	20歳～29歳	100.0 15	6.7 1	-	-	-	13.3 2	6.7 1	6.7 1	-	6.7 1	20.0 3	46.7 7	20.0 3	-	-	6.7 1	-
	30歳～39歳	100.0 15	6.7 1	6.7 1	6.7 1	13.3 2	13.3 2	6.7 1	13.3 2	20.0 3	13.3 2	33.3 5	-	26.7 4	-	6.7 1	13.3 2	6.7 1
	40歳～49歳	100.0 12	25.0 3	8.3 1	8.3 1	33.3 4	16.7 2	8.3 1	25.0 3	25.0 3	16.7 2	-	-	8.3 1	-	-	-	16.7 2
	50歳～59歳	100.0 20	35.0 7	20.0 4	10.0 2	10.0 2	15.0 3	10.0 2	15.0 3	-	10.0 2	10.0 2	-	5.0 1	5.0 1	5.0 1	5.0 1	15.0 3
	60歳～69歳	100.0 41	48.8 20	24.4 10	9.8 4	9.8 4	9.8 4	12.2 5	4.9 2	2.4 1	2.4 1	-	-	-	-	4.9 2	9.8 4	19.5 8
	70歳以上	100.0 92	70.7 65	10.9 10	8.7 8	4.3 4	8.7 8	3.3 3	1.1 1	4.3 4	4.3 4	1.1 1	-	-	-	3.3 3	4.3 4	18.5 17
	男 性 計	100.0 105	43.8 46	20.0 21	13.3 14	10.5 11	5.7 6	5.7 6	5.7 6	5.7 6	2.9 3	1.0 1	4.8 5	1.0 1	3.8 4	4.8 5	11.4 12	19.0 20
	20歳～29歳	100.0 14	-	-	14.3 2	14.3 2	-	-	-	-	-	-	35.7 5	-	14.3 2	-	-	35.7 5
	30歳～39歳	100.0 3	33.3 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3 1
	40歳～49歳	100.0 3	33.3 1	100.0 3	66.7 2	66.7 2	-	-	66.7 2	-	-	33.3 1	-	-	33.3 1	-	33.3 1	-
	50歳～59歳	100.0 10	30.0 3	20.0 2	-	-	10.0 1	-	10.0 1	10.0 1	10.0 1	-	-	-	-	-	30.0 3	40.0 4
	60歳～69歳	100.0 25	24.0 6	32.0 8	16.0 4	20.0 5	4.0 1	8.0 2	8.0 2	12.0 3	-	-	-	-	4.0 1	16.0 4	20.0 5	20.0 5
	70歳以上	100.0 50	68.0 34	16.0 8	10.0 5	4.0 2	8.0 4	8.0 4	2.0 1	4.0 2	4.0 2	-	-	2.0 1	-	2.0 1	6.0 3	10.0 5

5. 家庭生活や介護について

(1) 男性の「育児休業」、「介護休業」取得に対する意識（問 19）

問 19. 男女が働きやすい職場を作るため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることについて、どのように思いますか。

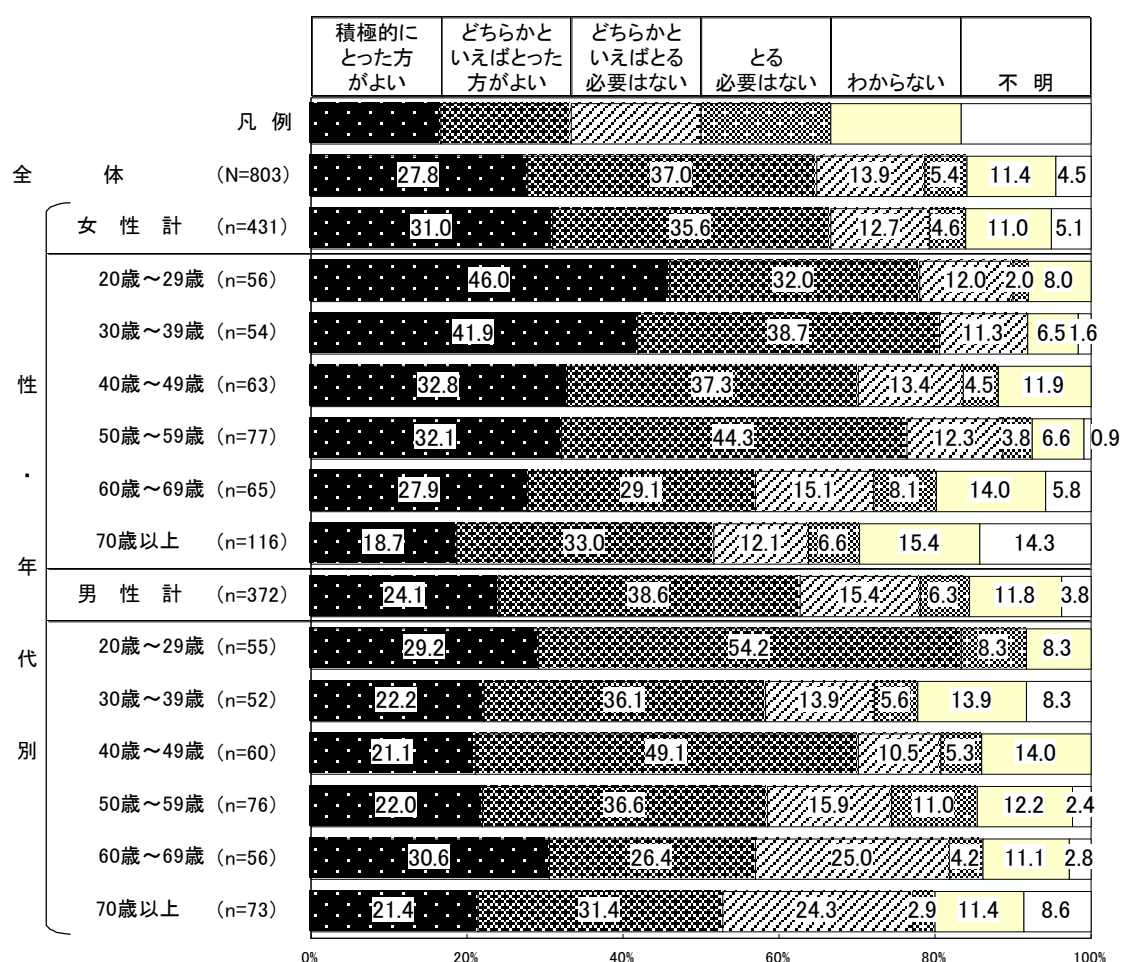
- 育児休業制度の『取得意向派』が全体の6割強を占め、最も低い女性 70 歳以上でも過半数を占める。
- 介護休業制度の『取得意向派』が全体の7割強を占め、最も低い女性 70 歳以上でも6割強を占める。

A: 育児休業

男性の育児休業取得についてみると、「積極的にとったほうがよい」が 27.8%、「どちらかといえばとったほうがよい」が 37.0%でこれらを合計した『取得意向派』が6割強を占め、「どちらかといえばとる必要はない」(13.9%)、「とる必要はない」(5.4%)をあわせた『非取得意向派』(19.3%)を大きく上回っている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、年齢が高くなるほど『取得意向派』の割合が低い。しかし、その割合が最も低い女性 70 歳以上でも『取得意向派』は過半数を占める。

男性の「育児休業」取得に対する意識（性・年代別）

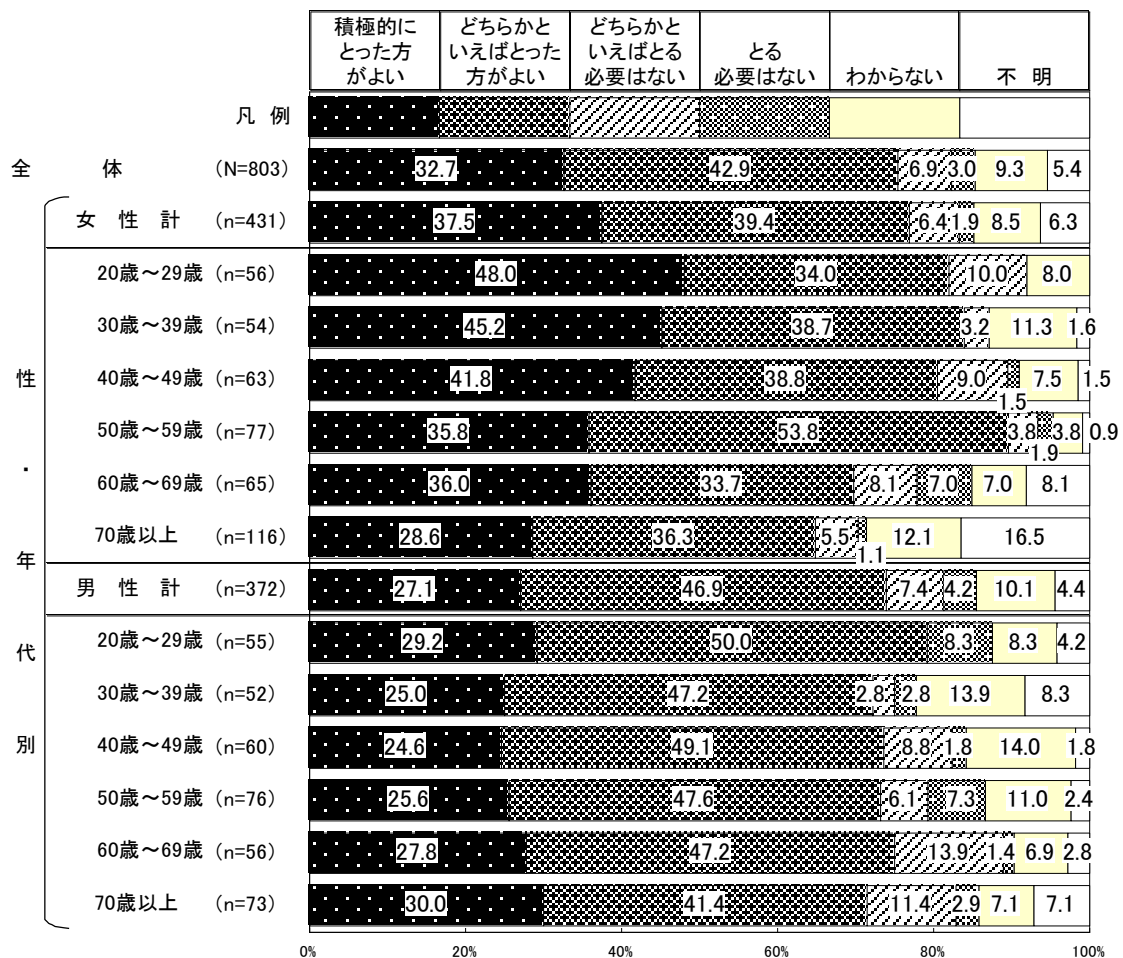


B:介護休業

男性の介護休業取得についてみると、「積極的にとったほうがよい」が 32.7%、「どちらかといえばとったほうがよい」が 42.9%でこれらを合計した『取得意向派』が7割強を占め、「どちらかといえばとる必要はない」(6.9%)、「とる必要はない」(3.0%)をあわせた『非取得意向派』は1割(9.9%)にも満たず、『取得意向派』が大半を占める。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性 50 歳代の『取得意向派』の割合が高い。しかし、その割合が最も低い女性 70 歳以上でも『取得意向派』は 6 割強を占める。

「介護休業」に対する意識(性・年代別)



(2) 男性が「育児休業」、「介護休業」をあまり取らない理由（問 20：複数回答）

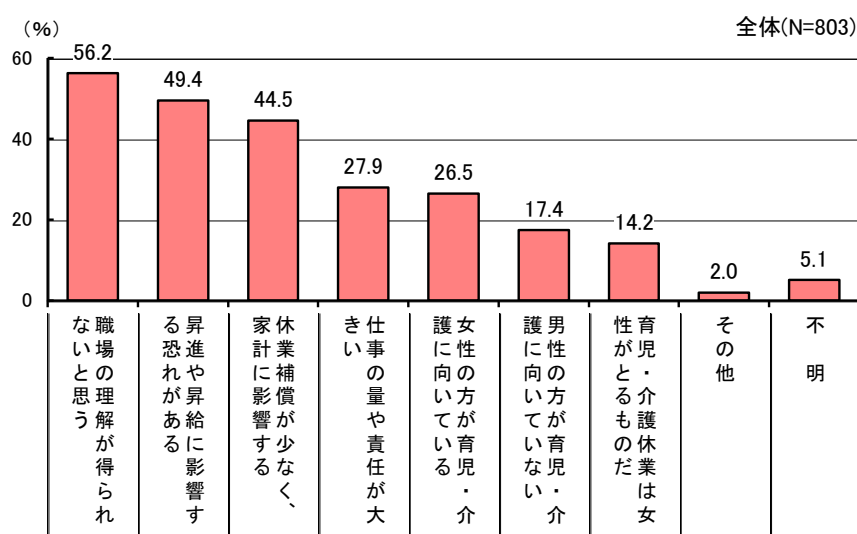
問 20. 育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思いますか。（○はいくつでも）

- 男女とも「職場の理解が得られないと思う」と考える人が最も多い。
- 男性 20 代を除けば「昇進や昇給に影響する恐れがある」という考え方は、男性は年齢が高くなるほど、女性は年齢が低くなるほど傾向が強い。

男性が「育児休業」、「介護休業」をあまり取らない理由をみると、「職場の理解が得られないと思う」が 56.2%で最も高く、次いで「昇進や昇給に影響する恐れがある」(49.4%)、「休業補償が少なく、家計に影響する」(44.5%)、「仕事の量や責任が大きい」(27.9%)、「女性のほうが育児・介護にむいている」(26.5%)となり、職場の理解や待遇面が理由だと考える人が多い。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、年齢が低くなるほど「職場の理解が得られないと思う」、男女 60 代以上は「女性のほうが育児・介護にむいている」、「男性のほうが育児・介護にむいていない」と考える人が多い。しかし、「昇進や昇給に影響する恐れがある」という理由は、女性の場合年齢が低くなるほど多くなるものの男性は 20 代を除けば全く逆の傾向であり、男女の年齢による意識が異なる。

男性が「育児休業」、「介護休業」をあまり取らない理由(全体)



男性が「育児休業」、「介護休業」をあまり取らない理由(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

	サンプル数	職場の理解が得られないと思う	昇進や昇給に影響する恐れがある	休業補償が少なく、家計に影響する	仕事の量や責任が大き	女性の方が育児・介護に向いている	男性の方が育児・介護に向いている	育児・介護休業は女性	その他	不明
全 体	100.0 803	56.2 451	49.4 397	44.5 357	27.9 224	26.5 213	17.4 140	14.2 114	2.0 16	5.1 41
性・年代別	女 性 計	100.0 431	58.7 253	52.4 226	47.8 206	27.1 117	25.8 111	16.9 68	2.8 12	6.0 26
	20歳～29歳	100.0 56	62.5 35	67.9 38	60.7 34	35.7 20	19.6 11	3.6 2	14.3 8	5.4 3
	30歳～39歳	100.0 54	77.8 42	64.8 35	64.8 35	27.8 15	7.4 4	5.6 3	18.5 10	5.6 3
	40歳～49歳	100.0 63	74.6 47	55.6 35	47.6 30	36.5 23	27.0 17	15.9 10	23.8 15	1.6 1
	50歳～59歳	100.0 77	66.2 51	53.2 41	57.1 44	32.5 25	20.8 16	9.1 7	11.7 9	2.6 2
	60歳～69歳	100.0 65	40.0 26	43.1 28	40.0 26	16.9 11	35.4 23	21.5 14	15.4 10	3.1 2
	70歳以上	100.0 116	44.8 52	43.1 50	31.9 37	20.7 24	34.5 40	26.7 31	19.0 22	0.9 1
	男 性 計	100.0 372	53.2 198	46.0 171	40.6 151	28.8 107	27.7 103	19.4 72	11.0 41	1.1 4
	20歳～29歳	100.0 55	70.9 39	61.8 34	41.8 23	25.5 14	20.0 11	16.4 9	16.4 9	- -
	30歳～39歳	100.0 52	63.5 33	25.0 13	48.1 25	23.1 12	19.2 10	13.5 7	13.5 7	- -
	40歳～49歳	100.0 60	63.3 38	41.7 25	45.0 27	48.3 29	20.0 12	18.3 11	6.7 4	1.7 1
	50歳～59歳	100.0 76	48.7 37	43.4 33	46.1 35	30.3 23	27.6 21	15.8 12	9.2 7	1.3 1
	60歳～69歳	100.0 56	41.1 23	46.4 26	41.1 23	28.6 16	35.7 20	28.6 16	8.9 5	1.8 1
	70歳以上	100.0 73	37.0 27	54.8 40	24.7 18	17.8 13	38.4 28	23.3 17	11.0 8	1.4 1

(3)「育児休業」、「介護休業」のとりやすさ (問 21)

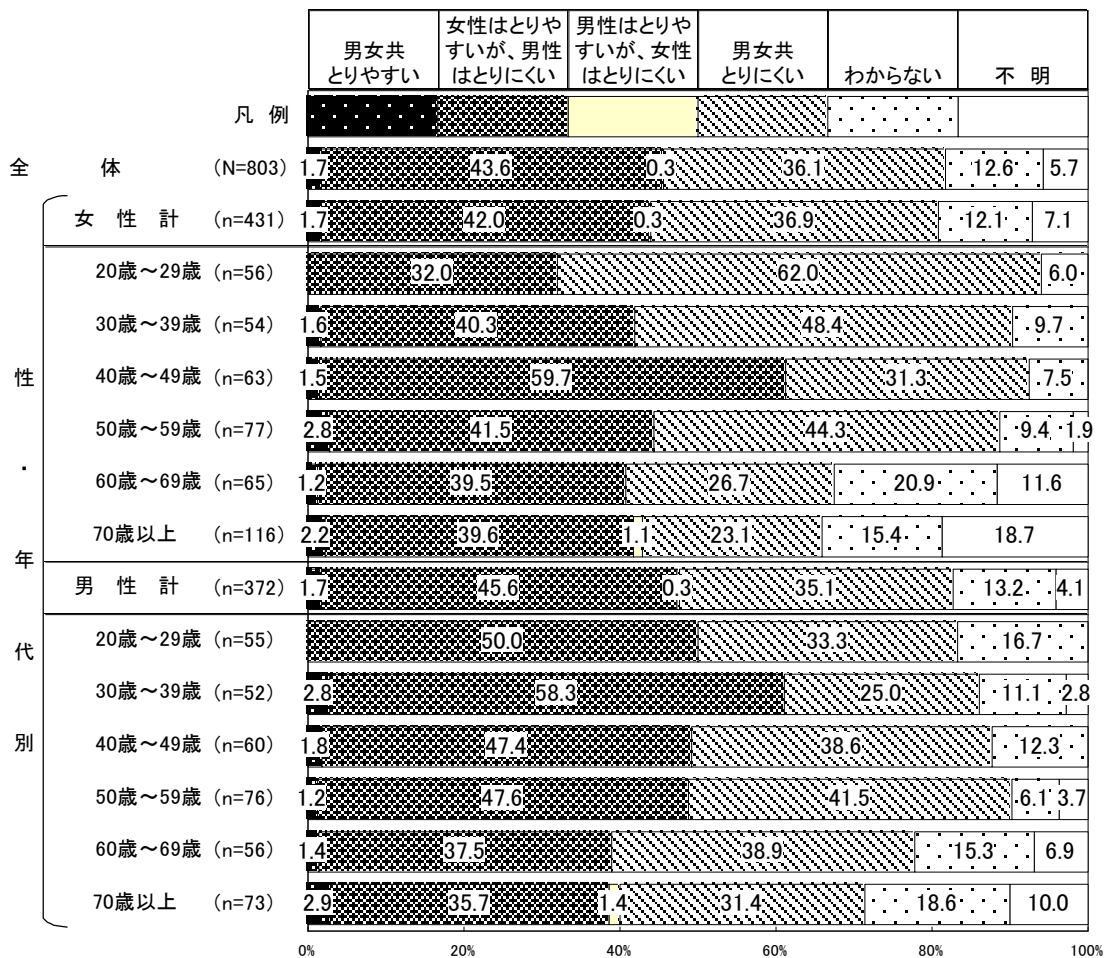
問 21. いま、「育児休業」や「介護休業」をとりやすい環境にあると思いますか。(○は1つ)

- 全体では、「男女ともとりやすい」と考える人はほとんどなく、「女性はとりやすいが、男性はとりにくい」又は、「男女ともとりにくい」と考える人が中心である。
- 男女による差はほとんどないが、女性の若年層ほど「男女ともとりにくい」と考える人が最も多い。

「育児休業」、「介護休業」のとりやすさをみると、「女性はとりやすいが、男性はとりにくい」と考える人が43.6%で最も高く、次いで「男女ともとりにくい」(36.1%)とこの2者が主な回答であり、「男女ともとりやすい」(1.7%)、「男性はとりやすいが、女性はとりにくい」(0.3%)と考える人はほとんどいない。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果となっているが、女性20～30代と女性50代及び男性60代は「男女ともとりにくい」と考える人が最も多い。

「育児休業」、「介護休業」のとりやすさ(性・年代別)



(4) 豊かな老後を送るための方策 (問 22 : 複数回答)

問 22. 高齢社会をむかえ、豊かな老後を送るために、あなたはどのようにしたいと思いますか。(〇は1つ)

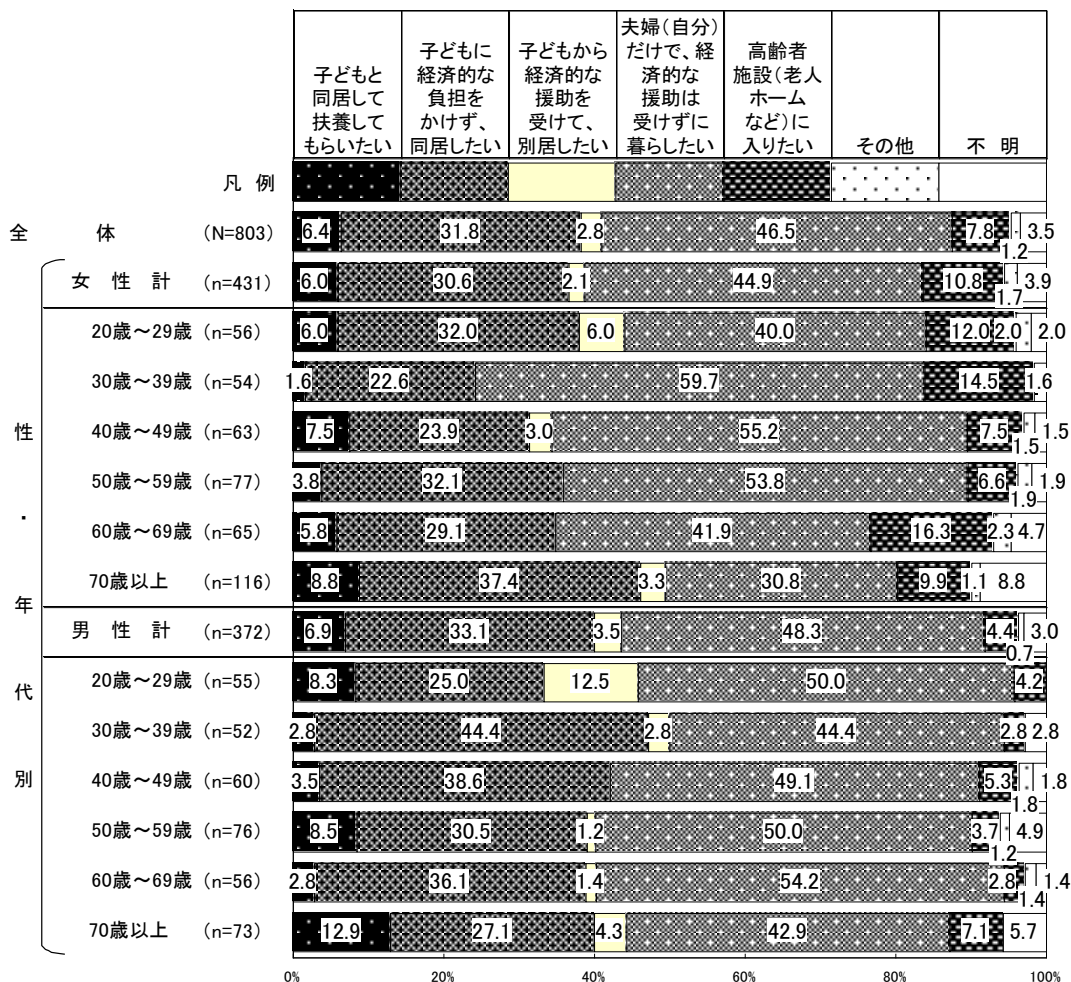
- 老後の暮らしについては、「夫婦(自分)だけで、経済的な援助は受けずに暮らしたい」(46.5%)で最も多いものの、『子どもとの同居意向派』も全体の約4割を占める。
- 老後の生きがいについては、「趣味を持つ」、「家族・友人との交流を大切にする」に特化しているが、それ以外では性・年代による回答の違いがみられる。

A: 老後の暮らし

豊かな老後を送るための老後の暮らしをみると、「夫婦(自分)だけで、経済的な援助は受けずに暮らしたい」と考える人が 46.5%で最も高く、次いで「子どもに経済的な負担をかけず、同居したい」(31.8%)とこの2者が主な回答であり、「高齢者施設(老人ホームなど)に入りたい」(7.8%)、「子どもと同居して扶養してもらいたい」(6.4%)、「子どもから経済的な援助を受けて、別居したい」(2.8%)と考える人はそれぞれ1割にも満たない。いわゆる、『子どもとの同居意向派』は約4割(38.2%)、『子どもとの非同居意向派』は6割弱(57.1%)である。

性・年代別にみると、女性が男性に比べ「高齢者施設(老人ホームなど)に入りたい」と答える人が多い。また、女性 70 代以上はどの年代とも「夫婦(自分)だけで、経済的な援助は受けずに暮らしたい」と考える人が最も多いが、女性 70 歳以上は「子どもに経済的な負担をかけず、同居したい」と考える人が最も多い。

豊かな老後を送るための方策＜老後の暮らし＞(性・年代別)

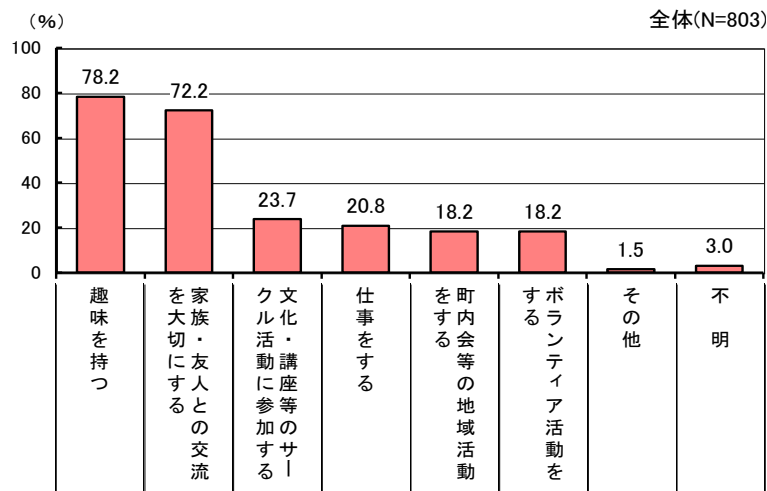


B:老後の生きがい

豊かな老後を送るための老後の生きがいをみると、「趣味を持つ」が 78.2%で最も高く、次いで「家族・友人との交流を大切にする」(72.2%)とこの2者の回答が突出しており、以下、「文化・講座等のサークル活動に参加する」(23.7%)、「仕事をする」(20.8%)、「町内会等の地域活動をする」(18.2%)、「ボランティア活動をする」(18.2%)と続いている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、年齢が高いほど「家族・友人との交流を大切にする」ことを第1に優先し、加えて「町内会等の地域活動をする」と答える人が他層に比べ多い。また、女性 30 代は「文化・講座等のサークル活動に参加する」、女性 40～50 代は「ボランティア活動をする」、女性 60 代は「仕事をする」と答える人が多い。

豊かな老後を送るための方策＜老後の生きがい＞(全体)



豊かな老後を送るための方策＜老後の生きがい＞(性・年代別)

(上段: %, 下段: 実数)

	サンプル数	趣味を持つ	家族・友人との交流を大切にする	クル文化・講座等のサークル活動に参加する	仕事をする	町内会等の地域活動をする	ボランティア活動をする	その他	不明
全 体	100.0 803	78.2 628	72.2 580	23.7 190	20.8 167	18.2 146	18.2 146	1.5 12	3.0 24
性 女 性 計	100.0 431	77.7 335	77.7 335	29.5 127	17.9 77	16.2 70	18.8 81	0.9 4	3.0 13
20歳～29歳	100.0 56	89.3 50	85.7 48	28.6 16	12.5 7	12.5 7	5.4 3	1.8 1	1.8 1
30歳～39歳	100.0 54	88.9 48	75.9 41	42.6 23	11.1 6	5.6 3	11.1 6	1.9 1	- -
40歳～49歳	100.0 63	87.3 55	79.4 50	25.4 16	12.7 8	12.7 8	27.0 17	- -	1.6 1
50歳～59歳	100.0 77	77.9 60	77.9 60	39.0 30	20.8 16	11.7 9	32.5 25	1.3 1	1.3 1
60歳～69歳	100.0 65	72.3 47	78.5 51	23.1 15	30.8 20	26.2 17	20.0 13	3.1 2	3.1 2
70歳以上	100.0 116	64.7 75	73.3 85	24.1 28	17.2 20	23.3 27	14.7 17	- -	6.9 8
性 男 性 計	100.0 372	78.8 293	65.9 245	16.9 63	24.2 90	20.7 77	17.5 65	2.2 8	2.7 10
20歳～29歳	100.0 55	87.3 48	54.5 30	25.5 14	25.5 14	12.7 7	20.0 11	3.6 2	- -
30歳～39歳	100.0 52	80.8 42	50.0 26	13.5 7	26.9 14	19.2 10	13.5 7	5.8 3	1.9 1
40歳～49歳	100.0 60	78.3 47	70.0 42	21.7 13	23.3 14	23.3 14	18.3 11	1.7 1	1.7 1
50歳～59歳	100.0 76	81.6 62	69.7 53	13.2 10	25.0 19	10.5 8	17.1 13	- -	5.3 4
60歳～69歳	100.0 56	73.2 41	73.2 41	10.7 6	25.0 14	26.8 15	21.4 12	3.6 2	1.8 1
70歳以上	100.0 73	71.2 52	72.6 53	17.8 13	20.5 15	31.5 23	13.7 10	- -	4.1 3

(5) 介護が必要になった際に希望する介護者等 (問 23)

問 23. もし、あなたに介護が必要になった場合、誰に身の回りの世話をしてもらいたと思いますか。
(○は1つ)

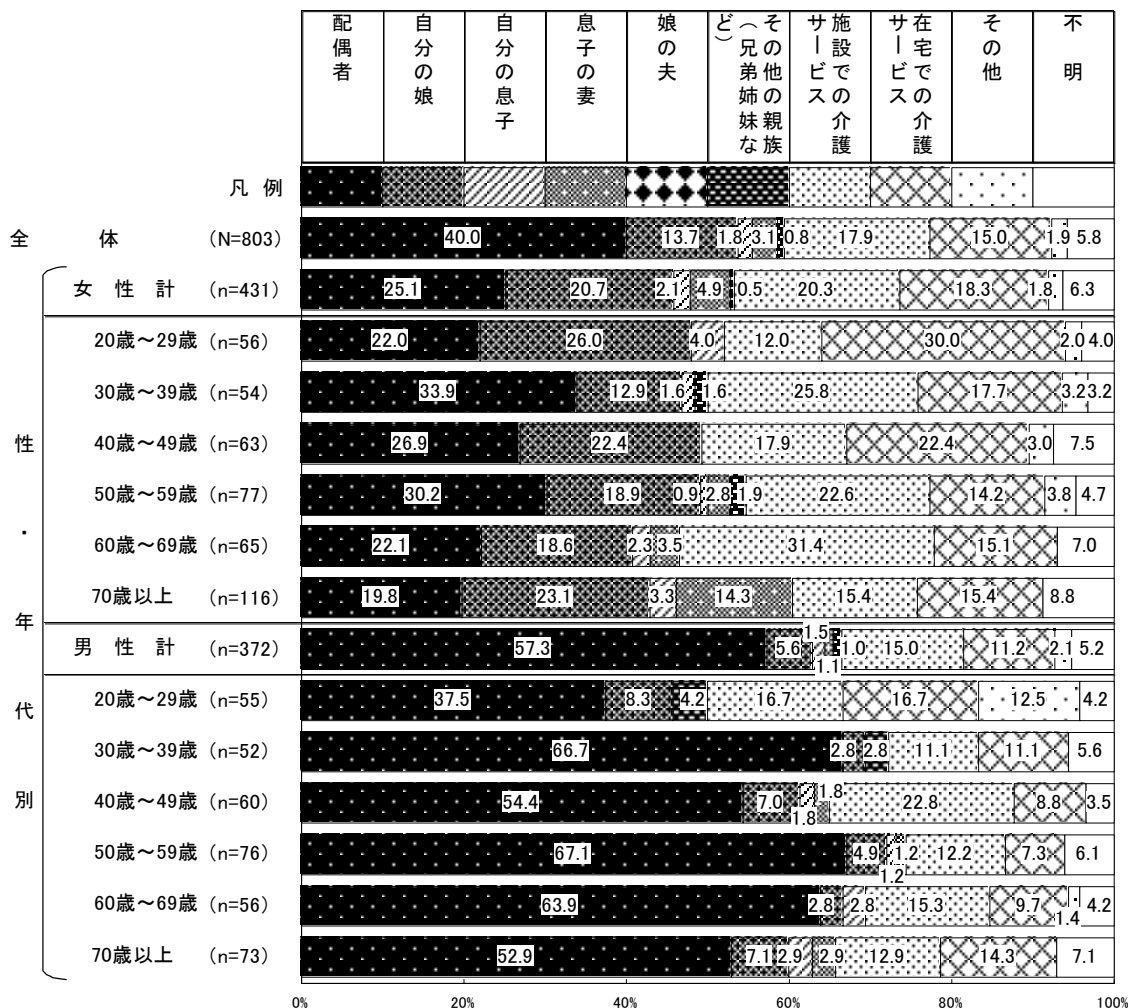
- 全体では、配偶者を含めた『親族による介護』希望者が約6割、『在宅・施設サービス介護』希望者が3割である。
- 男性は「配偶者」に特化し、女性は「配偶者」、「自分の娘」、「施設サービス」、「在宅サービス」など様々な希望者に分かれる。

介護が必要になった際に希望する介護者等をみると、「配偶者」が 40.0%で最も高く、次いで「施設での介護サービス」(17.9%)、「在宅での介護サービス」(15.0%)、「自分の娘」(13.7%)となり、配偶者を含めた『親族による介護』希望者は約6割(59.4%)、『在宅・施設サービス介護』希望者は3割(32.9%)である。

性・年代別にみると、男女とも「配偶者」の希望が最も多いが、その割合は男性が57.3%、女性が25.1%とかなり違いがみられる。同様に、女性の場合「自分の娘」、「在宅での介護サービス」、「施設での介護サービス」を希望する人が多く、男性の回答傾向と大きく異なる。

年代別では、女性 60 代の場合「施設での介護サービス」の希望者が最も多い。

介護が必要になった際に希望する介護者(性・年代別)



(6) 介護保険制度に必要なもの(問 24：3 つまで)

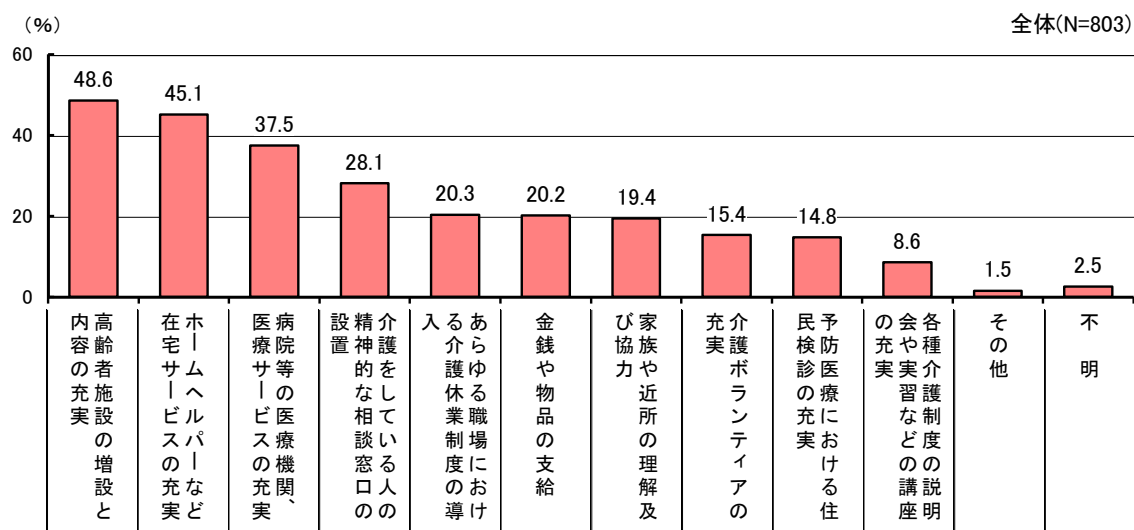
問 24. これからの介護保険制度にとって必要なものは、何だと思われますか。(○は 3 つまで)

- 全体では、「高齢者施設の増設と内容の充実」、「ホームヘルパーなど在宅サービスの充実」など、ハード、ソフト両面の要望が上位にあがっている。
- 男女とも、年齢が低いほど「ソフト面」(＝「ホームヘルパーなど在宅サービスの充実」など)、年齢が高いほど「ハード面」(＝「高齢者施設の増設と内容の充実」)を要望する傾向がみられる。

これからの介護保険制度に必要なことをみると、「高齢者施設の増設と内容の充実」が 48.6%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなど在宅サービスの充実」(45.1%)、「病院等の医療機関、医療サービスの充実」(37.5%)、「介護をしている人の精神的な相談窓口の設置」(28.1%)となり、ハード、ソフト両面の要望となっている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性 20～30 代と男性 40 代は「ホームヘルパーなど在宅サービスの充実」、女性 40 代と男性 30 代は「ホームヘルパーなど在宅サービスの充実」に加え、「病院等の医療機関、医療サービスの充実」というソフト面の要望が最も多い。また、男女とも年齢が低いほど「金銭や物品の支給」を要望する割合が高くなり、女性 30 代は「あらゆる職場における介護休業制度の導入」、男性 20 代は「介護をしている人の精神的な相談窓口の設置」、「介護ボランティアの充実」という要望も多くみられる。

介護保険制度に必要なもの(全体)



介護保険制度に必要なもの(全体)

(上段:%,下段:実数)

		サ ン プ ル 数	高 齢 者 施 設 の 増 設 と 充 実	ホ ー ム サ ー ビ ス の 充 実 等	医 療 サ ー ビ ス の 充 実	病 院 等 の 医 療 機 関、 設 置	精 神 的 な 相 談 窓 口 の 充 実	介 護 を し て い る 人 の 数	あ ら ゆ る 職 場 に お け る 人 の 数	金 銭 や 物 品 の 支 給	家 族 や 近 所 の 理 解 及 び 協 力	充 実 介 護 ボ ラ ン テ ィ ア の 充 実	民 生 防 護 医 療 に お け る 住 民 の 充 実	各 種 介 護 制 度 の 説 明 の 充 実	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	48.6 390	45.1 362	37.5 301	28.1 226	20.3 163	20.2 162	19.4 156	15.4 124	14.8 119	8.6 69	1.5 12	2.5 20		
性・年代別	女 性 計	100.0 431	48.0 207	47.6 205	38.7 167	29.9 129	22.0 95	19.7 85	19.7 85	14.8 64	14.2 61	7.9 34	1.4 6	2.8 12		
	20歳～29歳	100.0 56	44.6 25	55.4 31	32.1 18	33.9 19	26.8 15	37.5 21	17.9 10	16.1 9	5.4 3	7.1 4	3.6 2	-		
	30歳～39歳	100.0 54	44.4 24	53.7 29	22.2 12	35.2 19	31.5 17	27.8 15	22.2 12	18.5 10	16.7 9	5.6 3	-	-		
	40歳～49歳	100.0 63	39.7 25	46.0 29	46.0 29	36.5 23	23.8 15	19.0 12	22.2 14	12.7 8	12.7 8	6.3 4	-	1.6 1		
	50歳～59歳	100.0 77	57.1 44	42.9 33	36.4 28	32.5 25	29.9 23	18.2 14	18.2 14	7.8 6	14.3 11	13.0 10	1.3 1	-		
	60歳～69歳	100.0 65	46.2 30	44.6 29	40.0 26	21.5 14	13.8 9	10.8 7	21.5 14	20.0 13	20.0 13	4.6 3	1.5 1	7.7 5		
	70歳以上	100.0 116	50.9 59	46.6 54	46.6 54	25.0 29	12.9 15	14.7 17	19.0 22	15.5 18	15.5 18	7.8 9	0.9 1	5.2 6		
	男 性 計	100.0 372	49.2 183	42.2 157	36.0 134	26.1 97	18.3 68	20.7 77	19.1 71	15.9 59	15.3 57	9.4 35	1.9 7	2.2 8		
	20歳～29歳	100.0 55	45.5 25	38.2 21	25.5 14	41.8 23	20.0 11	29.1 16	9.1 5	29.1 16	9.1 5	3.6 2	3.6 2	3.6 2		
	30歳～39歳	100.0 52	38.5 20	42.3 22	42.3 22	32.7 17	19.2 10	30.8 16	11.5 6	5.8 3	7.7 4	7.7 4	1.9 1	1.9 1		
	40歳～49歳	100.0 60	38.3 23	46.7 28	31.7 19	28.3 17	30.0 18	25.0 15	21.7 13	11.7 7	15.0 9	13.3 8	-	-		
	50歳～59歳	100.0 76	47.4 36	32.9 25	34.2 26	26.3 20	25.0 19	21.1 16	27.6 21	14.5 11	17.1 13	10.5 8	2.6 2	2.6 2		
	60歳～69歳	100.0 56	58.9 33	53.6 30	39.3 22	16.1 9	5.4 3	12.5 7	16.1 9	21.4 12	16.1 9	14.3 8	-	3.6 2		
	70歳以上	100.0 73	63.0 46	42.5 31	43.8 32	13.7 10	9.6 7	9.6 7	24.7 18	12.3 9	23.3 17	5.5 4	1.4 1	1.4 1		

6. 地域活動について

(1) 地域活動への参加状況、今後の参加意向（問 25：複数回答）

問 25. あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。（○はいくつでも）

- 現在参加している主な活動は「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」、「趣味・スポーツ・学習などの活動」、「PTAや子ども会などの活動」の順。
- 今後参加したい主な活動は「趣味・スポーツ・学習などの活動」、「福祉ボランティアなどの活動」、「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」の順。

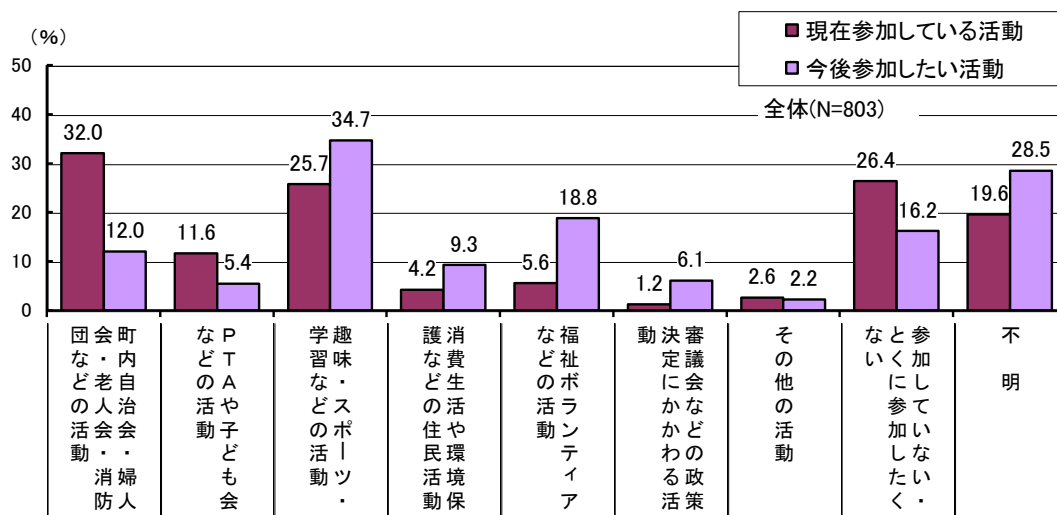
現在参加している活動をみると、「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」（32.0％）が最も多く、次いで「趣味・スポーツ・学習などの活動」（25.7％）、「PTAや子ども会などの活動」（11.6％）と続く。

一方、今後参加したい活動をみると、「趣味・スポーツ・学習などの活動」（34.7％）、「福祉ボランティアなどの活動」（18.8％）、「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」（12.0％）の順となっており、特に「趣味・スポーツ・学習などの活動」、「福祉ボランティアなどの活動」は、現在の参加率を大きく上回っている。

なお、「現在、参加していない」（26.4％）に比べ「今後も、とくに参加したくない」（16.2％）と答えた割合が 10.2 ポイント低く、今後の参加意向者が多い。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、男女 20 代の場合「現在、参加していない」（女性：55.4％、男性：50.9％）が半数を超えるが、「今後も、とくに参加したくない」（女性：23.2％、男性：29.1％）と答える人は3割以下と低い。

地域活動への参加状況、今後の参加意向（全体）



地域活動への参加状況、今後の参加意向(全体)

【現在参加している】

(上段:%, 下段:実数)

		サ ン プ ル 数	会 な の 活 動	町 内 自 治 会 ・ 婦 人 団	P T A や 子 ど も 会 な ど の 活 動	習 趣 味 ・ ス ポ ー ツ ・ 学 校 な ど の 活 動	消 費 生 活 や 環 境 保 護 な ど の 住 民 活 動	福 祉 ボ ラ ン テ ィ ア な ど の 活 動	定 審 に か か わ る の 政 策 決 定	そ の 他 の 活 動	参 加 し て い な い	不 明
全 体		100.0 803	32.0 257	11.6 93	25.7 206	4.2 34	5.6 45	1.2 10	2.6 21	26.4 212	19.6 157	
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	29.9 129	12.3 53	27.1 117	3.2 14	7.4 32	0.5 2	0.7 3	25.5 110	20.6 89	
	20歳～29歳	100.0 56	3.6 2	3.6 2	12.5 7	1.8 1	3.6 2	— —	— —	55.4 31	19.6 11	
	30歳～39歳	100.0 54	18.5 10	38.9 21	24.1 13	3.7 2	— —	— —	— —	25.9 14	13.0 7	
	40歳～49歳	100.0 63	36.5 23	38.1 24	22.2 14	4.8 3	1.6 1	1.6 1	— —	20.6 13	12.7 8	
	50歳～59歳	100.0 77	33.8 26	5.2 4	36.4 28	5.2 4	11.7 9	1.3 1	1.3 1	15.6 12	19.5 15	
	60歳～69歳	100.0 65	30.8 20	1.5 1	33.8 22	3.1 2	7.7 5	1.5 1	1.5 1	16.9 11	32.3 21	
	70歳以上	100.0 116	41.4 48	0.9 1	28.4 33	0.9 1	12.9 15	— —	0.9 1	24.1 28	21.6 25	
	男 性 計	100.0 372	34.4 128	10.8 40	23.9 89	5.6 21	3.2 12	1.9 7	4.8 18	27.4 102	18.3 68	
	20歳～29歳	100.0 55	20.0 11	3.6 2	9.1 5	3.6 2	— —	— —	— —	50.9 28	20.0 11	
	30歳～39歳	100.0 52	44.2 23	25.0 13	17.3 9	7.7 4	— —	— —	1.9 1	26.9 14	13.5 7	
	40歳～49歳	100.0 60	30.0 18	31.7 19	30.0 18	3.3 2	3.3 2	1.7 1	6.7 4	23.3 14	15.0 9	
	50歳～59歳	100.0 76	28.9 22	5.3 4	27.6 21	6.6 5	2.6 2	3.9 3	6.6 5	30.3 23	14.5 11	
	60歳～69歳	100.0 56	35.7 20	— —	25.0 14	3.6 2	5.4 3	3.6 2	7.1 4	21.4 12	23.2 13	
	70歳以上	100.0 73	45.2 33	2.7 2	31.5 23	6.8 5	6.8 5	2.7 2	5.5 4	15.1 11	21.9 16	

【今後参加したい】

(上段:%, 下段:実数)

		サ ン プ ル 数	会 な の 活 動	町 内 自 治 会 ・ 婦 人 団	P T A や 子 ど も 会 な ど の 活 動	習 趣 味 ・ ス ポ ー ツ ・ 学 校 な ど の 活 動	消 費 生 活 や 環 境 保 護 な ど の 住 民 活 動	福 祉 ボ ラ ン テ ィ ア な ど の 活 動	定 審 に か か わ る の 政 策 決 定	そ の 他 の 活 動	い と く に 参 加 し た く な い	不 明
全 体		100.0 803	12.0 96	5.4 43	34.7 279	9.3 75	18.8 151	6.1 49	2.2 18	16.2 130	28.5 229	
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	10.2 44	4.6 20	34.8 150	7.9 34	21.8 94	3.5 15	1.9 8	15.1 65	28.1 121	
	20歳～29歳	100.0 56	5.4 3	19.6 11	37.5 21	10.7 6	16.1 9	5.4 3	— —	23.2 13	10.7 6	
	30歳～39歳	100.0 54	5.6 3	11.1 6	48.1 26	7.4 4	18.5 10	1.9 1	— —	13.0 7	18.5 10	
	40歳～49歳	100.0 63	4.8 3	1.6 1	47.6 30	14.3 9	28.6 18	6.3 4	— —	14.3 9	22.2 14	
	50歳～59歳	100.0 77	9.1 7	— —	49.4 38	11.7 9	36.4 28	6.5 5	1.3 1	9.1 7	20.8 16	
	60歳～69歳	100.0 65	12.3 8	1.5 1	30.8 20	6.2 4	21.5 14	3.1 2	4.6 3	13.8 9	32.3 21	
	70歳以上	100.0 116	16.4 19	0.9 1	12.1 14	2.6 3	14.7 17	— —	3.4 4	16.4 19	46.6 54	
	男 性 計	100.0 372	14.2 53	6.2 23	34.7 129	11.0 41	15.3 57	9.1 34	2.7 10	17.5 65	29.0 108	
	20歳～29歳	100.0 55	12.7 7	12.7 7	45.5 25	9.1 5	9.1 5	9.1 5	— —	29.1 16	20.0 11	
	30歳～39歳	100.0 52	5.8 3	17.3 9	23.1 12	5.8 3	7.7 4	13.5 7	— —	23.1 12	38.5 20	
	40歳～49歳	100.0 60	18.3 11	6.7 4	43.3 26	21.7 13	21.7 13	10.0 6	6.7 4	13.3 8	23.3 14	
	50歳～59歳	100.0 76	13.2 10	1.3 1	36.8 28	9.2 7	19.7 15	7.9 6	2.6 2	10.5 8	25.0 19	
	60歳～69歳	100.0 56	16.1 9	— —	37.5 21	10.7 6	21.4 12	7.1 4	3.6 2	17.9 10	17.9 10	
	70歳以上	100.0 73	19.2 14	2.7 2	23.3 17	9.6 7	11.0 8	8.2 6	2.7 2	13.7 10	46.6 34	

(2) 地域活動に参加するための支障、又は参加していない理由（問 26：複数回答）

問 26. あなたが、上の問 25 に示した地域活動に参加する際に支障になることは何ですか。または、参加しない理由は何ですか。（○はいくつでも）

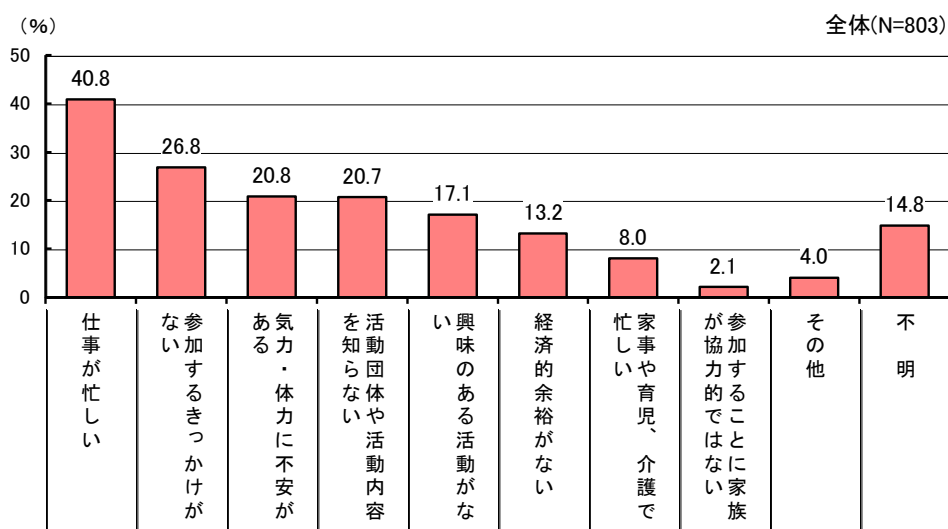
- 全体では「仕事が忙しい」が4割を占め最も多い。
- 女性 30 代は「家事や育児、介護で忙しい」、男女 20 代は「活動団体や活動内容を知らない」がそれぞれ4割強を占める。

現在、地域活動に参加するための支障をみると、「仕事が忙しい」が 40.8%で最も高く、次いで「参加するきっかけがない」(26.8%)、「気力・体力に不安がある」(20.8%)、「活動団体や活動内容を知らない」(20.7)となっている。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、年齢が低いほど「活動団体や活動内容を知らない」と答える人が多く、男女とも 20 代は4割強を占める。(女性:46.4%、男性:45.5%)

また、女性 30 代は「家事や育児、介護で忙しい」と答える人が多い。

地域活動に参加するための支障、又は参加していない理由(全体)



地域活動に参加するための支障、又は参加していない理由(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サンプル数	仕事 が忙 しい	参 加 す る き つ か け が	あ る 気 力 ・ 体 力 に 不 安 が	を 知 ら な い 活 動 団 体 や 活 動 内 容	い 興 味 の あ る 活 動 が な	経 済 的 余 裕 が な い	忙 し い 家 事 や 育 児 、 介 護 で	が 参 加 す る こ と に 家 族	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	40.8 328	26.8 215	20.8 167	20.7 166	17.1 137	13.2 106	8.0 64	2.1 17	4.0 32	14.8 119
性・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	34.6 149	24.8 107	22.0 95	19.7 85	14.8 64	12.5 54	13.0 56	2.8 12	5.1 22	16.2 70
	20歳～29歳	100.0 56	48.2 27	48.2 27	7.1 4	46.4 26	16.1 9	16.1 9	14.3 8	－ －	7.1 4	－ －
	30歳～39歳	100.0 54	46.3 25	31.5 17	3.7 2	20.4 11	16.7 9	9.3 5	44.4 24	5.6 3	3.7 2	7.4 4
	40歳～49歳	100.0 63	47.6 30	15.9 10	11.1 7	23.8 15	19.0 12	17.5 11	19.0 12	4.8 3	1.6 1	9.5 6
	50歳～59歳	100.0 77	49.4 38	31.2 24	15.6 12	18.2 14	18.2 14	14.3 11	9.1 7	2.6 2	2.6 2	10.4 8
	60歳～69歳	100.0 65	18.5 12	21.5 14	26.2 17	10.8 7	13.8 9	12.3 8	4.6 3	3.1 2	6.2 4	30.8 20
	70歳以上	100.0 116	14.7 17	12.1 14	46.6 54	11.2 13	9.5 11	8.6 10	2.6 3	2.6 3	7.8 9	27.6 32
	男 性 計	100.0 372	47.8 178	29.0 108	19.6 73	21.8 81	19.6 73	14.0 52	2.4 9	1.3 5	2.7 10	13.2 49
	20歳～29歳	100.0 55	50.9 28	58.2 32	12.7 7	45.5 25	16.4 9	16.4 9	－ －	－ －	3.6 2	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 52	69.2 36	32.7 17	11.5 6	25.0 13	13.5 7	11.5 6	1.9 1	1.9 1	1.9 1	7.7 4
	40歳～49歳	100.0 60	73.3 44	20.0 12	11.7 7	20.0 12	13.3 8	21.7 13	6.7 4	1.7 1	1.7 1	6.7 4
	50歳～59歳	100.0 76	50.0 38	25.0 19	17.1 13	11.8 9	26.3 20	18.4 14	－ －	－ －	2.6 2	10.5 8
	60歳～69歳	100.0 56	32.1 18	32.1 18	16.1 9	17.9 10	21.4 12	8.9 5	－ －	3.6 2	3.6 2	17.9 10
	70歳以上	100.0 73	20.5 15	12.3 9	41.1 30	15.1 11	21.9 16	6.8 5	4.1 3	－ －	1.4 1	27.4 20

7. 健康管理について

(1) 健康診断やがん検診の受診状況（問 27-（1））

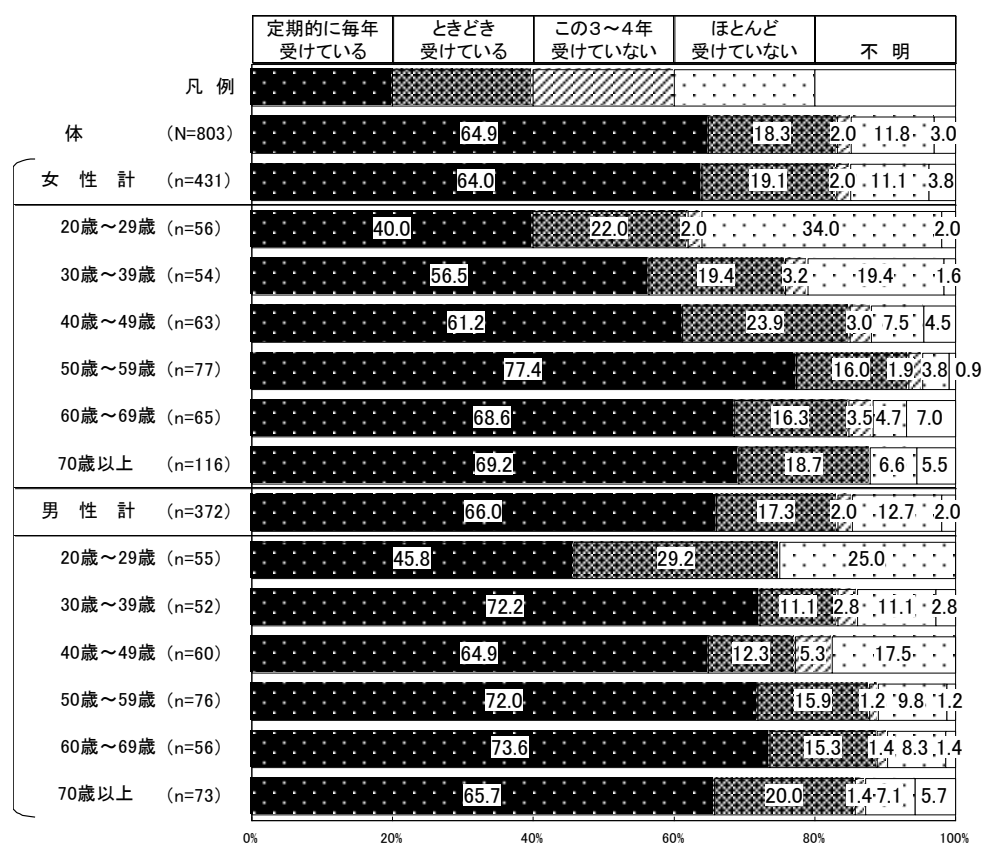
問 27-（1）. あなたは、健康診断やがん検診を受けていますか。（○は 1 つ）

●全体では定期受診者が6割強(64.9%)にとどまり、男女とも 20 代の受診率が低い。

定期健診やがん検診受診状況をみると、「定期的に受けている」が 64.9%、「ときどき受けている」が 18.3%、「この 3～4 年受けていない」が 2.0%、「ほとんど受けていない」が 11.8%であり、約 3 人中 2 人が定期的に受診している。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果となっているが、男女 20 代の受診率が低い。

健康診断やがん検診の受診状況(性・年代別)



(2) 健康診断やがん検診を受診していない理由（問 27-（2）：3 つまで）

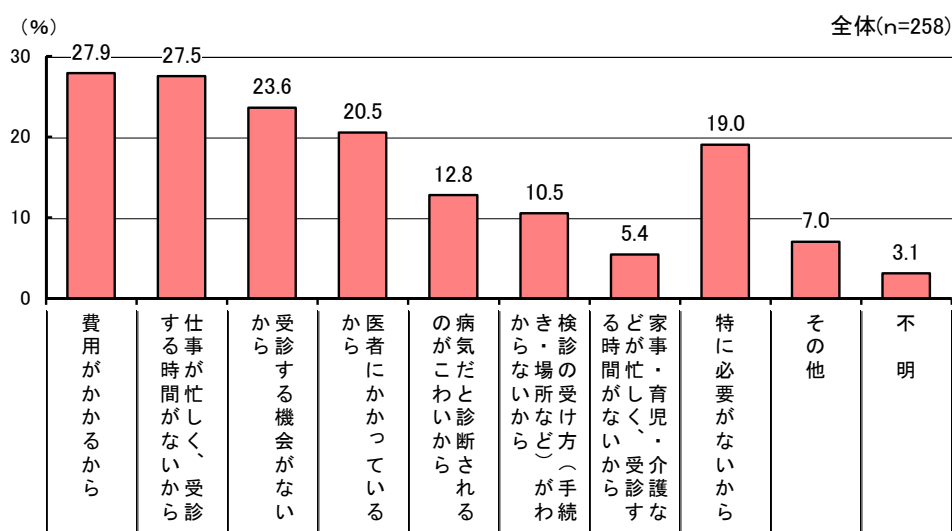
問 27-（1）. 上の問 27-（1）で「1 以外に○をつけた方」におたずねします。あなたが、健康診断やがん検診を受診していない理由は何ですか。（○は 3 つまで）

●男性は女性に比べ「仕事が忙しく、受診する時間がないから」の比率が高い。

定期健診やがん検診を受診していない人（258 人）にその理由をたずねたところ、「費用がかかるから」（27.9%）、「仕事が忙しく、受診する時間がないから」（27.5%）、「受診する機会がないから」（23.6%）、「医者にかかっているから」（20.5%）など様々な理由に分かれており、「特に必要ないから」が2割（19.0%）を占める。

性別にみると、男性は女性に比べ「仕事が忙しく、受診する時間がないから」という理由が多くあがっている。

健康診断やがん検診を受診していない理由（全体）



健康診断やがん検診を受診していない理由(性・年代別)

(上段:%,下段:実数)

		サンプル数	費用がかかるから	仕事時間が忙しく、受診する時間がないから	受診する機会がないから	医者にかかっているから	病気がひどいと診断されるから	検診の受け方（手続き・場所など）がわからないから	家事・育児・介護などが忙しく、受診する時間がないから	特に必要がないから	その他	不明
全 体		100.0 258	27.9 72	27.5 71	23.6 61	20.5 53	12.8 33	10.5 27	5.4 14	19.0 49	7.0 18	3.1 8
性・年代別	女 性 計	100.0 139	28.1 39	21.6 30	20.9 29	23.0 32	12.9 18	6.5 9	7.9 11	18.7 26	10.8 15	2.9 4
	20歳～29歳	100.0 32	37.5 12	25.0 8	46.9 15	— —	6.3 2	21.9 7	9.4 3	31.3 10	3.1 1	3.1 1
	30歳～39歳	100.0 23	43.5 10	30.4 7	21.7 5	13.0 3	— —	— —	21.7 5	17.4 4	13.0 3	— —
	40歳～49歳	100.0 22	27.3 6	22.7 5	18.2 4	4.5 1	18.2 4	9.1 2	9.1 2	22.7 5	22.7 5	— —
	50歳～59歳	100.0 17	11.8 2	23.5 4	23.5 4	41.2 7	29.4 5	— —	5.9 1	5.9 1	17.6 3	— —
	60歳～69歳	100.0 16	31.3 5	31.3 5	12.5 2	31.3 5	37.5 6	6.3 1	— —	6.3 1	6.3 1	6.3 1
	70歳以上	100.0 29	13.8 4	3.4 1	— —	58.6 17	3.4 1	— —	— —	17.2 5	10.3 3	10.3 3
	男 性 計	100.0 119	27.7 33	33.6 40	26.1 31	17.6 21	12.6 15	15.1 18	1.7 2	20.2 24	2.5 3	3.4 4
	20歳～29歳	100.0 30	30.0 9	30.0 9	53.3 16	— —	— —	30.0 9	— —	16.7 5	6.7 2	— —
	30歳～39歳	100.0 13	23.1 3	53.8 7	23.1 3	— —	23.1 3	7.7 1	7.7 1	23.1 3	— —	— —
	40歳～49歳	100.0 21	33.3 7	38.1 8	28.6 6	— —	19.0 4	9.5 2	— —	23.8 5	— —	9.5 2
	50歳～59歳	100.0 20	30.0 6	40.0 8	25.0 5	30.0 6	10.0 2	15.0 3	— —	10.0 2	5.0 1	— —
	60歳～69歳	100.0 14	42.9 6	21.4 3	14.3 2	21.4 3	35.7 5	— —	— —	28.6 4	— —	7.1 1
	70歳以上	100.0 21	9.5 2	19.0 4	— —	61.9 13	4.8 1	9.5 2	4.8 1	23.8 5	— —	4.8 1

8. 男女間の暴力などについて

(1) 女性に対する暴力を見聞きした経験 (問 28 : 複数回答)

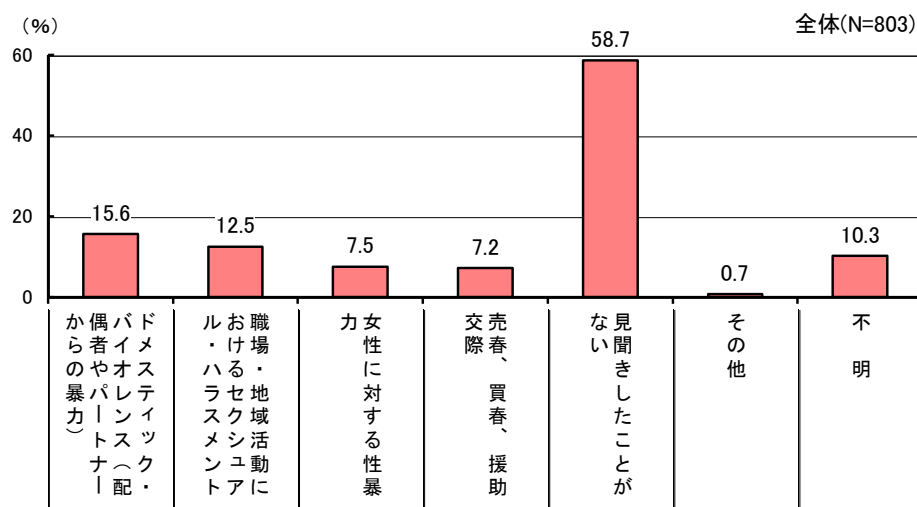
問 28. 女性に対する暴力について関心が高まっていますが、あなたの身近で実際に見聞きしたものがありますか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「見聞きしたことがない」が約6割を占めるが、3割の人は何らかの経験がある。
- 特に、若い女性層の経験者が多く、女性 30 代は6割以上を占める。

女性に対する暴力を見聞きした経験をみると、「ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)」が 15.6%で最も高く、次いで「職場・地域活動におけるセクシャル・ハラスメント」(12.5%)、「女性に対する性暴力」(7.5%)、「売春、買春、援助交際」(7.2%)となり、3割の人は何らかの経験がある。

性・年代別にみると、女性・男性とも「ドメスティック・バイオレンス」、「セクシャル・ハラスメント」が多いが、男性については「売春、買春、援助交際」を見聞きした経験者も多い。また、年代が低い女性ほど経験率が高く、女性 30 代は6割以上が見聞きした経験を持っている。

女性に対する暴力を見聞きした経験(全体)



女性に対する暴力を見聞きした経験(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サ ン プ ル 数	ド メ ス テ ィ ッ ク ・ パ ー ト ナ ー の 暴 力	職 場 ・ セ ク シ ュ ア ル ・ 地 域 活 動 に お け る ハ ラ ス メ	女 性 に 対 する 性 暴 力	売 春 、 買 春 、 援 助 交 際	見 聞 き し た こ と が な い	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	15.6 125	12.5 100	7.5 60	7.2 58	58.7 471	0.7 6	10.3 83
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	18.6 80	13.7 59	7.4 32	3.9 17	55.9 241	0.7 3	12.5 54
	20歳～29歳	100.0 56	28.6 16	26.8 15	12.5 7	5.4 3	50.0 28	-	1.8 1
	30歳～39歳	100.0 54	40.7 22	31.5 17	13.0 7	3.7 2	37.0 20	-	1.9 1
	40歳～49歳	100.0 63	19.0 12	19.0 12	11.1 7	9.5 6	58.7 37	-	3.2 2
	50歳～59歳	100.0 77	22.1 17	10.4 8	5.2 4	3.9 3	59.7 46	1.3 1	6.5 5
	60歳～69歳	100.0 65	9.2 6	6.2 4	1.5 1	1.5 1	66.2 43	1.5 1	18.5 12
	70歳以上	100.0 116	6.9 8	3.4 4	5.2 6	2.6 3	58.6 68	0.9 1	28.4 33
	男 性 計	100.0 372	12.1 45	11.0 41	7.8 29	11.0 41	61.8 230	0.8 3	7.8 29
	20歳～29歳	100.0 55	12.7 7	12.7 7	16.4 9	16.4 9	58.2 32	-	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 52	13.5 7	13.5 7	5.8 3	17.3 9	51.9 27	-	1.9 1
	40歳～49歳	100.0 60	18.3 11	18.3 11	5.0 3	5.0 3	58.3 35	-	5.0 3
	50歳～59歳	100.0 76	15.8 12	15.8 12	10.5 8	13.2 10	59.2 45	1.3 1	7.9 6
	60歳～69歳	100.0 56	3.6 2	5.4 3	1.8 1	3.6 2	78.6 44	1.8 1	8.9 5
	70歳以上	100.0 73	8.2 6	1.4 1	5.5 4	9.6 7	63.0 46	1.4 1	15.1 11

(2)「ドメスティック・バイオレンス」の認知状況等（問 29：複数回答）

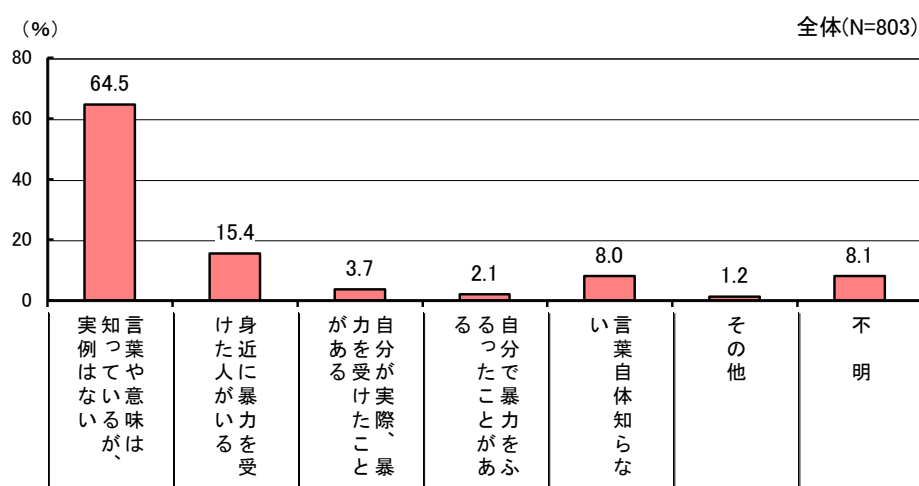
問 29. ドメスティック・バイオレンス（配偶者や身近なパートナーからの暴力）が、大きな社会問題になっていますが、あなたはどの程度ご存知ですか。（○はいくつでも）

- 全体では、「言葉自体知らない」は1割以下（8.0%）と少なく、加害・被害等の経験率は約2割である。
- 女性が男性より加害・被害の経験者が多いが、男性でも僅かながら被害の経験者がいる。

ドメスティック・バイオレンスの認知状況等をみると、「言葉自体知らない」人は 8.0%と極めて低く、認知者はかなり多い。具体的には、「身近に暴力を受けた人がいる」が 15.4%、「自分が実際、暴力を受けたことがある」が 3.7%、「自分で暴力を振るったことがある」が 2.1%であり、加害・被害等の経験者は約2割を占める。

性別にみると、女性の場合「自分で暴力を振るったことがある」は皆無であり、「身近に暴力を受けた人がいる」、「自分が実際、暴力を受けたことがある」がともに男性の割合を上回っている。

「ドメスティック・バイオレンス」の認知状況（全体）



「ドメスティック・バイオレンス」の認知状況(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サ ン プ ル 数	が、言葉や意味は知っていない 言葉自体知らない	身近に暴力を受けた人がある	自分が実際、暴力を受けたことがある	自分と暴力をふるったことがある	言葉自体知らない	その他	不明
全 体		100.0 803	64.5 518	15.4 124	3.7 30	2.1 17	8.0 64	1.2 10	8.1 65
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	59.9 258	16.0 69	6.0 26	— —	9.0 39	1.9 8	10.7 46
	20歳～29歳	100.0 56	69.6 39	26.8 15	5.4 3	— —	1.8 1	3.6 2	— —
	30歳～39歳	100.0 54	61.1 33	33.3 18	9.3 5	— —	— —	— —	— —
	40歳～49歳	100.0 63	65.1 41	14.3 9	7.9 5	— —	11.1 7	— —	3.2 2
	50歳～59歳	100.0 77	67.5 52	19.5 15	9.1 7	— —	2.6 2	1.3 1	3.9 3
	60歳～69歳	100.0 65	63.1 41	6.2 4	1.5 1	— —	12.3 8	3.1 2	15.4 10
	70歳以上	100.0 116	44.8 52	7.8 9	4.3 5	— —	17.2 20	3.4 4	27.6 32
	男 性 計	100.0 372	69.6 259	14.5 54	1.1 4	4.6 17	6.7 25	0.5 2	5.1 19
	20歳～29歳	100.0 55	70.9 39	20.0 11	— —	— —	9.1 5	— —	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 52	80.8 42	17.3 9	— —	— —	— —	— —	1.9 1
	40歳～49歳	100.0 60	75.0 45	13.3 8	1.7 1	5.0 3	5.0 3	— —	— —
	50歳～59歳	100.0 76	67.1 51	14.5 11	2.6 2	7.9 6	7.9 6	— —	5.3 4
	60歳～69歳	100.0 56	66.1 37	10.7 6	1.8 1	7.1 4	8.9 5	— —	7.1 4
	70歳以上	100.0 73	61.6 45	11.0 8	— —	5.5 4	9.6 7	2.7 2	9.6 7

(3)「セクシャル・ハラスメント」見聞き・被害経験（問 30：複数回答）

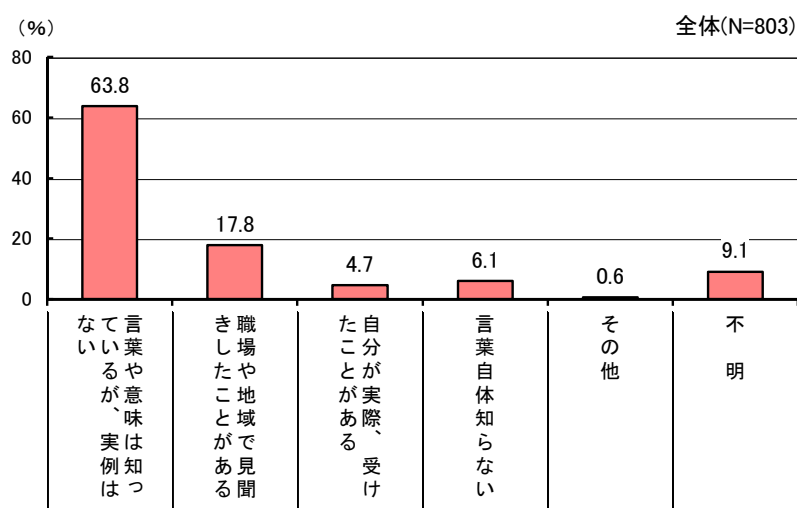
問 30. 地域や職場におけるセクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けたことや見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「言葉自体知らない」は1割以下(6.1%)と少なく、加害・被害等の経験率は約2割である。
- 女性 30 代を中心として、女性が男性より被害の経験者が多い。

セクシャル・ハラスメントの認知状況等をみると、「言葉自体知らない」人は 6.1%と極めて低く、言葉の意味等の認知者はかなり多い。具体的には、「職場や地域で見聞きしたことがある」が 17.8%、「自分が実際、受けたことがある」が 4.7%と、加害・被害等の経験者は約2割を占める。

性・年代別にみると、女性の場合「自分が実際、受けたことがある」が1割弱(8.4%)と男性の割合を上回っている。

「セクシャル・ハラスメント」を受けたり、見聞きした経験(全体)



「セクシャル・ハラスメント」を受けたり、見聞きした経験(性・年代別)

(上段:%, 下段:実数)

		サ ン プ ル 数	言 葉 や 実 例 は 知 っ て い る	職 場 や 地 域 で 見 聞 き し た	自 分 が 実 際 、 受 け た こ と	言 葉 自 体 知 ら な い	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	63.8 512	17.8 143	4.7 38	6.1 49	0.6 5	9.1 73
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	59.4 256	15.8 68	8.4 36	7.4 32	0.7 3	11.4 49
	20歳～29歳	100.0 56	62.5 35	28.6 16	10.7 6	— —	1.8 1	1.8 1
	30歳～39歳	100.0 54	50.0 27	31.5 17	24.1 13	— —	— —	— —
	40歳～49歳	100.0 63	69.8 44	15.9 10	12.7 8	1.6 1	— —	4.8 3
	50歳～59歳	100.0 77	64.9 50	19.5 15	9.1 7	3.9 3	1.3 1	3.9 3
	60歳～69歳	100.0 65	64.6 42	6.2 4	4.6 3	10.8 7	1.5 1	16.9 11
	70歳以上	100.0 116	49.1 57	4.3 5	— —	19.0 22	— —	27.6 32
	男 性 計	100.0 372	69.1 257	20.2 75	0.5 2	4.6 17	0.5 2	6.5 24
	20歳～29歳	100.0 55	70.9 39	16.4 9	— —	3.6 2	3.6 2	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 52	63.5 33	32.7 17	— —	— —	— —	5.8 3
	40歳～49歳	100.0 60	75.0 45	23.3 14	1.7 1	1.7 1	— —	— —
	50歳～59歳	100.0 76	65.8 50	23.7 18	1.3 1	3.9 3	— —	7.9 6
	60歳～69歳	100.0 56	73.2 41	17.9 10	— —	3.6 2	— —	3.6 2
	70歳以上	100.0 73	65.8 48	9.6 7	— —	11.0 8	— —	13.7 10

(4) DVやセクハラをなくすための方策(問31:複数回答)

問 31. ドメスティック・バイオレンス(DV)やセクシャル・ハラスメントなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

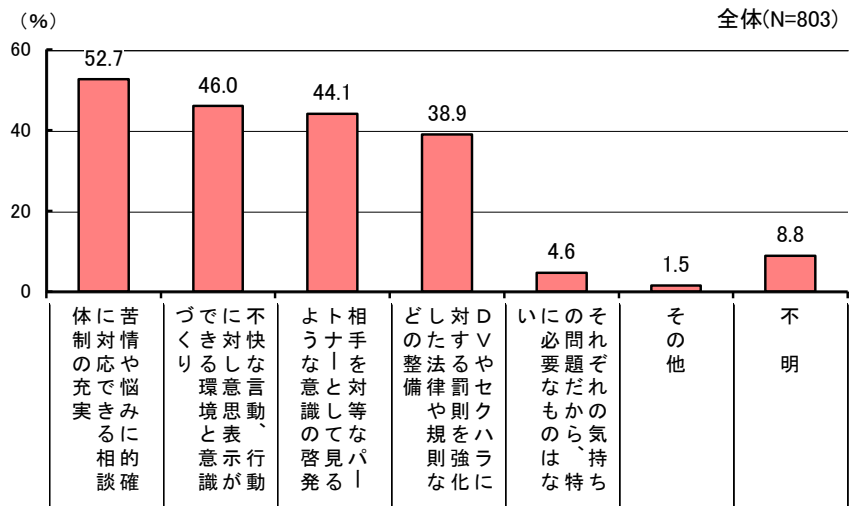
●女性は「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」、男性は「相手に対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」を希望する人が最も多い。

●男女とも年齢が低いほど、「意思表示ができる環境づくり」、「法律や規則の整備による罰則強化」を希望する人が最も多い。

ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントをなくすための方策を尋ねたところ、「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」が 52.7%で最も高く、次いで「不快な言動、行動に対しはっきりと意思表示ができる環境と意識づくり」(46.0%)、「相手に対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」(44.1%)、「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」(38.9%)となり、様々な意見に分かれている。なお、「それぞれの気持ちの問題だから、特に必要なものはない」と答える人は1割(4.6%)にも満たない。

性・年代別にみると、女性は「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」、男性は「相手に対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」を希望する人が最も多い。また、男女とも年代が低いほど「不快な言動、行動に対しはっきりと意思表示ができる環境と意識づくり」、「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」を希望する人が多い。

DVやセクハラをなくすための方策(全体)



DVやセクハラをなくすための方策(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サ ン プ ル 数	で き る 情 や 相 談 に 制 的 の 充 実 対 応	意 識 づ く り	不 快 な 言 動 、 行 動 に 対 し	啓 発	相 手 を 対 等 な パ ー ト ナ ー	罰 則 を 強 化 し た 法 律 や 規 則	D V や セ ク ハラ に 対 す る	は だ か ら、 特 に 必 要 な も の 問 題	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	52.7 423	46.0 369	44.1 354	38.9 312	4.6 37	1.5 12	8.8 71			
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	56.4 243	48.5 209	39.0 168	40.1 173	3.7 16	1.4 6	10.4 45			
	20歳～29歳	100.0 56	71.4 40	57.1 32	44.6 25	67.9 38	1.8 1	1.8 1	- -			
	30歳～39歳	100.0 54	50.0 27	57.4 31	46.3 25	59.3 32	- -	- -	- -			
	40歳～49歳	100.0 63	68.3 43	58.7 37	47.6 30	44.4 28	1.6 1	1.6 1	6.3 4			
	50歳～59歳	100.0 77	58.4 45	53.2 41	49.4 38	36.4 28	1.3 1	1.3 1	1.3 1			
	60歳～69歳	100.0 65	52.3 34	43.1 28	26.2 17	29.2 19	4.6 3	- -	15.4 10			
	70歳以上	100.0 116	46.6 54	34.5 40	28.4 33	24.1 28	8.6 10	2.6 3	26.7 31			
	男 性 計	100.0 372	48.4 180	42.7 159	50.0 186	37.4 139	5.6 21	1.6 6	7.0 26			
	20歳～29歳	100.0 55	54.5 30	50.9 28	41.8 23	61.8 34	3.6 2	- -	3.6 2			
	30歳～39歳	100.0 52	38.5 20	48.1 25	48.1 25	44.2 23	5.8 3	1.9 1	1.9 1			
	40歳～49歳	100.0 60	51.7 31	46.7 28	66.7 40	23.3 14	5.0 3	1.7 1	- -			
	50歳～59歳	100.0 76	56.6 43	36.8 28	57.9 44	40.8 31	6.6 5	1.3 1	5.3 4			
	60歳～69歳	100.0 56	57.1 32	44.6 25	44.6 25	30.4 17	3.6 2	1.8 1	8.9 5			
	70歳以上	100.0 73	34.2 25	35.6 26	39.7 29	27.4 20	6.8 5	2.7 2	19.2 14			

(5) メディアにおける性・暴力表現に対する意識 (問 32 : 複数回答)

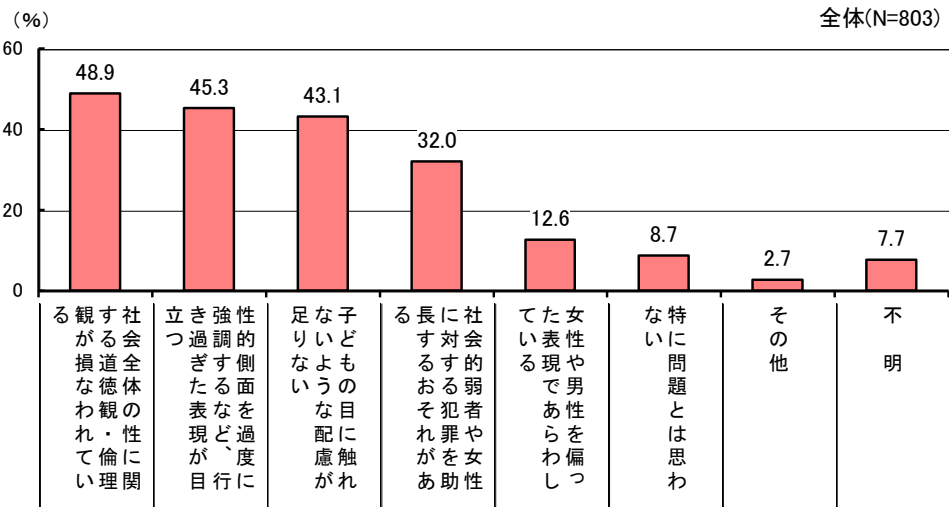
問 32. メディア(テレビや映画、出版物)における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。
(○はいくつでも)

- 全体では「特に問題とは思わない」と考える人(8.7%)が極めて少なく、「道徳観・倫理観の欠如」、「過度な表現」、「子どもへの配慮」など回答が多岐にわたる。
- 若い年代は「特に問題とは思わない」人が2割を占める。

メディアにおける性・暴力表現に対する意識をみると、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が 48.9%で最も高く、次いで「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(45.3%)、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」(43.1%)、「社会的弱者に対する犯罪を助長する恐れがある」(32.0%)となり、「特に問題とは思わない」と考える人(8.7%)は極めて少ない。

性・年代別にみると、男女とも「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」と考える人が最も多いが、「特に問題とは思わない」と答える人は男性が女性を上回っている。また、女性 20～30 代と男性 20 代の若年層は「子どもの目に触れないような配慮が足りない」と答える人が最も多い反面、女性 20 代と男性 20～30 代は「特に問題とは思わない」人が2割を占める。

メディアにおける性・暴力表現に対する意識(全体)



メディアにおける性・暴力表現に対する意識(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サンプル数	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	子どもの目に触れないような配慮が足りない	社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある	女性や男性を偏った表現であらわしている	特に問題とは思われない	その他	不明
全体		100.0 803	48.9 393	45.3 364	43.1 346	32.0 257	12.6 101	8.7 70	2.7 22	7.7 62
性・年代別	女性計	100.0 431	48.3 208	47.8 206	45.9 198	34.6 149	12.3 53	6.5 28	2.3 10	9.5 41
	20歳～29歳	100.0 56	33.9 19	33.9 19	51.8 29	23.2 13	17.9 10	19.6 11	- -	- -
	30歳～39歳	100.0 54	44.4 24	42.6 23	50.0 27	46.3 25	14.8 8	5.6 3	3.7 2	1.9 1
	40歳～49歳	100.0 63	54.0 34	57.1 36	49.2 31	41.3 26	19.0 12	- -	3.2 2	6.3 4
	50歳～59歳	100.0 77	66.2 51	58.4 45	42.9 33	32.5 25	11.7 9	2.6 2	3.9 3	2.6 2
	60歳～69歳	100.0 65	44.6 29	53.8 35	40.0 26	30.8 20	6.2 4	1.5 1	1.5 1	13.8 9
	70歳以上	100.0 116	44.0 51	41.4 48	44.0 51	32.8 38	8.6 10	8.6 10	2.6 3	21.6 25
	男性計	100.0 372	49.7 185	42.7 159	39.8 148	28.8 107	12.9 48	11.3 42	3.2 12	5.6 21
	20歳～29歳	100.0 55	32.7 18	25.5 14	45.5 25	38.2 21	9.1 5	20.0 11	9.1 5	- -
	30歳～39歳	100.0 52	42.3 22	26.9 14	32.7 17	25.0 13	11.5 6	23.1 12	5.8 3	1.9 1
	40歳～49歳	100.0 60	53.3 32	48.3 29	35.0 21	25.0 15	23.3 14	6.7 4	- -	- -
	50歳～59歳	100.0 76	53.9 41	43.4 33	44.7 34	32.9 25	14.5 11	9.2 7	2.6 2	5.3 4
	60歳～69歳	100.0 56	62.5 35	55.4 31	37.5 21	23.2 13	12.5 7	8.9 5	1.8 1	7.1 4
	70歳以上	100.0 73	52.1 38	49.3 36	39.7 29	28.8 21	8.2 6	2.7 2	2.7 2	15.1 11

(6) DV相談機関の認知状況（問33：複数回答）

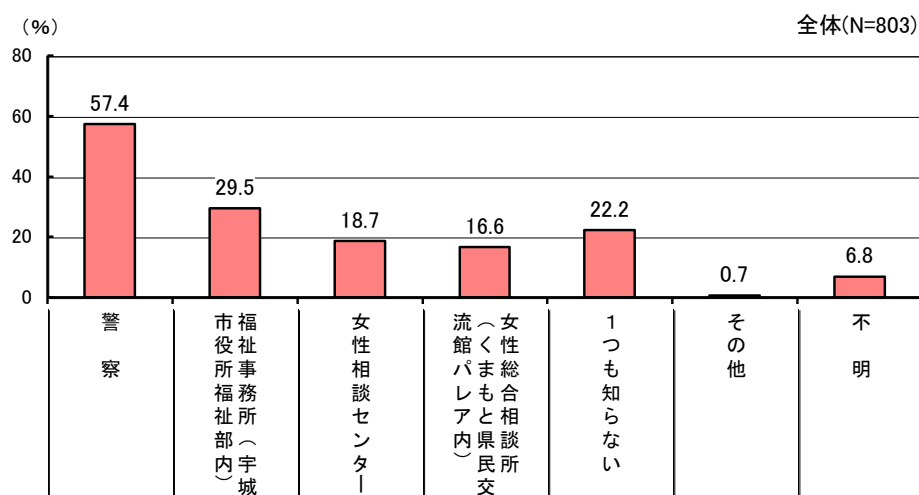
問 33. DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する問題を相談できる機関が県内にありますが、ご存知の相談機関をすべて○で囲んでください。

- 全体では「警察」の認知率が最も高く、他の相談機関の認知率は3割以下である。
- 男女 20 代は「一つも知らない」が約3割を占める。

DV相談機関の認知状況をみると、「警察」が 57.4%で最も高く、次いで「福祉事務所(宇城市役所福祉部内)」(29.5%)、「女性総合センター」(18.7%)、「女性総合相談所(くまもと県民交流館パレア内)」(16.6%)となり、「警察」以外の認知率が3割以下にとどまっている。なお、「一つも知らない」人が 22.2%である。

性・年代別にみると、男女とも「警察」の認知者が最も多いが、「女性相談センター」は女性が男性の認知率を 10.2 ポイントも上回っている。また、男女 20 代の場合「一つも知らない」が3割程度を占める。

DV相談機関の認知状況(全体)



DV相談機関の認知状況(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サ ン プ ル 数	警 察	役 福 所 祉 社 事 福 務 祉 所 部 内 (宇 城 市)	女 性 相 談 セ ン タ ー	ま 女 も 性 と 総 県 合 民 相 交 談 流 所 館 (く ぱく)	1 つ も 知 ら な い	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	57.4 461	29.5 237	18.7 150	16.6 133	22.2 178	0.7 6	6.8 55
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	56.1 242	29.0 125	23.4 101	16.5 71	21.8 94	0.9 4	7.2 31
	20歳～29歳	100.0 56	64.3 36	10.7 6	19.6 11	10.7 6	28.6 16	— —	— —
	30歳～39歳	100.0 54	66.7 36	18.5 10	22.2 12	14.8 8	22.2 12	— —	— —
	40歳～49歳	100.0 63	65.1 41	27.0 17	25.4 16	12.7 8	17.5 11	4.8 3	3.2 2
	50歳～59歳	100.0 77	58.4 45	28.6 22	32.5 25	26.0 20	19.5 15	1.3 1	2.6 2
	60歳～69歳	100.0 65	47.7 31	30.8 20	13.8 9	12.3 8	24.6 16	1.5 1	9.2 6
	70歳以上	100.0 116	46.6 54	44.0 51	23.3 27	17.2 20	20.7 24	— —	17.2 20
	男 性 計	100.0 372	58.9 219	30.1 112	13.2 49	16.7 62	22.6 84	0.5 2	6.5 24
	20歳～29歳	100.0 55	58.2 32	12.7 7	3.6 2	12.7 7	32.7 18	— —	— —
	30歳～39歳	100.0 52	67.3 35	25.0 13	5.8 3	17.3 9	17.3 9	— —	5.8 3
	40歳～49歳	100.0 60	66.7 40	26.7 16	11.7 7	21.7 13	23.3 14	1.7 1	1.7 1
	50歳～59歳	100.0 76	60.5 46	26.3 20	14.5 11	11.8 9	25.0 19	— —	2.6 2
	60歳～69歳	100.0 56	50.0 28	39.3 22	23.2 13	17.9 10	26.8 15	1.8 1	8.9 5
	70歳以上	100.0 73	52.1 38	46.6 34	17.8 13	20.5 15	13.7 10	— —	19.2 14

9. 市に要望する施策について

(1) 男女共同参画に関する関連用語等の認知状況（問 34）

問 34. 次の言葉のうち、あなたが、見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

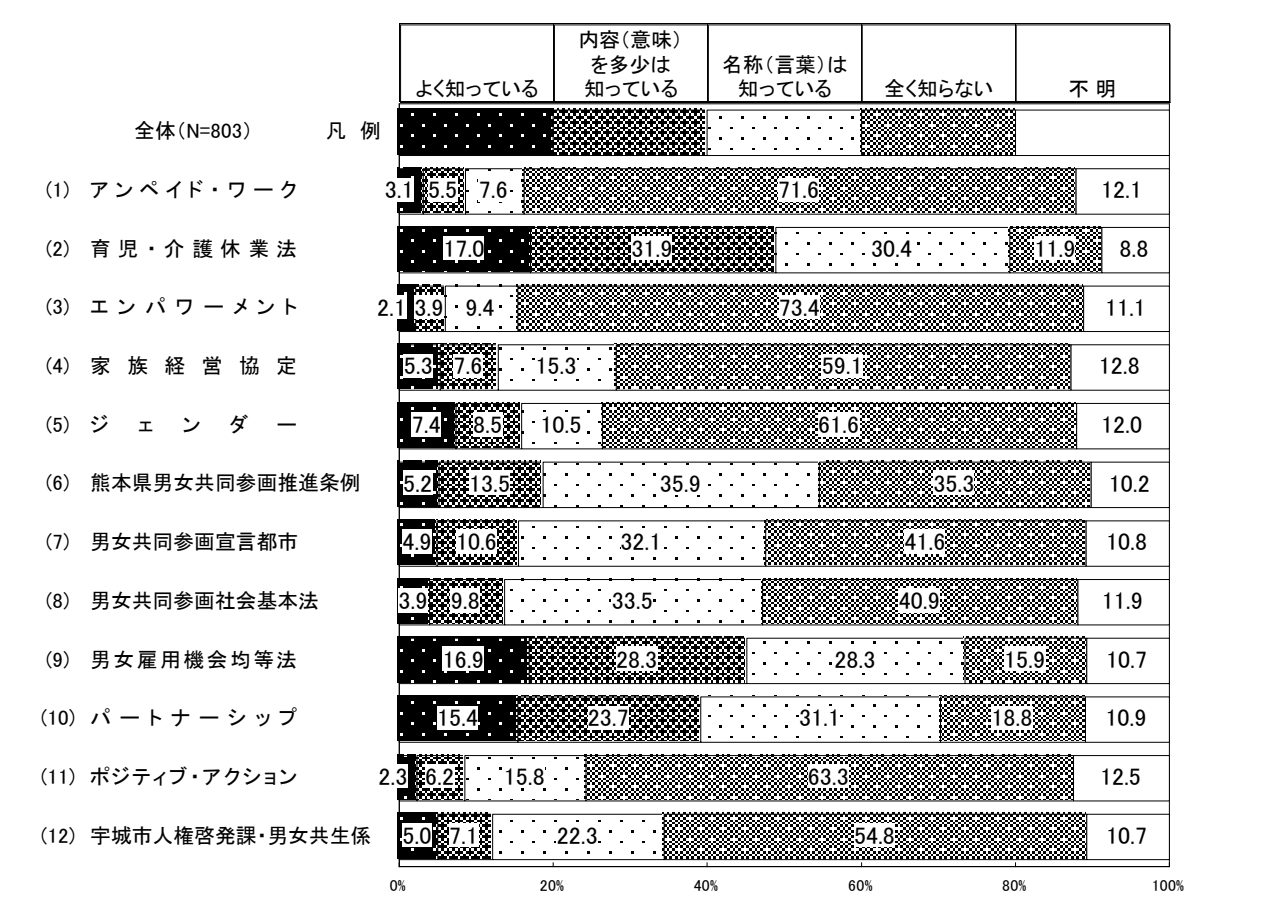
※「認知率」＝「よく知っている」、「内容を多少知っている」、「名称は知っている」を合計した割合。
●認知率が5割以上あるものは、「育児・介護休業法」「男女雇用機会均等法」、「パートナーシップ」、「熊本県男女共同参画推進条例」。
●認知率が3割以下のものは、「エンパワーメント」、「アンペイド・ワーク」、「ポジティブ・アクション」、「ジェンダー」、「家族経営協定」

男女共同参画に関する関連用語等11項目の認知状況をみえる。

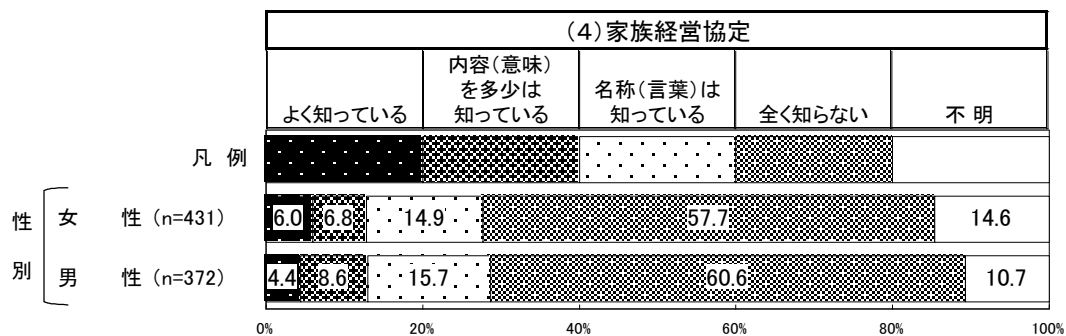
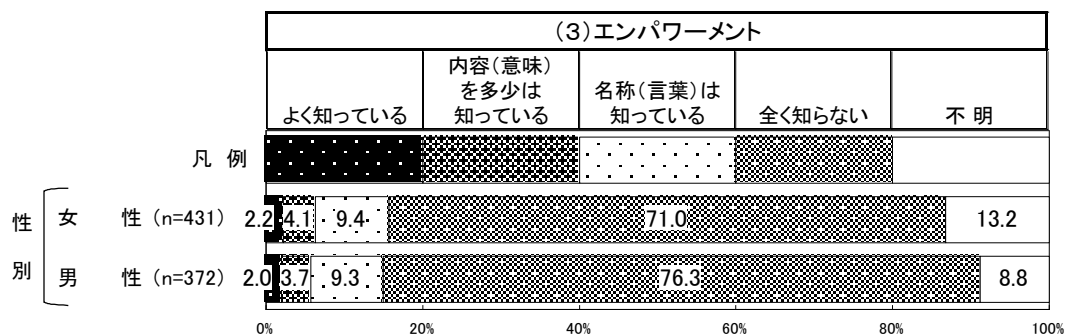
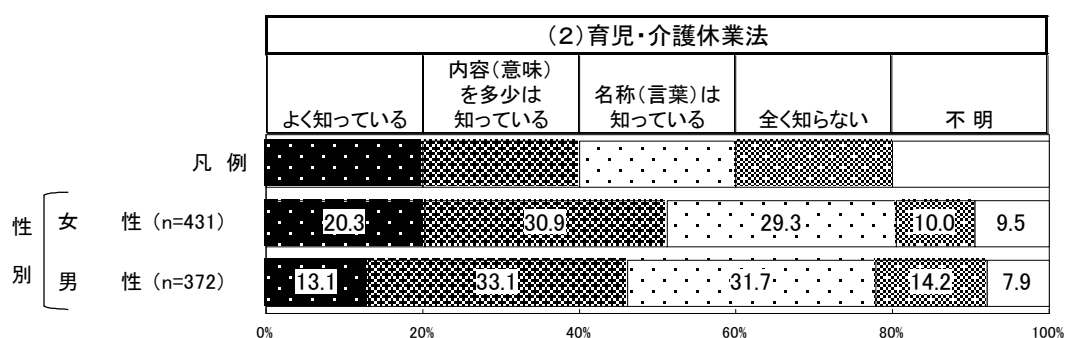
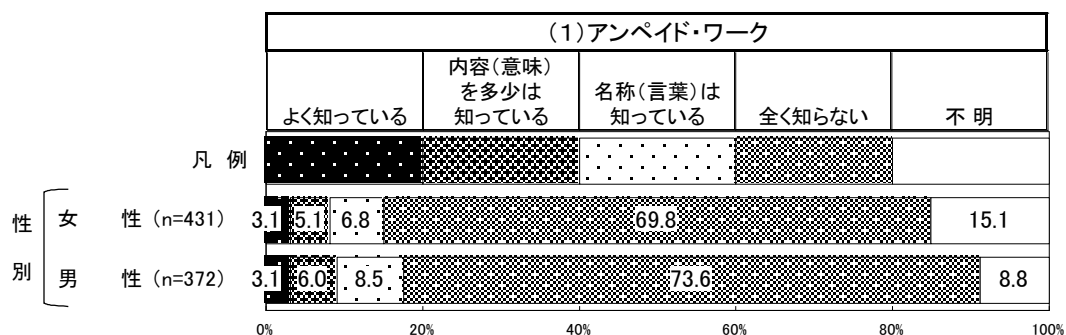
「よく知っている」、「内容を多少知っている」、「名称は知っている」と回答した『認知率』が高いものをみると、「育児・介護休業法」が 79.3%で最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」(73.5%)、「パートナーシップ」(70.2%)、「熊本県男女共同参画推進条例」(54.6%)となり、これら4項目だけが認知率5割以上となっている。逆に、認知率が低いものをみると、「エンパワーメント」(15.4%)、「アンペイド・ワーク」(16.2%)、「ポジティブ・アクション」(24.3%)、「ジェンダー」(26.4%)、「家族経営協定」(28.2%)などであり、これら5項目を「よく知っている」と答えた人は1割にも満たない。

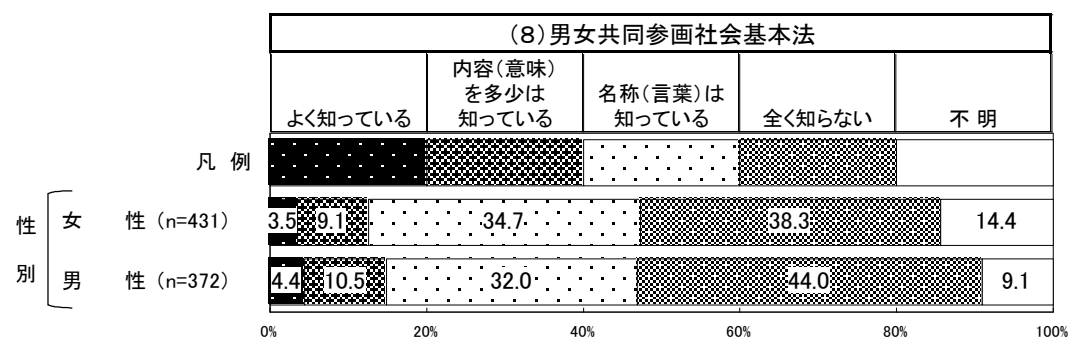
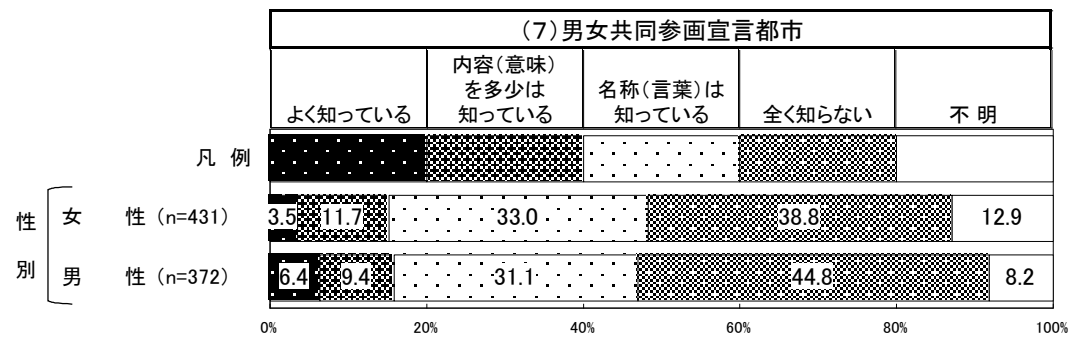
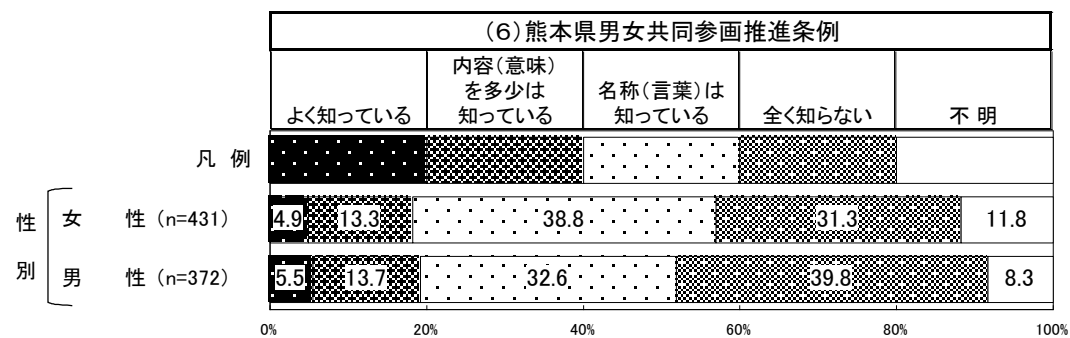
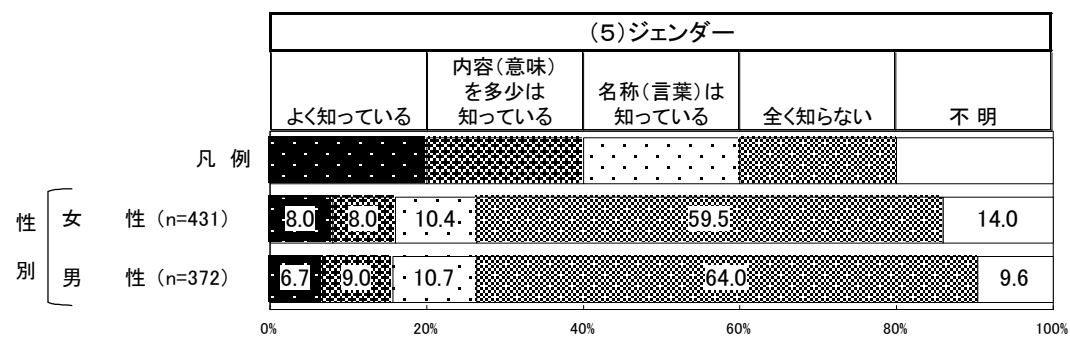
性別にみると、男女による認知差にほとんど差はないが、「熊本県男女共同参画推進条例」に関しては女性、「男女雇用機会均等法」に関しては男性の認知率が若干高い。

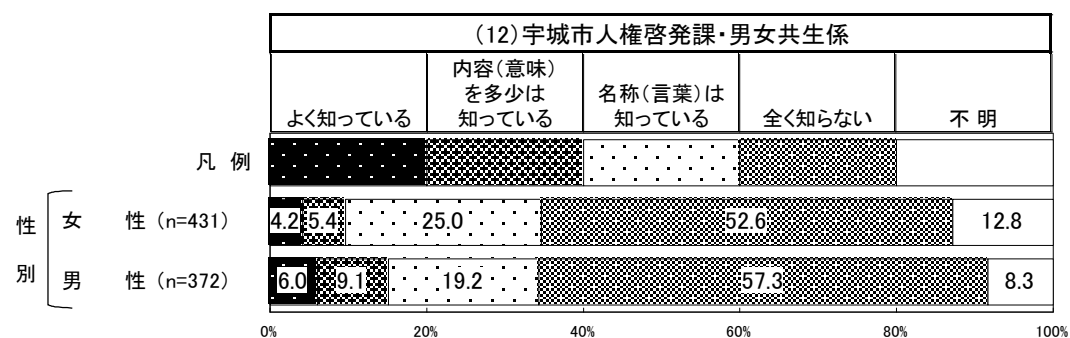
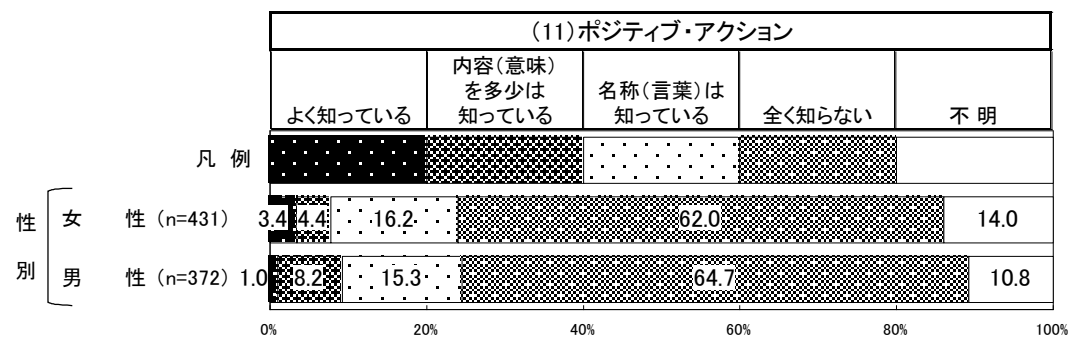
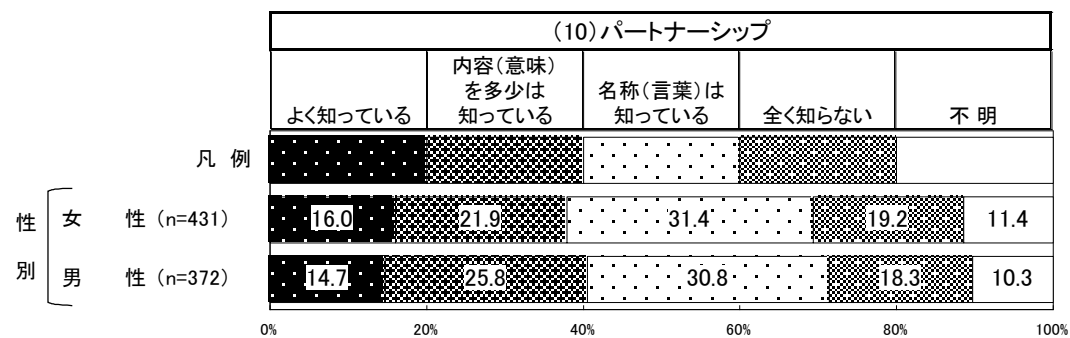
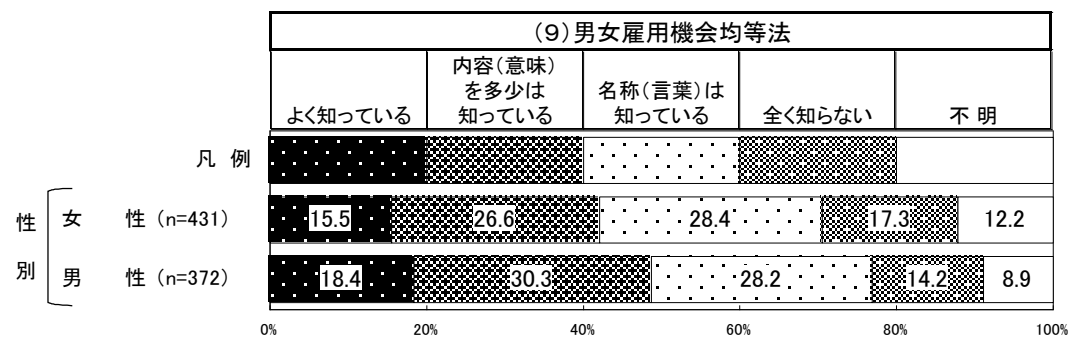
男女共同参画に関する関連用語等の認知状況(全体)



男女共同参画に関する関連用語等の認知状況(性別)







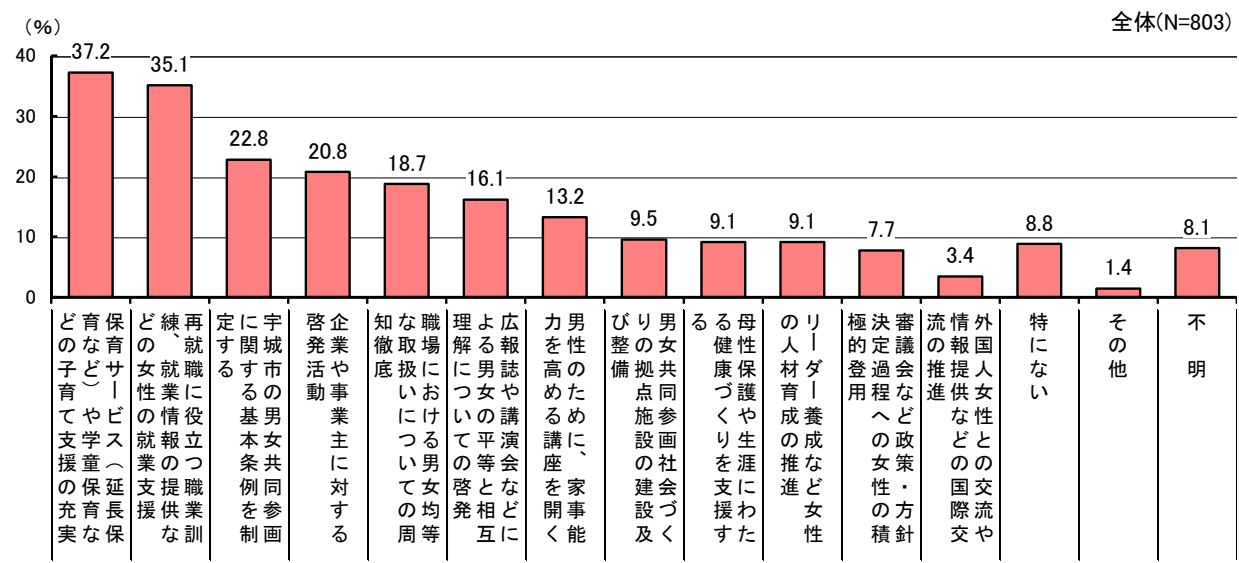
(2) 男女共同参画社会のための本市の施策 (問 35 : 3 つまで)

問 35.「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。(〇は 3 つまで)
●全体では、「子育て支援策」、「再就職支援策」を要望する人が多い。 ●特に、「子育て支援策」は女性 20～30 代、「再就職支援策」は女性 20～50 代での要望率が高い。

本市が男女共同参画社会を実現するための施策を尋ねたところ、「保育サービス(延長保育など)や学童保育などの子育て支援の充実」が 37.2%で最も高く、次いで「再就職に役立つ職業訓練、就業情報の提供などの女性の就業支援」(35.1%)、「宇城市の男女共同に関する基本条例を制定する」(22.8%)、「企業や事業主に対する啓発活動」(20.8%)、「職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底」(18.7%)、「広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」(16.1%)となり、子育て支援策、再就職支援策が上位にあがっている。なお、「特にない」と答える人は1割(8.8%)にも満たない。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性は「母性の保護や生涯にわたる健康づくりを支援する」、男性は「企業や事業主に対する啓発活動」と回答する人がそれぞれ多い。また、女性 40～50 代の場合「再就職に役立つ職業訓練、就業情報の提供などの女性の就業支援」、男性 60 代以上は「宇城市の男女共同に関する基本条例を制定する」を希望する人が多い。

男女共同参画社会のための本市の施策(全体)



男女共同参画社会のための本市の施策(性・年代別)

(上段: %、下段: 実数)

		サンプル数	学 童 保 育 サ ー ビ ス （ 延 長 保 育 な ど ） の 子 育 て 支 援 の 充 実	再 就 職 に 役 立 つ 職 業 訓 練 、 就 業 情 報 の 提 供 な ど の 女 性 の 就 業 支 援	本 条 例 を 制 定 す る	宇 城 市 の 男 女 共 同 参 画 に 関 す る	企 業 や 事 業 主 に 対 す る 啓 発 活 動	職 場 に お け る 男 女 均 等 な 取 扱 い に 関 す る 周 知 徹 底	平 等 と 相 互 理 解 に つ い て の 啓 発	講 座 を 開 く た め に 、 家 事 能 力 を 高 め る	男 性 の た め に 、 家 事 能 力 を 高 め る	設 の 建 設 及 び 整 備	男 女 共 同 参 画 社 会 づ く り の 拠 点 施 設	母 性 保 護 や 生 涯 に わ た る 健 康 づ く り を 支 援 す る	リ ー ダ ー 養 成 な ど 女 性 の 人 材 育 成 の 推 進	審 議 会 な ど 政 策 ・ 方 針 決 定 過 程 へ の 女 性 の 積 極 的 登 用	ど の 国 際 交 流 の 推 進	外 国 人 女 性 と の 交 流 や 情 報 提 供 な ど	特 に な い	そ の 他	不 明
全 体		100.0 803	37.2 299	35.1 282	22.8 183	20.8 167	18.7 150	16.1 129	13.2 106	9.5 76	9.1 73	9.1 73	7.7 62	3.4 27	8.8 71	1.4 11	8.1 65				
性 ・ 年 代 別	女 性 計	100.0 431	42.7 184	38.5 166	20.2 87	17.6 76	18.1 78	14.4 62	14.4 62	11.8 37	8.6 35	8.8 38	1.4 6	7.0 30	0.7 3	8.8 38					
	20歳～29歳	100.0 56	67.9 38	48.2 27	17.9 10	5.4 3	28.6 16	10.7 6	16.1 9	5.4 3	7.1 4	1.8 1	3.6 2	10.7 6	-	1.8 1					
	30歳～39歳	100.0 54	81.5 44	44.4 24	13.0 7	18.5 10	22.2 12	14.8 8	16.7 9	5.6 3	7.4 4	5.6 3	9.3 5	1.9 2	3.7 2	-					
	40歳～49歳	100.0 63	36.5 23	44.4 28	15.9 10	23.8 15	11.1 7	19.0 12	17.5 11	11.1 7	12.7 8	12.7 8	-	3.2 2	-	3.2 2					
	50歳～59歳	100.0 77	35.1 27	53.2 41	18.2 14	28.6 22	19.5 15	18.2 14	13.0 10	10.4 8	5.2 4	11.7 9	15.6 12	1.3 1	1.3 1	3.9 3					
	60歳～69歳	100.0 65	40.0 26	32.3 21	26.2 17	10.8 7	13.8 9	16.9 11	7.7 8	21.5 5	9.2 14	7.7 6	1.5 5	6.2 1	-	13.8 9					
	70歳以上	100.0 116	23.3 27	20.7 24	24.1 28	16.4 19	16.4 19	9.5 11	12.1 14	4.3 5	15.5 18	6.9 8	5.2 6	0.9 1	14.7 17	0.9 23					
	男 性 計	100.0 372	31.2 116	31.2 116	25.8 96	24.5 91	19.4 72	18.0 67	12.1 45	10.5 39	5.9 22	9.9 37	6.5 24	5.6 21	10.8 40	2.2 8	7.5 28				
	20歳～29歳	100.0 55	25.5 14	41.8 23	25.5 14	29.1 16	25.5 14	12.7 7	25.5 14	3.6 2	3.6 2	12.7 7	3.6 2	25.5 14	9.1 5	3.6 2					
	30歳～39歳	100.0 52	44.2 23	44.2 23	5.8 3	11.5 6	17.3 9	5.8 3	7.7 4	1.9 1	1.9 1	1.9 1	-	19.2 10	5.8 3	1.9 1					
	40歳～49歳	100.0 60	43.3 26	26.7 16	23.3 14	33.3 20	23.3 14	20.0 12	6.7 4	15.0 9	6.7 4	8.3 5	10.0 6	1.7 1	8.3 5	1.7 1					
	50歳～59歳	100.0 76	31.6 24	31.6 24	25.0 19	28.9 22	13.2 10	18.4 14	15.8 12	14.5 11	2.6 2	7.9 6	7.9 6	3.9 3	10.5 8	9.2 7					
	60歳～69歳	100.0 56	25.0 14	23.2 13	33.9 19	28.6 16	10.7 6	25.0 14	10.7 6	14.3 8	8.9 5	8.9 5	7.1 4	1.8 1	8.9 5	12.5 7					
	70歳以上	100.0 73	20.5 15	23.3 17	38.4 28	15.1 11	27.4 20	24.7 18	5.5 4	9.6 7	9.6 7	19.2 14	4.1 3	4.1 3	9.6 7	2.7 2	11.0 8				

(3) 市や県に相談したい内容 (問 36 : 3 つまで)

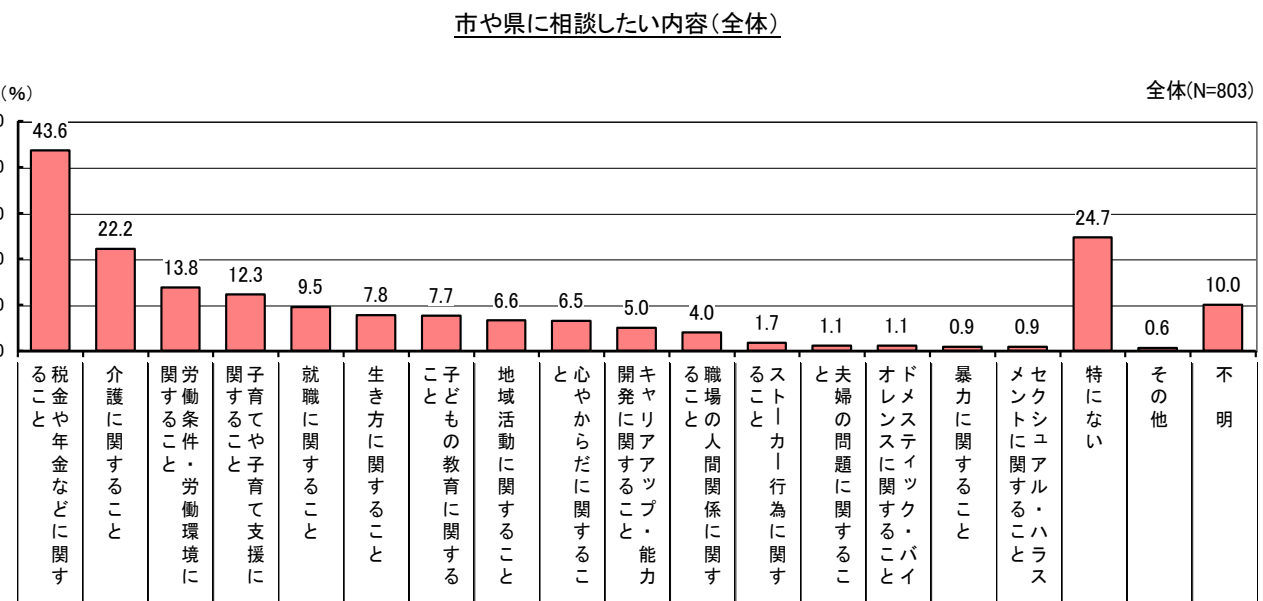
問 36. あなたが、市や県などに相談したいと思うことは何ですか。(〇は 3 つまで)

●女性では、20 代が「労働条件・労働環境に関すること」、70 歳以上が「介護に関すること」を希望する人が多い。

●男性では、20 代が「就職に関すること」、「キャリアアップ・能力開発に関すること」、40 代が「労働条件・労働環境に関すること」を希望する人が多い。

市や県に相談したい内容をみると、「税金や年金に関すること」が 43.6%と突出して高く、以下、「介護に関すること」(22.2%)、「労働条件・労働環境に関すること」(13.8%)、「子育てや子育て支援に関すること」(12.3%)と続く。なお、「特にない」と答える人は 24.7%である。

性・年代別にみると、男女ともほぼ同様の回答結果であるが、女性 70 歳以上は「介護に関すること」が第1の要望である。また、女性 20 代と男性 40 代は「労働条件・労働環境に関すること」、女性 30 代は「子育てや子育て支援に関すること」、男性 20 代は「就職に関すること」、「キャリアアップ・能力開発に関すること」を希望する人が多い。



市や県に相談したい内容(性・年代別)

(上段:%, 下段:実数)

		サンプル数	税金や年金などに関すること	介護に関すること	労働条件・労働環境に関すること	子育てや子育て支援に関すること	就職に関すること	生き方に関すること	子どもの教育に関すること	地域活動に関すること	と心やからだに関すること	キャリアアップ・能力開発に関すること	職場の人間関係に関すること	ストーカー行為に関すること	夫婦の問題に関すること	ドメスティック・バイオレンスに関すること	暴力に関すること	セクシュアル・ハラスメントに関すること	特にな	その他	不明
全 体		100.0 803	43.6 350	22.2 178	13.8 111	12.3 99	9.5 76	7.8 63	7.7 62	6.6 53	6.5 52	5.0 40	4.0 32	1.7 14	1.1 9	1.1 9	0.9 7	0.9 7	24.7 198	0.6 5	10.0 80
性・年代別	女 性 計	100.0 431	41.1 177	24.6 106	13.7 59	12.8 55	7.4 32	7.2 31	7.7 33	6.5 28	7.7 33	4.6 20	3.7 16	2.1 9	0.7 3	2.1 9	0.2 1	1.4 6	24.6 106	0.7 3	9.7 42
	20歳～29歳	100.0 56	39.3 22	10.7 6	28.6 16	19.6 11	16.1 9	1.8 1	12.5 7	3.6 2	3.6 2	10.7 6	5.4 3	5.4 3	－	3.6 2	1.8 1	3.6 2	21.4 12	－	1.8 1
	30歳～39歳	100.0 54	42.6 23	9.3 5	16.7 9	37.0 20	16.7 9	1.9 1	18.5 10	7.4 4	－	7.4 4	1.9 1	5.6 3	－	3.7 2	－	5.6 3	22.2 12	1.9 1	－
	40歳～49歳	100.0 63	34.9 22	17.5 11	17.5 11	11.1 7	7.9 5	4.8 3	11.1 7	6.3 4	11.1 7	6.3 4	1.6 1	－	－	1.6 1	－	1.6 1	33.3 21	1.6 1	7.9 5
	50歳～59歳	100.0 77	55.8 43	26.0 20	22.1 17	6.5 5	5.2 4	3.9 4	5.2 3	5.2 4	5.2 4	5.2 4	5.2 4	－	1.3 1	1.3 1	－	－	24.7 19	－	5.2 4
	60歳～69歳	100.0 65	40.0 26	30.8 20	6.2 4	7.7 5	4.6 3	9.2 6	4.6 3	9.2 6	9.2 6	3.1 2	4.6 3	3.1 2	1.5 1	3.1 2	－	－	21.5 14	－	16.9 11
	70歳以上	100.0 116	35.3 41	38.8 45	2.6 3	5.2 6	2.6 3	14.7 17	3.4 4	6.9 8	12.1 14	－	3.4 4	0.9 1	0.9 1	0.9 1	－	－	24.1 28	0.9 1	19.0 22
	男 性 計	100.0 372	46.5 173	19.4 72	14.0 52	12.1 45	11.8 44	8.6 32	7.8 29	6.5 24	5.1 19	5.4 20	4.3 16	1.3 5	1.6 6	－	1.6 6	0.3 1	24.7 92	0.5 2	10.2 38
	20歳～29歳	100.0 55	50.9 28	3.6 2	16.4 9	20.0 11	25.5 14	9.1 5	－	－	－	16.4 9	12.7 7	－	－	－	－	－	25.5 14	－	3.6 2
	30歳～39歳	100.0 52	44.2 23	5.8 3	11.5 6	23.1 12	7.7 4	7.7 4	17.3 9	－	1.9 1	1.9 1	－	1.9 1	5.8 3	－	1.9 1	－	25.0 13	－	7.7 4
40歳～49歳	100.0 60	51.7 31	23.3 14	26.7 16	10.0 6	6.7 4	6.7 4	15.0 9	3.3 2	3.3 2	6.7 4	5.0 3	－	－	－	1.7 1	－	26.7 16	－	3.3 2	
50歳～59歳	100.0 76	48.7 37	21.1 16	17.1 13	3.9 3	18.4 14	5.3 4	3.9 3	6.6 5	5.3 4	3.9 3	3.9 3	2.6 2	－	－	3.9 3	－	30.3 23	－	7.9 6	
60歳～69歳	100.0 56	46.4 26	28.6 16	7.1 4	10.7 6	3.6 2	12.5 7	5.4 3	16.1 9	7.1 4	1.8 1	－	1.8 1	1.8 1	－	－	－	26.8 15	－	8.9 5	
70歳以上	100.0 73	38.4 28	30.1 22	5.5 4	8.2 6	6.8 5	11.0 8	6.8 5	11.0 8	11.0 8	2.7 2	4.1 3	1.4 1	2.7 2	－	1.4 1	1.4 1	15.1 11	2.7 2	24.7 18	

(4) 男女共同参画に関する意見・要望（自由意見）

女性 20代

私自身現在独身で、仕事をするに当たっては、男女問わずその人次第で生き方は変えられると思うので、あまり平等か不平等かとは考えた事がない。しかし、「家庭」の中においては女性のほうが大変だと思う。配偶者やその両親、子供、家事など様々なことに気を遣いこなしていても、あまり評価されない気がする。少子化や介護保険の問題なども女性の社会進出が原因のように言われるが、男性の協力不足、意識の低さも原因なのでは。今回この質問に答えるにあたって、色々なことを考えるきっかけになりました。有難うございました

知らない言葉などがあり、勉強しないといけないと思った

今、仕事でほんの少しだけ「男女共同参画社会」に関わっています。その中で感じたことは、「男女共同参画」という言葉はお堅いイメージがあるのか、なかなか一般(?)の人はとっつきにくいようです。講演会やセミナー等に積極的に参加する人は「男女平等・男女共同参画」に対する意識がもともと高い人のようで、啓発もしやすいと思われませんが、本当に「男女共同参画」を知って欲しい人や若い人にどのように啓発していくかが課題であると思います。また、DVやセクハラ被害にあっていても、本人にその知識がないと自分が被害にあっているということに気付かないこともあるらしいので、中学・高校生の頃から学習をしていくことが大切だと思います。これから社会に出て行く人が、加害者にも被害者にもならないために、未然に防ぐことではないでしょうか

男性女性、どちらもより良く生きていける社会であれと思います。そのためには、男性・女性両方の意識改革が必要だと思います。人の意識が変われば、社会も変わります。法律が出来ても人の意識に変化がなければ社会は変わりません。これからますます少子高齢化が進むでしょう。「子供がほしい」という女性は周りに多いけれど、現実には産めていない。環境が整えばまだまだ可能性はあると思います。男女共同参画社会を目指すことは、男女関係無く暮らしやすい・生き易い社会へ繋がると思います。女性の労働人口割合の大きい県や国の政策や状況を参考にするのも良いのではと思います。（もちろん宇城市ができる範囲で）

「男は外、女は内で働く」という意識が今も根付いている中で、多くの女性が社会参加するようになったと思います。しかし、職場の中での男女格差は今も残っていると思われます。育児に関してても介護に関してても、女性がすることのような当たり前の意識を持っていたは駄目だと思います。家庭は女性だけで作るのではなく、男女協力・支え合っていくことだと私は考えます。

また、DVやセクハラに関しても、女性が弱い立場にあることは今も変わらないと感じます。講習をするだけでなく、暴力を受けている人に対しての相談支援や周りの人の理解が必要だと言えます

問13～16はなぜ「女性」に焦点が当てられているのでしょうか。項目としては「仕事や職業観について」となっているのに、「女性」「仕事」とくくっている時点で偏った質問になっていると思います。厳しい目で見れば、女性が「不平等だ」などと言わずに男性と同じように仕事をして、普通に頑張っているとはいけないのだと思います。けれど、ここまで「男女平等」が社会的に取り上げられるようになったという事は、やはり依然として男性優遇なのだということなんだと思います。女性の管理職等への登用も必要だと思いますし、男性管理職の意識改革、男性が家庭に入りやすくなる環境づくり等、必要なことは沢山あると思います。どちらかの立場に偏ることなく、皆が同じように意見を出し合っていけるような話し合いの場、職場の環境作り、さらに子供に「男」「女」という意識を受け付けけない教育方針を進めたいことが大切だと思います

育児休業を取りにくい雰囲気がある。公務員等は良いが、中小企業など小さな営業所は特にとりにくいと思う(男性も女性も)。また、介護等に関しても、年金暮らしのお年寄り、子供のいない老人の男性介護ボランティア(話し相手になるだけでもよいと思う)などがもっと必要と思う。家族内でみんなが納得して役割を決めていくこと、またそれをバックアップすることが大切だと思う。

女性 30代

自分は今まで男女共同参画について、どういった内容であるかも知らなかった。これを機に学びたいし学べるような活動をお願いしたい

男女平等であるべきだとは思いますが、もって生まれた性による能力等の差はどうしようもないものだと思う。男らしさ、女らしさも男の人だからこそできるもの、女の人だからこそできるものなので、何事も平等とは決していえないところもある。男性のよさ女性のよさをお互いに生かしながら過ごせる社会になっていければ良い

男性しかできないもの、女性しかできないもの、男女どちらでもできるものがあるのでお互い助け合っていければいいと思う。女性ばかりの職場でしか働いたことがないので、職場における仕事内容や賃金の差等とはよく分からないが、男性、女性、能力がありながら仕事を任せてもらえないのは不平等であり、職場的にもマイナスだと思う。男女ともにお互い認め合う必要があると思う。

働いていると、土曜も日曜もない。保育園も日・祝日の保育をしてもらえるととても助かる

アンケートに答えることで普段は考えもしなかった事を色々と考えさせられました。男女共同参画はとても重要なことで、進めなければいけない一方、子どもを産むことなど男性と女性では決定的に違う事も多くあるので、何でもかんでも共同というのもどうかと思いました。それぞれの立場を考慮した柔軟性のあるものになって欲しいと思います

男女共同参画に対して取り組んでいる割合は圧倒的に女性の方が大きいと思います。周囲を見ていると、家庭内ではいくらか「家事分担」されているようですが、職場ではというとあまり変わっていないようです。女性だけでなく、もっと男性も真剣に考えてもらわないと男女共同参画は進展していかないのではないのでしょうか

女性 30代 (つづき)

現在、35歳以上と以下の世代で「男女平等について」の意識や職業観がはっきり分かれていると思います。若い世代は受けてきた教育によって平等が当たり前に感じているようですが、上の世代は古い男女格差をずっと引きずっている人が多いと感じます

講演会開催時に託児してもらえれば参加できるのですが、育児中なので参加できるのが少ないです。育児休業中の人は講演会等、見聞を広めるチャンスだと思うので、色々な情報の提供を期待してます

子育ての条件は昔に比べると良くなってきていると思います。しかし、少子化問題と騒がれている割には、何の施策も無いように思います。地下資源、天然資源などが無い日本なので、人を育てることにお金を使っていただくよう希望します

この課題はこれからの社会の永遠のテーマだと思います。改善も大変難しいテーマだと思う。現在、女性の社会進出が多くなってきたので、この先「男女平等」等の課題は無理だと思う。個人一人一人のモチベーションだと思う。会社の中でのセクハラについても思うのですが、一般的なセクハラ＝男性が悪いというわけではなく、女性も悪いというのが結果です。個人の常識の違いで、見聞きしても「どっちもどっち」だと思う。個人に対してのセクハラを問うのであれば、考えを変えれば社内恋愛や職場結婚も一種のセクハラの変形型とも考えられると思う。個人一人一人が反省すれば少なくなるのでは

男女共同参画自体はよく見聞きし知っているが、宇城市が力を入れておられることは知らなかった。男性は正社員という雇用形態にすぐなれるが、女性は契約社員やパートなど、一見女性のライフスタイルに合った雇用形態を示しているように見えて、実際は会社に都合良く使われて、賃金も満足できるものではないことが多い。企業が女性を積極的に雇用し、正社員としてやりがいの面からも一人間として認められなければならない。これには企業努力だけでどうなるものでもないで、企業とその取引先の受発注の在り方を規制して見直す必要があると思う。例えば、金額にしても仕様書をみて賃金基準を設けるなど、安く安く…となっていくことが、最終的には末端の現場で働く立場の弱い女性に深刻な被害をもたらしている事を、社会全体が知る必要がある

基本的に女性の役割、男性の役割はあると思う。全てが同じなんて無理だが、もう少し男性も家事が出来た方がよいんじゃないかと思う。少子化については、子供はほしいけど働かなければ生活できないし、子育てしながら正社員として雇ってくれる所はない。いくら働いても税金は増えるし、保育料は高いしで、お金が手元に残らない。本当になんとかしてほしい。3人くらいは子供がほしい

機会があったら講演を聞いてみたいですが、まだ子供が小さいこと、仕事もあり、なかなか参加できないのが実状です。広報誌「うきし」が貴重な情報源であり、何回も隅々まで読んでいます。そこにきちんと説明してある事はきちんと把握出来ていますので、今後とも情報提供をお願いします

実際にはまだまだ男性の方が優遇されている気がします。また、私自身も子供に対して「男の子なんだから～」「女の子なんだから～」と言っていることに、今回のアンケートを通して気付かされ、まずは自分の考えを改めなくてはと思いました。宇城市が男女対等に暮らすことの出来る市になるよう、広報などを通じて広まっていくと思っています

男女共同参画ってはっきり言ってよく分からない。男女間で全て平等にはならないと思う。身体的・精神的特徴は男女で違うと思うので、男女の良い所を引き出しあって協力し合う事ができたら良いと思う

私は国家資格を持ち、比較的男女平等に働ける職場・立場にあります。しかし、男性の上司・同僚と世間話している時も、言葉の端々に女性蔑視を感じる事が多々あります。女性ということ得な部分もありますが、やはり損な部分を多く感じています。平等にというよりは、男女それぞれ助け合い、過ぎしやすい社会となる事を望みます

男女共同参画という言葉自体あまり知られておらず、その意識も低いと思います。何より宇城市に人権啓発課なるものが存在することをどれだけの市民が知っているのだろうかと思います。男女平等とは言うものの、企業における経営者の考え方、育ってきた環境等、様々な理由で価値観は偏っていると思います。先ずはその偏った認識を正していく教育や情報をどんどん啓発していくことが大切ではないでしょうか。「知る」事が何より大事だと思います

女性 40代（つづき）

外で働くことだけが仕事だとは思っておらず、家庭で家事・育児を立派にこなしている方は尊敬しています。だけど、昔からの「男は仕事、女は家庭」という断定もカチンときます。「男は…」「女は…」「仕事をしているお母さんは子供とのふれあいが少ない」等など決め付けている人がやはりいます。人それぞれ生き方・考え方が違うのだから、それを受け入れて認め合えると良いと思います。相手を思い遣る、相手の立場に立って考えるというのを大事にしていきたいです。女性だけでなく大いに男性も研修等に参加してくれるような働きかけも必要かなと感じます

何もかも全てが男女平等というのではなく、男女の特性や特長を理解し生かしていくというのを前提として、男女共同参画には賛成です

主人の親と一緒に暮らしていますが、やはり「嫁がみるのが当然」のようなところがある。私の友人も、そんな所があったりする

女性にはできない仕事もあるので、男女平等というのはおかしいと思う

被害を受けた時に、色んな所に相談をしても根本的な解決にはならなかったと思う。意識の低さ、何より職場においては一番上に立つ人の考え方、意識によって左右される。また、処罰等においても熊本県は他県に比べて軽く、甘すぎる。県でこうだから、町村・中小企業は言わずもがなである。表にでてくることは氷山の一角で、個人で我慢していることがほとんどだろう。大事なことは、一人一人の意識。学校教育や社会教育の重要性をもっと考えて欲しい。時間はかかるが、箱物や施設にお金を使うのではなく、教育やソフト面にお金を使うべき

男性が家事・育児をすることには賛成ですし、その分女性の負担が少なくなります。だけど、「子どもを産む」ということは女性しか出来ません。最近男女共同参画を間違っって受け取られている女性が多いです。男性の役割・女性の役割、生まれてきて出来ること・出来ない事があります。家庭ではお互い家族で分担したほうが良い。男が家事をしたからといって、一家の主であることには違いない訳だから。意識の問題。ただ、女性の細かな心配りが職場や家庭を和ませるという意味で、昔から「女らしく」と言われてきた。お互いが認め合って、協力し合って、職場も家庭も楽しく生活できたらいいと思う

女性 50代

男女共同参画といっても男の世界、領域に踏み込んで行こうとは思わないが、女性にしかできないことがあると思うので個人的には自分にできることを一生を通じて頑張りたい。

経済的に余裕があれば、社会的に貢献したり地域活動に参加したりと夢はある。今人生100歳といわれているように高齢化社会であり、心も体も使わなければダメになるとある人の人生訓を読んで私も真似して生きて行きたい。古いかもしれないが男は男らしく、女は女らしくがやっぱり好きな言葉です

今、現在男性は、家事育児介護は女性の仕事と決めかかっているようです。特に農家の方は農作業をし、その上で家事労働をやって当たり前、やりたくないわけではないが、多少の感謝の気持ちをもってくれても良いのではと常日頃思います。「おもしろい」を人として忘れてはならないと思う。男だから女だからではなく、やれる人がやれば、時間のある方が家事をすれば、育児をすれば…子ども達にはそんな風に生きてほしい。

女性は色々な会合や講演会で男女共同参画に関する事をよく聞きますが、男性の方がその様な機会も少なく、女性を1人の人間としても認めてもらえないところがある様に思います。性差はあるので、全て同じということは出来ないが、もう少し女性の事を認めてもらいたいと思います。そこから男女共同参画が生まれると思います

女性の高学歴化で社会は少しずつ変わり始めていると思いますが、立ちはだかる岩は固定観念を持った男性にあると思います。若い人達は機会があれば少しでも広い世界で学び、働き、さまざまな価値観を体得することが必要です。そうすることで、現在の地域での生活に何が問題なのか見えてくるといいます。古い生活習慣から脱皮できない人達の意識を変えるためには、社会全体の空気を変えていかなければ実現しません。また、性を売り物にしている女性が数多くいる限り、対等な関係は生まれてきません。まずは女性自身が新聞を読んだり社会の動きに関心を持ち、教養・文化を身につけ、自分の考えを持ち表現できる能力を持つことから始めて、女性自身が精神的に自立していくことが大切です。

近頃では熟年離婚の話題が盛んになり、男性が捨てられる時代が到来し始めていますが、生活を女性に依存しきっていた男性自身に自立が求められているのだと思います。互いが自立してこそ対等な関係が保たれます。お互いの性別特徴を生かしながら、互いの気持ちの良い生活を実現できるといいですね。広報や講演会などの啓発活動よりも、実際の職場での具体的な活動がより有効だと思います。男性による男性への啓発活動に期待します

男女平等と言われていますが、まだ差があるようです。女性は子育てにしても働くにしても何にしても、しわ寄せがきます。私もパートで働いてきましたが、今はやめています。まず仕事が終わってからが大変です。買物、家に帰って食事作り、洗濯、夜寝る時が自分の時間、朝は弁当作り。もう大変です。土日は掃除・片付けの繰り返しです。主人が少し手伝ってくれたらいつも思っていました。本当に女性は損だと思っています。今からの人達は女性も男性も一緒に子育てしていくべきです。家族仲良くしていれば非行まではないと思います

同じ条件のもとで男女を正當に評価するシステムが必要。また、女性も権利を主張するだけでなく、仕事に対しても責任を持つことが必要だと思う。女性も、学習するだけでなく意見を言える場があり、参画できるようにしなければいいですね

男女ともにお互いを尊重しあい、楽しい毎日を過ごせるように、私自身も努力していきたいと思います

女性 50代 (つづき)
男女平等といわれても、やはり性特有の違い(体力・肉体的)があるので、そこをどこまで含んで許容するかはその社会で難しいと思う。DVでも、男性ばかりが加害者ではなく、逆の事だってあり得るのに女性ばかりが守られているような気がする。なかなか女性の職場(公的な職場を除く)では休みも取りにくいし、表向きには育休があっても、休むと復帰しにくいという場面を何回も見てきた。女性の側からは、育児と家庭を守り生活しやすくしていくべきでは。→特性の尊重 → 参画へと欲したい
男性も育児や家事、または介護もするようになったといいますが、まだまだ女性のする仕事としか考えていない男性達が多いと思います。20・30代の夫婦は少しずつでも浸透しつつあると思いますが、50・60代以上はやはり女性の仕事と思われていますし、男性達も深入りはしないと思います。女性の負担がかなり大きいと思います。女性にも有能な人達はたくさんいますので、男性達もそれを認めて欲しい。まだまだ男性が女性よりも強い(能力が優れている)という意識を持っている人達がかかなりいると思いますので、男性の考え次第でかなり変化すると思います。もっと女性を認めて欲しい

女性 60代
私の時代は育児は母と祖母、現在は夫婦でどこの家庭もしているようです。男女平等になっている気がします
男女とも健康で老後を楽しく元気に過ごすため、また、仲間づくり、活動の幅を広げるために週に1回程度、公民館などで安く民謡(おどり)など開催してほしい
良い企画を市民に提起されました。本来、男も女も1人の人間であります。ともに助け合い労し合い、慈の意識を深める、行を修めることが共同参画だと思います。できるだけ実践したいと思います
適材適所で仕事をしてもらえば、そう取り上げるべき問題ではなさそうに思う
男女共同参画用語はカタカナが多く、すぐに理解が困難。日本人なので横文字より日本語を先に書き、横文字はカッコ内で記入する程度が良いと思う。気楽に抵抗感無く、参加できるようにするため
60歳後の人生の過ごし方に社会参加できる工夫・企画できることを要望します。元気で健康で過ごせる市作りを
低学年～20歳くらいまでの色々な事件が多すぎる。家庭でも学校でも一般的なマナーを教えてあげる(挨拶・しつけ・言葉遣い・上下関係・服装)。中高生の自転車のマナーが悪い。シルバーボランティアの人々と小さな子供との触れ合いの出来る場所等あったら、家では教えられない小さな事も自然のうちにお互いに楽しみながら、シルバーの方はやりがいがあると申し、親も安心して仕事が出来ると思う
基本条例を制定することは最も大切なことと思います。国でもこれだけ騒がれているので、皆さんよく理解しているはず。だが、知っていることと実際の行動とは隔たりがある。その溝を埋めるためには、男女の話し合いと納得が必要だ。話し合いの結果、納得するも残念ながら行動が伴わないといったことが問題だろう(考え方を変えよう)

女性 70歳以上
ニュースや広告等でカタカナや横文字が多く、理解しにくい。実際に若い人達は理解しているのか？
戦中育ちの者には今度のアンケートでも知らない言葉が多い
①男女共同参画について市民意識が低いと思う ②用語など(カタカナ)理解しにくいし意味がよくわからない ③高齢者(65歳以上)は特に今までの生活を守ることによって一生懸命のため、熟年離婚が生じるのではない
近年の日本は男女共同参画社会という前に、貧富の差が激しいと強く思う。それと、老人の方々に対する行政の在り方等、不安な事柄が沢山ある。男女云々といわれる前に、人間一人一人が尊重されて平和な日々が送れるような社会であってほしいと願います
町政時代には男女共同参画については正直の所あまり関心がありませんでしたが、市政になってから、急に共同参画についての意識が高くなりました。市側におかれても発足しました「推進懇談会」を行政区ごとに頻繁に開催されて、市民の意識を高めてください。市側で開催されるいろいろなイベントを活用して、共同参加の実現に向けて御配慮いただければ幸甚です

男性 30代
「らしさ」を大切に。過度なフェミニズムを助長するようなことはやめてほしい。 DVや性犯罪といった不当に危害が及ぶ問題については積極的に取り組んでほしい
このアンケート(経費が無駄)で男女共同参画が浸透するとは思えない。もっと現実的、効率的な施策を行政には望む。 男性が女性を擁護するという本能を変えるというのならすごいことだと思う。 根本的な意識は変わらなくても、それが社会的表面に出てこない施策ができるのなら、それはそれでかまいません。この男女共同参画がどこまで考えているのかわかりませんので、考えて満足するまでにしてください。 もっと、現実的に形に現れる行政をお願いします。きれいごとでは、生活、社会は変わりません。 先日、同じような内容のアンケートが県の人権課みたいな所から来ました。単なる予算消化で送ってきたのならやめてほしい

男性 30代 (つづき)
女性が出産や育児で仕事をやめなければならない状況が多々あるので、経済の落ち込みで各会社は大変だと思うが、その辺を考慮してほしい。また、行政も会社への補助(金銭的な)等を行えばと思う
「男女共同参画社会」と聞いても正直言ってイメージが沸かない。現状がこうで、あるべき姿(政策ゴール)がこうで、現状とあるべき姿のギャップを埋めるためには、こういう具体的政策・施策が必要である。という全体像と具体策を同時に示すことが大事だと思う。また、施策の実効性や進捗度を示すことも必要。そのための重要指標は何なのか、明確にしてほしい。要は、何を目標して何をやっているのか、わかりにくい分野なので、より具体的に情報公開してほしい
まだ未婚ですが興味があります。これから先、宇城市がどういう風にならっていくか、宇城市の一人として社会に目を向けていきたい
男女雇用機会均等や男女平等などよく言われてる割には、職場や社会の中でやはり「女性には無理」という場面をよく見かける。完全なる平等というのはあくまで理想だと思う。しかし、その理想に向かって行動することは大事だと思う。男性の良さ、女性の良さ、各々の個性が充分に発揮された上での男女共同参画には大いに期待したい
自由で平等な宇城市を。工場等を積極的に誘致して、男女とも働きやすい宇城市を目指してほしい
仕事に関しては男じゃなきゃならない仕事もあるし、女性ではない仕事もあると思う。このアンケートは独身男性にとってみれば、ちょっとズレるかもしれませんが。このような市造りに取り組むことは良いことだと思います

男性 40代
研修会等があるのは、広報「うき」で知っているが、男女共同参画に関する知識について余り知らない、遠くにあるような気がする。
もっと具体的に知って男性として今後何をすべきか、どう行動するかなどの啓発もお願いしたい。男性の視点での男女共同参画はどうあるべきとか
男女ともにパートナーシップを取り、知識や技能といった個性豊かなものを大切にして、お互いに尊重しあうことが必要。男女共同参画は今後重要な課題のひとつであることは言うまでもない。更なる啓発活動が望まれる
男女共同参画に対してはどんどん進めてほしいが、男性でないとできないこと、女性でないとできないことがあるので、お互いが理解できる環境づくりを目指してほしいと思います
男女共同参画って何だろうと思っていたが、このアンケートで少しは理解できたと思う。言葉は知っていても意味がわからなかった。自分の知識のなさにあきれた
市民がいくら男女平等といっても、経営者の意識が変わらないと実現は無理。行政が企業に対する条例や指導を行わないと改善できないと思う。また、日本は男尊女卑の考えが根強いので、男性の意識を変える教育・社会が必要と思う
全ての住民が平等に暮らしていける社会作りが必要だと思う
無理だと思う
この様な意識調査が行われているのを初めて知りました。市が率先して活動をリードしていけば、市民の意識は変わると思います。これにより女性の地位向上が実現すれば、住みやすい市となり、人口増・活気溢れる町が出来ると思います。これからは市政に関心を持ってみたいと感じました

男性 50代
実現、実行がなければこの調査の意味もない
男女共同参画という言葉は初耳ですが、誰にも親しまれることを望みます
改善できることを願う
今まで仕事一筋であるが、自分の現在の職場は男女差はなく、一応に参画しているため、特に考えた事がなかった。このようなアンケートは初めてであり、改めて考えさせられた
男女がともに平等であることを全ての人が実感できるようになることは嬉しいことです。是非実行にうつされることを希望します
男性だから女性だからではなく、個人の能力と個性を生かした仕事につけたら本当にいい事だと思います。子供を安心して育てられる、子供とともに行き方を学べる場所があればいいと思います。私は小学校時でもっと道徳の時間を増やし、人が団体生活の中で協調して生きていることをもっと教えてほしいと願います。今は子供も親もゆとりがなく、心の病を持った人が多いのに、人にも言えず抱え込む人がいます。人生を楽しく生きている人が少なく、ただ子供のため、家族のため責任を果たしている、いやいや仕方なく仕事をする人がとても多いと思います。明るいニュース、ほのぼのしたニュースなど少なく、心の痛むニュースが多くなりました。心の中だけは明るく楽しく考えていきたいと思っています
何が同じでなければならないのか、何は異なっていて当たり前なのか、何は特に優遇しなければならないのかを整理して、もう少しみんな明確にしていく必要があると思います。何でも同じでなければならないという思い込みがあるのではないのでしょうか
世の移り変わりが特にはやくなる21世紀。男女共同参画は避けて通れない問題だと思います。これからもこのような企画は是非必要と思われます。折に触れ、アンケート調査等をお願いいたします

男性 60代
男には男にしかできないことがある。女には女にしかできないことがある。男も女も自分の役割を果たしてこそ、男女共同参画ではないでしょうか
このアンケートの調査内容として「健康管理・地域活動」などが必要か疑問。 「男女共同参画プラン」の作成は必要と思うが、この内容は宇城市でも制定されている「人権擁護に関する条例」に極めて関係が深く、この内容の充実を図ることによって、ある程度解決されることはないでしょうか
今後、人権教育の充実を望みます。また、先般の「人権フェスタ」に参加したが、実行委員会等立ち上げ、地域の実態に応じた教育啓発がほしいと思った
集計結果を分析し、行政サイドで政策的に活用するだけでなく、地域の諸団体にも配布し、参画できるようにすること、及び現実を知らしめるために具体的事例を公表していく事も必要かと思う。「男女…」がスローガン化して、実がない状況になっているのではないかと気になる
女性自身が甘えを捨てて自立する自覚（意識改革）も必要。古い感覚だと思うが、育児や介護については女性が中心になるべき。男性は力仕事は協力するが…。動物的な本能なのです
核家族やTVゲームの普及進展により、世代間の交流減少や地域との融合が少なくなり、子供が私物化され、学力偏重により子供の育成は智育より学育となっている。上級学校へ入学するための教育のみで、社会生活を送る上での常識教育が社会でも学校でも行われていない。このため、先人をいたわり敬い、若い人を育てる環境が廃れ、育児環境の悪化、心の荒廃を招いている。子供の育成には夫婦・男女・老若・家族及び他人の関係なく節度を持って地域で育てるものである。 例として、私の係わっている少年スポーツクラブの子供たちは素直であるが、練習中、叱られるためわざといたづらをする子供も多い。叱られることを喜んでいる。愛情を欲しているのである
アンケートを最大限に活かして欲しい
一般・高齢者の方が、働きたくても職種がなく、毎日ぶらぶらしていて認知症にかかりやすくなりはいないかと心配している。そういう人をパート・嘱託等での採用はいかがだろうか。この問題は今後避けては通れない道と思う。宇城市ももっともっと力を入れて、日本一男女共同参画の先進市になれば幸福と思う
とても大切なことでしょし、市として取り組まなければならないことは言うまでもないのですが、その基本・原点というべきことに取り組む事が先なような気がします。例えば、 ①児童生徒の登下校に問題はないのか（特に部活の終了後） ②地域の美化というが、「こうありたい」という提示または働きかけ ③市発注の入札後の情報開示（アンケートの問題と直接関係がないようですが、実は大いにある） ④若者（20歳前後）で社会にかかわっていない人々の実態とアフターケア ⑤若い男女が集えるパーティを市で開いてみたらいい

男性 70歳以上
国会でも議員が増員されているので頑張ってもらいたい
先日の健康立市宣言大会に行きました。人権啓発とやらで男女共同参画に関して何かあると思います。次々にアイデアを出してやられるのは非常に良いと思います。阿曾田市長の施策に期待します
女性は結婚して出産育児（3～4人）は義務。子どもが小学生を卒業するまでは育児に専念して子育てに万全を期してもらいたい。その後は仕事もOK。 女性は学校卒業から結婚までは社会に出て（25～26歳が適齢期）仕事するのは賛成
男女共同参画は大いによろしい。良い意見を見聞きして頑張ってください
この件に関する歴史が浅いということで、まず「男女共同参画ありき」という観が強い。当然、性差に関係なく、能力と意欲のある人は登用されるべき。現時点では無理しても共同参画が先行している感じである。人権にも性差にも本質的に性差あるものであってはならぬ
男女平等を取り巻く課題の中で家族制度の復活のうわさや改憲論もあちらこちらで活発化している現状である。憲法の男女平等をうたった24条が蔑ろにされていくのではないかと懸念される。これまで様々な議論を積み重ね、漸くここまで辿りついた。個人の尊厳と男女の本質的平等の立場を見失ってはならないと思う。これから先、様々な障害があろうとも逆に更なる発展と充実に向けた行政当局の精一杯の努力を強く期待する
少子高齢化については、すでに40～50年前から認識されていたことであり、今さら議論するようでは遅すぎる。子育てのための完璧な施策を講じて、全員が子供を産むとは限らない。もっと根本的に考え直さなくてはならない。いうなれば、過去の施政者の無能怠慢である
男女の性差はある。これをないかの如く法的に規制するのは社会的活力をそぐ。男は男らしく女は女らしくするのが何故いけないのか。男女の性差を知らない空論だ。男が男らしくなく、女が女らしくないふにゃふにゃの男女が蔓延する社会を想像しただけで身の毛がよだつ
約20年近くなりますが、町では県下の女性の集会が実施されていました。松橋町で実施された事を記憶しています。現在の状況は如何ですか
「男女同権でも夫婦同権ではない」という人が多いが、現在も未来も男性が女性に対して尊重する意識が高まらなければ、真の男女同権も夫婦同権も望めないと思う。男性は腕力・体力の優位を女性尊重に変え、女性はやさしさを失わない事が大切だと思う
お陰様で男女共同参画についての色々な知識を得ることが出来ました。どうか今回のアンケートを有意義にご活用下さいますようお願いしております

■ 調 査 票

男女共同参画に関する市民意識調査

調査の趣旨とご協力のお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご理解とご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

さて、宇城市では、平成17年3月「宇城市男女共同参画推進懇話会」を発足させ、男女共同参画推進事業を市政の重点施策に位置づけ、このたび男女が社会のあらゆる分野で対等な構成員として、共に参画し、それぞれの個性や能力を十分発揮しながら、互いにいきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現に向けて、「宇城市男女共同参画プラン」を策定します。

この調査は、プランの策定や今後の施策の実施にあたって、市民の皆様の考えをお聞きするため、市内に在住する20歳以上の男女2,000人の方を無作為に選ばせていただき実施するものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成17年11月

宇城市長 阿曾田 清

調査票記入にあたってのお願い

- 記入にあたっては、原則として封筒のあて名のご本人がお答えください。
- この調査は無記名式ですので、調査票にお名前を記入する必要はありません。また、お答えいただいた内容については、すべて統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、個人の秘密が漏れたり、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただきますようお願いいたします。
- 質問ごとに当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○をつける数は、質問中の指示に従ってください。
- えんぴつまたはボールペンではっきりと記入してください。
- 調査票は、両面に印刷してありますので、記入の際はご注意ください。
- 各質問で「その他」にお答えいただいた方は、なるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 調査票、返信用封筒とも名前や住所などを記入する必要はありません。
- 調査票は、記入漏れがないかを確認した上で、同封の返信用封筒に入れて**11月30日（水）までにポストに投函してください。その際、切手を貼る必要はありません。**

【 お問い合わせ先 】

宇城市役所 総務部 人権啓発課・男女共生係（平中、林田）

TEL：32-1111（内線245） FAX：32-0110

E-mail jinkenkeihatsuka@city.uki.kumamoto.jp

まず、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 次の(1)～(7)の項目について、それぞれ1つを選んでください。

(1)	性 別	1 女性	2 男性	
(2)	年 齢	1 20歳～29歳 3 40歳～49歳 5 60歳～69歳	2 30歳～39歳 4 50歳～59歳 6 70歳以上	
(3)	お住まい	1 三角町 4 小川町	2 不知火町 5 豊野町 3 松橋町	
(4)	配偶者の有無	1 結婚して、現在配偶者がいる（事実婚を含む。） 2 結婚していない。又は、結婚していたが現在は配偶者がいない		
(5)	家族構成	1 ひとり暮らし（単身世帯） 3 親と子（2世代世帯） 5 その他（ ） 2 夫婦だけ（1世代世帯） 4 親と子と孫（3世代世帯）		
(6)	一番下の子どもの年齢	1 乳児（3歳未満） 3 小学生 2 幼児（3歳～小学校入学前） 4 中学生以上		
(7)	職 業	自営業	勤め人	その他
		1 事業主 2 家族従業者 3 自由業	4 管理職（部課長以上） 5 管理職以外の一般社員・職員 6 パート・アルバイト（フリーターを含む。） 7 派遣・契約社員	8 専業主婦・主夫 9 学生 10 無職 11 その他（ ）



男女平等と人権の尊重についておたずねします。

問2 あなたは、次に掲げる(1)～(8)までの分野で、男性と女性は平等であると思いますか。それぞれの分野について、あてはまるものを選んでください。

(○はそれぞれ1つつつ)

	女性の方が非常に優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等である	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない
(1) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2) 職場では	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(4) 地域活動・社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場では	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問3 あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 非常に関心がある | 2 まあまあ関心がある |
| 3 あまり関心がない | 4 ほとんど関心がない |
| 5 全く関心がない | |

問4 あなたは、これまでに男女平等や男女共同参画について、話し合ったり学習したりしたことがありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 友人同士で話した | 2 配偶者や恋人の間で話した |
| 3 親子で話した | 4 講座やセミナーに参加した |
| 5 学校で話したり学習した | 6 職場で話した |
| 7 話し合ったり学習したことはない | |
| 8 その他(具体的に： |) |

問5 あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。(〇はいくつでも)

1 配偶者・パートナーからの暴力 (言葉の暴力を含む)	2 セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)
3 ストーカー行為(つきまとい)	4 売春・買春
5 痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪	6 風俗営業
7 容姿を競うミスコンテストなどの開催	8 ヌード写真やポルノ雑誌など
9 職場や仲間による言葉の暴力	
10 その他(具体的に: _____)	

家庭生活全般についておたずねします。

問6-(1) あなたのご家庭では、次に掲げるようなことは、主にどなたの役割ですか。
(1)～(8)までのそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。
(〇はそれぞれ1つずつ)

	主 に 自 分	主 に 配 偶 者	自 分 と 配 偶 者 が 同 じ く ら い	家 族 全 員 で 分 担 し て い る	※ そ の 他	特 に 決 ま っ て い な い	必 要 な い
(1) 家計を支えるための収入を得る	1	2	3	4	(5)	6	7
(2) 家計の管理	1	2	3	4	(5)	6	7
(3) 掃除	1	2	3	4	(5)	6	7
(4) 洗濯	1	2	3	4	(5)	6	7
(5) 食事の支度などの家事	1	2	3	4	(5)	6	7
(6) 育児、子どものしつけ	1	2	3	4	(5)	6	7
(7) 子どもの教育方針の決定	1	2	3	4	(5)	6	7
(8) 親の世話(介護)	1	2	3	4	(5)	6	7
(9) 高額商品の購入決定(家や車など)	1	2	3	4	(5)	6	7
(10) 自治会などの地域活動	1	2	3	4	(5)	6	7

※ その他(具体的に: 例: 父、母、祖父、祖母など)

問6-(2) あなたは、前の問6-(1)に示した(1)～(8)までの家庭内の役割で、変えたい、変わって欲しいと思うことは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 家計を支えるための収入を得る | 2 家計の管理 |
| 3 掃除 | 4 洗濯 |
| 5 食事の支度などの家事 | 6 育児、子どものしつけ |
| 7 子どもの教育方針の決定 | 8 親の世話(介護) |
| 9 高額な商品購入の決定(家や車など) | 10 自治会などの地域活動 |
| 11 一つもない | |

問7 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 賛成である | 2 どちらかといえば賛成である |
| 3 どちらかといえば反対である | 4 反対である |
| 5 わからない | |

子育て・教育についておたずねします。

問8 最近、子どもの数が減少傾向にあります。その理由は何だと思えますか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 子どもの教育にお金がかかるから | 2 結婚する年齢が上がっているから |
| 3 配偶者の育児に対する協力が無いから | 4 子どもが欲しくないから |
| 5 未婚で子どもを持つことに抵抗感が強いから | 6 出産・育児に肉体的・心理的な負担がかかるから |
| 7 仕事をしながら子育てするのが困難だから | 8 出産すると仕事を辞めなくてはならないから |
| 9 子どもをとりまく社会環境に不満・不安があるから | 10 子育てのための施設やサービスが不十分だから |
| 11 自分の趣味やレジャーを優先させたいから | 12 家が狭いから |
| 13 その他(具体的に： |) |

問9 今後、子育てに関する相談項目で何が充実すればよいと思いますか。
(○は3つまで)

- 1 子どもの成長、発達、しつけに関すること
- 2 親子のふれあい（遊び、遊び場）に関すること
- 3 健康管理、医療に関すること
- 4 不妊医療に関すること
- 5 児童の養育、児童虐待に関すること
- 6 非行に関すること
- 7 ひきこもり、不登校に関すること
- 8 心身障害、精神障害に関すること
- 9 学習、学力に関すること
- 10 進学に関すること
- 11 育児休業制度など雇用に関すること
- 12 保育サービスに関すること
- 13 公営住宅の入居など住宅対策に関すること
- 14 文化、芸術に関すること
- 15 子育てに関する手当及び負担軽減に関すること
- 16 その他（具体的に： _____)



問10 あなたは、子どものしつけや教育について、どのように思いますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。

※ 子どもがいない方、またすでに養育が終了している方も、仮に「子どもをもつとしたら」として、お答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い
(1) 女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要だ	1	2	3	4	5
(2) 女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ	1	2	3	4	5
(3) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
(4) 学校での出席簿など、男女混合にした方がよい	1	2	3	4	5
(5) 男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい	1	2	3	4	5



問11 あなたは、子どもは将来どのような人物に育ってほしいですか。(1)女の子と(2)男の子の場合、それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

※ 子どもがいない方、またすでに養育が終了している方も、仮に「子どもをもつとしたら」として、お答えください。(○は3つまで)

(1) 女の子の場合

- 1 創造性豊かな人
- 2 情緒豊かな人
- 3 忍耐力のある人
- 4 協調性のある人
- 5 思いやりのある人
- 6 人権を大切にする人
- 7 家庭を大切にする人
- 8 社会に貢献する人
- 9 責任感の強い人
- 10 指導力のある人
- 11 自立心の強い人
- 12 その他 ()

(2) 男の子の場合

- 1 創造性豊かな人
- 2 情緒豊かな人
- 3 忍耐力のある人
- 4 協調性のある人
- 5 思いやりのある人
- 6 人権を大切にする人
- 7 家庭を大切にする人
- 8 社会に貢献する人
- 9 責任感の強い人
- 10 指導力のある人
- 11 自立心の強い人
- 12 その他 ()

問12 あなたは、子育てにおいて父親と母親の役割は同じであると思いますか。
(○は1つ)

- 1 全く同じである
- 2 あまり違いはない
- 3 どちらかといえば違う
- 4 全く違う
- 5 その他 ()

仕事や職業観についておたずねします。

問13 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(○は3つまで)

- 1 職業を持たないで、家事に専念する方がよい
- 2 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 3 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
- 4 結婚や出産後も職業は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くしたほうがよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら、再就職した方がよい
- 6 自己実現のため、職業を持ちつづけた方がよい
- 7 経済的自立のため、職業を持ち続けた方がよい
- 8 女性は、妊娠や夫の転勤などで仕事を継続できないこともあるので、職業を持つことにこだわらなくてもよい
- 9 その他（具体的に： _____）

問14 あなたは、女性が職業で能力を発揮するためにどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 仕事と家庭の両立を支援する制度の整備及び普及
- 2 女性自らが積極的に知識や技能を身につけること
- 3 能力主義による人事管理の実施
- 4 女性の管理職等への登用の推進
- 5 女性の能力開発のための研修
- 6 女性の意識改革のための研修
- 7 男性の意識改革のための研修
- 8 その他（具体的に： ）

問15 あなたは、「女性の自立」とはどういうことだと思いますか。(○は1つ)

- 1 職業を持って経済的に自活できるようになること
- 2 職業を持たなくても、家の中をきちんと管理し、自分なりの生き方ができること
- 3 社会人としての知識、教養を持ち、社会的に責任を持って貢献できること
- 4 自分の趣味や生きがいを見つけ、それを追求していくこと
- 5 その他（具体的に： _____)

問16 女性が職業を持ち続ける上で、障害となっていることは何だと思いますか。
(○は3つまで)

- 1 職場に結婚退職、出産退職などの慣行がある
- 2 勤務年数が増えると、職場に退職を促すような圧力がある
- 3 賃金に男女格差がある
- 4 短期契約（1年更新の契約など）等の不安定な雇用形態がある
- 5 女性は補助的な仕事しか、させてもらえない
- 6 昇進、教育訓練等に、男女で不公平な雇用形態がある
- 7 労働時間が長い
- 8 転勤がある
- 9 職場の人間関係がうまくいかない
- 10 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）がある
- 11 家事・育児・介護への家族の協力が不十分である
- 12 家事・育児・介護のための社会のシステムや施設等が、不十分である
- 13 職業を続けることへの家族の同意が得にくい
- 14 女性に、職業を持ち続けようという意識がない
- 15 特に障害はない
- 16 その他（具体的に： _____)



問17 現在、仕事をしている方におたずねします。あなたが、現在働いているのは、どのような理由からですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 生計を維持するため | 2 家計の足しにするため |
| 3 住宅ローンなど借金の返済のため | 4 将来に備えて貯蓄するため |
| 5 自分で自由に使えるお金を得るため | 6 生きがいを得るため |
| 7 自分の能力・技能・資格を活かすため | 8 教育資金を得るため |
| 9 視野を広げたり、友人を得るため | 10 社会に貢献するため |
| 11 仕事をするのが好きだから | 12 働くのが当然だから |
| 13 家業であるから | 14 時間的に余裕があるから |
| 15 特に理由はない | |
| 16 その他（具体的に： | ） |

問18 現在、仕事をしていない方におたずねします。あなたが、現在働いていないのは、どのような理由からですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 高齢あるいは気力・体力に自信がないから | |
| 2 希望する職種や仕事内容がないから | |
| 3 賃金や給料が希望と合わないから | |
| 4 勤務時間や勤務場所が希望と合わないから | |
| 5 求人年齢と自分の年齢が合わないから | |
| 6 自分の知識や技能が十分ではないから | |
| 7 家事や育児、介護の負担が大きいから | |
| 8 家事や育児、介護に専念したいから | |
| 9 自分が働くことを配偶者や子どもなど家族が望まないから | |
| 10 地域活動や趣味などに時間を使いたいから | |
| 11 経済的に働く必要がないから | |
| 12 働きたいが、採用されないから | |
| 13 現在、学校に通っているから | |
| 14 特に理由はない | |
| 15 その他（具体的に： | ） |

家庭生活や介護についておたずねします。

問19 男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。

あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることについて、どのように思いますか。
(○は1つ)

(1) 育児休業

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 積極的にとった方がよい | 2 どちらかといえばとった方がよい |
| 3 どちらかといえばとる必要はない | 4 とる必要はない |
| 5 わからない | |

(2) 介護休業

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 積極的にとった方がよい | 2 どちらかといえばとった方がよい |
| 3 どちらかといえばとる必要はない | 4 とる必要はない |
| 5 わからない | |

問20 育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思いますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 昇進や昇給に影響する恐れがある | 2 育児・介護休業は女性がとるものだ |
| 3 休業補償が少なく、家計に影響する | 4 仕事の量や責任が大きい |
| 5 職場の理解が得られないと思う | 6 女性の方が育児・介護に向いている |
| 7 男性の方が育児・介護に向いていない | |
| 8 その他（具体的に： | ） |

問21 いま、「育児休業」や「介護休業」をとりやすい環境にあると思いますか。

(○は1つ)

- | |
|----------------------|
| 1 男女共、とりやすい |
| 2 女性はとりやすいが、男性はとりにくい |
| 3 男性はとりやすいが、女性はとりにくい |
| 4 男女共、とりにくい |
| 5 わからない |

問22 高齢社会をむかえ、豊かな老後を送るために、あなたはどのようにしたいと思いますか。

(1) 老後の暮らし (○は1つ)

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | 子どもと同居して扶養してもらいたい |
| 2 | 子どもに経済的な負担をかけず、同居したい |
| 3 | 子どもから経済的な援助を受けて、別居したい |
| 4 | 夫婦（自分）だけで、経済的な援助は受けずに暮らしたい |
| 5 | 高齢者施設（老人ホームなど）に入りたい |
| 6 | その他（具体的に： _____） |

(2) 老後の生きがい (○はいくつでも)

- | | | | |
|---|--------------------|---|-------------|
| 1 | 家族・友人との交流を大切にする | 2 | 趣味を持つ |
| 3 | 文化・講座等のサークル活動に参加する | 4 | ボランティア活動をする |
| 5 | 町内会等の地域活動をする | 6 | 仕事をする |
| 7 | その他（具体的に： _____） | | |

問23 もし、あなたに介護が必要になった場合、誰に身の回りの世話をしてもらいたいと思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|------------------|---|----------------|
| 1 | 配偶者 | 2 | 自分の娘 |
| 3 | 自分の息子 | 4 | 息子の妻 |
| 5 | 娘の夫 | 6 | その他の親族（兄弟姉妹など） |
| 7 | 施設での介護サービス | 8 | 在宅での介護サービス |
| 9 | その他（具体的に： _____） | | |



問24 これからの介護保険制度にとって必要なものは、何だと思いますか。
(○は3つまで)

- 1 高齢者施設の増設と内容の充実
- 2 ホームヘルパーなど在宅サービスの充実
- 3 介護をしている人の精神的な相談窓口の設置
- 4 各種介護制度の説明会や実習などの講座の充実
- 5 金銭や物品の支給
- 6 病院等の医療機関、医療サービスの充実
- 7 介護ボランティアの充実
- 8 あらゆる職場における介護休業制度の導入
- 9 家族や近所の理解及び協力
- 10 予防医療における住民検診の充実
- 11 その他（具体的に： _____）

地域活動についておたずねします。

問25 あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。(○はいくつでも)

	町内自治会・婦人会・老人会・防団などの活動	PTAや子どもの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	生活環境や保護の活動	福祉ボランティアの活動	審議会の決定にかかわる活動	※その他の活動	参加しにくい・参加したくない
(1) 現在参加している	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 今後参加したい	1	2	3	4	5	6	7	8

※ その他の活動（ _____ ）

問26 あなたが、上の問25に示した地域活動に参加する際に支障になることは何ですか。
または、参加しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 活動団体や活動内容を知らない | 2 参加するきっかけがない |
| 3 仕事が忙しい | 4 家事や育児、介護で忙しい |
| 5 気力・体力に不安がある | 6 興味のある活動がない |
| 7 参加することに家族が協力的ではない | 8 経済的余裕がない |
| 9 その他(具体的に： |) |

健康管理についておたずねします。

問27-(1) あなたは、健康診断やがん検診を受けていますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 定期的に毎年受けている | 2 ときどき受けている |
| 3 この3～4年受けていない | 4 ほとんど受けていない |

問27-(2) 上の問27-(1)で「1以外に○をつけた方」におたずねします。あなたが、健康診断やがん検診を受診していない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 受診する機会がないから | |
| 2 検診の受け方(手続き・場所など)がわからないから | |
| 3 家事・育児・介護などが忙しく、受診する時間がないから | |
| 4 仕事が忙しく、受診する時間がないから | |
| 5 医者にかかっているから | |
| 6 病気だと診断されるのがこわいから | |
| 7 費用がかかるから | |
| 8 特に必要がないから | |
| 9 その他(具体的に： |) |

男女間の暴力などについておたずねします。

問28 女性に対する暴力について関心が高まっていますが、あなたの身近で実際に見聞きしたものがありますか。(○はいくつでも)

- 1 女性に対する性暴力
- 2 売春、買春、援助交際
- 3 ドメスティック・バイオレンス（配偶者や身近なパートナーからの暴力）
- 4 職場・地域活動におけるセクシュアル・ハラスメント
- 5 見聞きしたことがない
- 6 その他（具体的に： _____）

問29 ドメスティック・バイオレンス（配偶者や身近なパートナーからの暴力）が、大きな社会問題になっていますが、あなたはどの程度ご存知ですか。(○はいくつでも)

- 1 身近に暴力を受けた人がいる
- 2 自分が実際、暴力を受けたことがある
- 3 自分で暴力をふるったことがある
- 4 言葉や意味は知っているが、実例はない
- 5 言葉自体知らない
- 6 その他（具体的に： _____）

問30 職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたことや見聞きしたことがありますか。(○はいくつでも)

- 1 自分が実際、受けたことがある
- 2 職場や地域で見聞きしたことがある
- 3 言葉や意味は知っているが、実例はない
- 4 言葉自体知らない
- 5 その他（具体的に： _____）

問31 ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発
- 2 不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり
- 3 DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備
- 4 苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実
- 5 それぞれの気持ちの持ち方だから、特に必要なものはない
- 6 その他（具体的に： _____）

問32 メディア（テレビや映画、出版物）における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
- 2 社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている
- 3 社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある
- 4 子どもの目に触れないような配慮が足りない
- 5 女性や男性を偏った表現であらわしている
- 6 特に問題とは思わない
- 7 その他（具体的に： _____）

問33 DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する問題を相談できる機関が県内にありますが、ご存知の相談機関をすべて〇で囲んでください。

- 1 女性相談センター
- 2 女性総合相談所 （くまもと県民交流館パレア内）
- 3 福祉事務所 （宇城市役所福祉部内）
- 4 警察
- 5 1つも知らない
- 6 その他（具体的に： _____）

市に要望する施策についておたずねします。

問34 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	よく知っている	内容(意味)を 多少は知って いる	名称(言葉)は 知っている	全く知らない
アンペイド・ワーク※	1	2	3	4
育児・介護休業法	1	2	3	4
エンパワーメント※	1	2	3	4
家族経営協定	1	2	3	4
ジェンダー※	1	2	3	4
熊本県男女共同参画推進条例	1	2	3	4
男女共同参画宣言都市	1	2	3	4
男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
男女雇用機会均等法	1	2	3	4
パートナーシップ※	1	2	3	4
ポジティブ・アクション※	1	2	3	4
宇城市人権啓発課・男女共生係	1	2	3	4

※ 2枚目の「男女共同参画用語」を参照ください。



問35 「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。
(○は3つまで)

- 1 宇城市の男女共同参画に関する基本条例を制定する
- 2 再就職に役立つ職業訓練、就業情報の提供などの女性の就業支援
- 3 企業や事業主に対する啓発活動
- 4 広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
- 5 母性保護や生涯にわたる健康づくりを支援する
- 6 男性のために、家事能力を高める講座を開く
- 7 リーダー養成など女性の人材育成の推進
- 8 審議会など政策・方針決定過程への女性の積極的登用
- 9 外国人女性との交流や情報提供などの国際交流の推進
- 10 職場における男女均等な取扱いについての周知徹底
- 11 保育サービス（延長保育など）や学童保育などの子育て支援の充実
- 12 男女共同参画社会づくりの拠点施設の建設及び整備
- 13 特にない
- 14 その他（具体的に： _____）

問36 あなたが、市や県などに相談したいと思うことは何ですか。(○は3つまで)

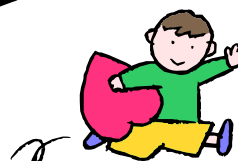
- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 ドメスティック・バイオレンスに関する事 | 2 暴力に関する事 |
| 3 セクシュアル・ハラスメントに関する事 | 4 就職に関する事 |
| 5 キャリアアップ・能力開発に関する事 | 6 介護に関する事 |
| 7 ストーカー行為に関する事 | 8 子どもの教育に関する事 |
| 9 子育てや子育て支援に関する事 | 10 地域活動に関する事 |
| 11 労働条件・労働環境に関する事 | 12 夫婦の問題に関する事 |
| 13 職場の人間関係に関する事 | 14 生き方に関する事 |
| 15 税金や年金などに関する事 | 16 心やからだに関する事 |
| 17 特にない | |
| 18 その他（具体的に： _____） | |

※1, 3については、2枚目の男女共同参画用語集をご覧ください。

男女共同参画に関するご意見やご要望をご自由にお書きください。

質問はこれで終了です。お忙しい中調査にご協力いただき、ありがとうございました。

Thank you



宇城市男女共同参画市民意識調査

【報告書】

平成18年3月

宇 城 市